文部科学省

－がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン－

次代を担うがん研究者・医療人養成プラン

外 部 評 価 報 告(25 年度)

京　都　大　学

三　重　大　学

滋 賀 医 科 大　学

大 阪 医 科 大　学

京 都 薬 科 大　学

－がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン－

平成２５年度《次代を担う研究者・医療人養成プラン》外部評価について

１．外部評価実施方針について

- ２５年度 外部評価は、評価委員による書面評価とする。
- 評価委員については、３名の委員を選任する。
- 外部評価項目については、事業評価ガイドライン（24.3.29 文科省 養成推進委員会）の評価項目を基本として、連携する各大学により設定された「個性や特色、得意分野に応じた各グループ固有の達成目標」及び、事業申請書に記載のあった達成目標とする。

２．評価項目について

「外部評価項目」 （ 3 頁～ 5 頁 ）のとおり

３．「次代を担う研究者・医療人養成プラン」概要について

「各大学の役割分担」、「連携する大学」、「取組の概要」、「事業の目的・必要性」、
「補助事業の実績」、「補助事業に係る具体的な成果」 （ 6 頁～ 9 頁 ）のとおり

４．２５年度取組状況

「２５年度取組状況等」 （ 10 頁～ 30 頁 ）のとおり

（資料１） 募集人数・受入れ人数一覧 （ 31 頁 ）のとおり
（資料２） 全国拠点　目標人数・入学人数一覧 （ 32 頁 ）のとおり
（資料３） がんプロ学生調査（要望・改善点） （ 33 頁～ 34 頁 ）のとおり
（資料４） 全国　新設講座設置状況 （ 35 頁 ）のとおり
（資料５） 事業推進委員会議事録 （ 36 頁～ 40 頁 ）のとおり
（資料６） キャンサーボードの体制 （ 41 頁 ）のとおり
（資料７） インテンシブ研修会等実施一覧 （ 42 頁 ）のとおり
（資料８） 講演会等一覧 （ 43 頁 ）のとおり
（資料９） 国際学会、英文誌への論文発表一覧 （ 44 頁～ 54 頁 ）のとおり
京都薬科大学研究発表一覧 （ 55 頁～ 56 頁 ）のとおり
（資料 10） 海外派遣等一覧 （ 57 頁～ 59 頁 ）のとおり
国内学会・国内視察等一覧 （ 60 頁～ 65 頁 ）のとおり

（資料 11）プロトコル作成への関与状況　　（ 66 頁～ 67 頁 ）のとおり
（資料 12）国内学会・和文誌発表一覧　　（ 68 頁～ 77 頁 ）のとおり

５．評価について

「評価結果表」　　（ 78 頁～ 80 頁 ）のとおり
「講　　評」　　（ 81 頁 ）のとおり

６．外部評価委員について

青森県立中央病院　院長　吉田茂昭
名古屋大学　附属病院化学療法部部長　安藤雄一教授
元京都新聞論説委員（ジャーナリスト）川端真一

７．評価実施日程について

26.3.10～3.20　　評価委員による評価実施（評価項目毎の採点および講評）

「外部評価項目」

共通目標

1. 各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組みはなされているか、

2. がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか

3. コース履修者の満足度を満たすための取り組みがなされているか、

4. がんに特化した新講座の設置計画は計画どおり進められているか、講座の活動状況は、

5. 教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数、

6. 外部委員による外部評価を実施し、PDCA サイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか、

7. 医療チーム（放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等）の整備数、
２５年度の新たな整備数、

8. 多職種が共同で参加できるキャンサーボード等の整備数、２４年度の新たな導入数、

9. 医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組実績、

10. コース履修者の医療チーム、キャンサーボードへの参加人数、開催数、期間等、

11. 院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績

12. 地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数、

13. 社会への情報発信の取組実績（一般向け講演会の開催回数・参加者数）

14. 本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか、

国際交流

15. コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数、

16.　コース履修者の先進的な海外研究機関等への研修派遣数、国際学会等への参加者数、

17.　国際交流プログラムの実施数、

18.　海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数、

19.　コース履修者が海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組 み、

連携大学間・職種間連携

20.　連携５大学による「合同フォーラム」の開催、２５年度の取組み参加状況、

21.　連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数、

22.　連携５大学　コース履修者の e－learning 受講登録率、

23.　新たな e－learning　講義科目の提供の取組みについて、

24.　医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組実績、

教 育 改 革

25.　がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数、

26.　多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況、

27.　がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況、

28. 各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進、

地 域 貢 献

29.　地域医療機関等と連携した地域医療貢献への取組件数、

30.　市民公開講座等一般向け講演会の開催数、

31.　インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況、

32.　各本事業概要等の発行、ホームページの充実への取組み状況、

33.　県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて、

34.　ＩＴを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み、

35.　テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み、

36.　がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み、

研 究 者 養 成

37.　コース履修者が関与したプロトコル（臨床研究実施計画書等）作成件数、

38.　国際学会、英文誌への研究論文発表数、

39.　学会への研究論文の発表推進への取組み、

40.　先進的な海外研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加数、

41.　がんプロ大学院生が国内外学会、研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み状況、

42.　がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況、

43.　新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況

「次代を担う研究者・医療人養成プラン」について

連携する大学

京都大学、 三重大学、 滋賀医科大学、 大阪医科大学、京都薬科大学

各大学の役割分担

コース名	重点区分
京都大学	
次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	③研 究 者
先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	③研 究 者
次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	③研 究 者
新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	③研 究 者
高度ながん研究・がんチーム医療を実践できるがん専門薬剤師(研究者)養成コース	③研 究 者
先端医学物理研究者養成コース	③研 究 者
新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	③研 究 者
外来がん化学療法チーム養成コース（インテンシブ）	②地域貢献
高度放射線治療を担う人材養成コース（インテンシブ）	②地域貢献
地域がん医療を担う薬剤師養成コース（インテンシブ）	②地域貢献
次世代の臨床試験を担う人材養成コース（インテンシブ）	③研 究 者
三重大学	
放射線腫瘍医養成コース	①教育改革
乳腺外科専門医養成コース	①教育改革
がん専門薬剤師養成コース	①教育改革
腫瘍内科専門医養成コース	②地域貢献
婦人科がん治療専門医養成コース	②地域貢献
チーム医療を促進するがん看護を専門とする看護師養成コース	②地域貢献
がん治療医養成コース（インテンシブ）	②地域貢献
緩和医療医養成コース（インテンシブ）	②地域貢献
滋賀医科大学	
地域の放射線治療を支える専門医養成コース	②地域貢献
地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース	②地域貢献
新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース	③研 究 者
新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース	③研 究 者
高度放射線治療を担う医療人養成コース（インテンシブ）	②地域貢献
地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース（インテンシブ）	②地域貢献
大阪医科大学	
化学療法専門医養成コース	②地域貢献
放射線療法専門医養成コース	②地域貢献
がん手術療法専門医養成コース	②地域貢献
京都薬科大学	
がん薬物療法を専門とする薬学研究者養成コース	③研 究 者

※備考 ①教育改革：がん教育改革によるがん専門医療人養成に重点を置くコース
②地域貢献：地域がん医療に貢献するがん専門医療人養成に重点を置くコース
③研 究 者：がん研究者養成に重点を置くコース

事業の概要

本事業は、平成２４年度がんプロフェッショナル養成基盤推進プランで選定された京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学における次代を担うがん研究者・医療人養成プランに関する取組である。このプランにおいては先端的がん研究者の養成と地域がん医療に貢献するがん専門医療人の養成に重点を置く。前者では次代のがん研究、がん診療のイノベーションを担う人材、新規診断法や治療法、ケア法を開発できる人材を養成し、後者では地域のがん診療拠点と連携して、腫瘍内科医、腫瘍外科医、放射線治療医、乳腺専門医、婦人科腫瘍専門医、緩和医療医、がん専門薬剤師、がん専門看護師を養成する。先端研究施設、がんセンター等での分野横断的研究、集学的研究、腫瘍薬学研究等の基盤を整備、同時に集学的医療、全人的医療プログラムの充実、がん教育の推進、５大学間の人材交流を図り、人材養成とがん医療の発展を目指すものである。

事業の目的・必要性

（１）全体

本補助事業の全体の目的は、各大学が蓄積するがん研究者およびがん専門医療人の養成基盤をさらに充実させながら、大学院コースにおける基礎研究能力、臨床研究能力の向上、がん専門医療人教育プログラムの多様化と拡充、地域がん診療拠点病院などとの連携強化ならびに問題点の改善を図り、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの目的である次代のがん研究、がん診療を担う人材の養成に資するため、中長期的視野に立って教育基盤の整備を行うことにある。今後のがん医療の発展には腫瘍学を深く理解し、斬新な発想で画期的な医療技術や診断治療法を開発できる人材が欠かせないが、そのためには高度な基礎研究能力、学際的研究能力を備えた先端研究者を養成することが求められている。具体的には、手術、放射線治療の領域では新しい治療機器や治療方法の開発、薬物療法、婦人科がんの領域では新規医薬品、バイオマーカーの開発、臨床腫瘍薬学分野ではトランスレーショナルリサーチの推進、がん専門薬剤師には国際試験、臨床研究の実施、医学物理学分野では高精度放射線治療の実施、推進と次世代型の放射線治療システムの開発、がんリハビリテーションの領域では臨床エビデンスの創生が必要とされており、これらを担う人材の養成が求められている。

地域がん医療貢献に関しては、集学的医療、全人的医療を実践する優れた腫瘍内科医、放射線治療医、緩和医療医の養成が急務であり、疾病頻度の急激な増加に伴い乳腺専門医や婦人科腫瘍専門医の養成は社会的な要請である。化学療法、支持療法、緩和療法、チーム医療を高度に展開できるがん専門薬剤師、がん専門看護師の養成も重要課題である。さらに、国際的視野をもったがん専門医療人が不足しており、その養成も強く望まれている。京都大学、京都薬科大学はがん研究者の養成に、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学は地域がん医療に貢献するがん専門医療人の養成により重きをおくが、互いに連携協力して人材養成、がん医療の発展に努める。

また、平成１９年度からのがんプロフェッショナル養成プランとして実施し、高度がん

医療を先導する人材養成拠点の形成プログラムにおける取組の充実・発展を図り、本取組を次代を担うがん研究者・医療人養成プランとして拡充することにより、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの目的である次世代のがん研究、がん診療における人材養成基盤の強化を図ることが、本補助事業の目的である。

（2）２５年度

本補助事業の本年度の目的は、上記の次世代のがん研究者、がん診における人材養成基盤の強化を達成するため、がんセンター等での分野横断的、集学的、チーム医療の実践教育の推進、国際的視野を持ったがん研究者・がん専門医療人養成のためのグローバル教育の推進、地域のがん診療拠点と連携したがん教育の推進に重点を置き、必要な教員、事務補佐員の雇用、教育研究プログラムの充実・発展、教材、各種マニュアル等教育研究物品の購入、また、教育・研修プログラムの調査・実施、国際教育プログラムの実施、専用ホームページによる広報活動の充実、一般市民・地方医療機関・関連企業等を対象とした各種研修会、セミナーの実施、および、本事業全体を統括する事業推進協議会の定期的な開催により、基本計画を協議、決定、評価を行い、各事業の円滑な遂行を図ることである。

２５年度事業内容

① 本事業の遂行に必要な教員及び事務職員を雇用し、次代を担う国際的がん研究者、医療人養成の体制を整備し、２５年度がんプロ履修生を募集するとともに、各大学・各コースの養成指導を推進させた。

② 本事業全体を統括する運営委員会を開催し、事業の基本方針・基本計画等を協議・決定するとともに、必要に応じて、連携５大学のみならず、連携病院、学生の評価を取り入れ、また、外部有識者による外部評価を実施した。

③ 研究者養成では、新しい治療機器や治療方法の開発、新規医薬品・バイオマーカーの開発、トランスレーショナルリサーチの推進、国際試験、臨床研究の実施、高精度放射線治療の実施、放射線治療システムの開発、臨床エビデンスの創生などの指導、医療人養成では、地域医療機関とも連携した医療人養成プログラムを充実・発展させた。

④ 各大学において、教材、各種マニュアル等教育研究用物品等を購入し、教育・研究環境の整備充実を図った。

⑤ がん研究者、医療人養成のため、研究論文の発表、カンファレンスの参加、プロトコルの作成、学会への参加、専門医取得講習会への参加を推進させ、また、E-learning システムの活用を推進させた。

⑥ 海外の先端的がん研究施設や教育研修プロジェクトに人的派遣を行い、国際活動、国際貢献の出来る研究者、医療人養成を推進させた。

⑦ 専用ホームページを公開し、社会への積極的な情報公開を行った。

⑧ 一般市民、連携病院、地域医療機関、関連企業等を対象とした包括的ながん医療フォ

ーラムや公開講座、セミナー等を開催するほか、各種研修会、研究会等を実施した。

なお、京都大学、京都薬科大学においては、がん研究者養成に重点を置き、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学においては、がん医療人養成に重点を置くが、互いに連携協力して人材養成、がん医療の発展に努めた。

補助事業に係る具体的な成果

① 本事業の遂行に必要な教員の雇用により、高度な臨床の現場で診療と同時に学生の教育に注力することができ、各大学が蓄積するがん研究者およびがん専門医療人の養成基盤の充実を図ることができる。事務・事務補佐員の雇用により、多様で専門性が要求される本事業の運営を図ることができた。

② 連携大学による共同の「運営委員会」を設置することにより、本補助事業の運営方針についての責任の所在を明確し、連携大学に担当コーディネーターを置くことにより、より細やかな体制を構築することができた。また、外部有識者による外部評価の実施により、ＰＤＣＡサイクルによる事業推進体制を構築することができた。

③ 本プログラムにより、新しい治療機器や治療方法の開発、新規医薬品・バイオマーカーの開発、トランスレーショナルリサーチの推進、国際試験、臨床研究の実施、高精度放射線治療の実施、放射線治療システムの開発、臨床エビデンスの創生に貢献できるがん研究者養成が図られ、また、地域医療機関とも連携して最適な治療を検討できる専門医療人養成が可能となった。

④ 各大学の個性や特色、得意分野に応じた教材、各種マニュアル等教育研究用物品の整備により、実習・研究情報の共有化を図るとともに、教育・研究環境の基盤整備の充実が図られ、新しいがん医療を遂行できる腫瘍外科医・内科医、放射線治療医、がん専門薬剤師、看護師の養成が可能となった。

⑤ 研究論文の発表、カンファレンスの参加、プロトコルの作成、学会への参加、専門医取得講習会への参加を推進させ、また、E-learning システムの活用を推進させることにより、次世代のがん研究、がん診療における人材養成基盤の強化を図ることが可能となった。

⑥ 国際的視野を持ったがん専門医療人が不足し、その養成が強く望まれており、本プログラムでは、海外の先端的がん研究施設との交流、教育研修プロジェクトへの参加、海外腫瘍学会での論文発表を推進させ、海外最先端がん研究、最先端がん医療技術において国際貢献できるがん研究者、医療人への養成が可能となった。

⑦ ホームページの公開により本事業を広く国民に周知することができた。

⑧ 各種のフォーラム、公開講座、セミナー、研修会、研究会等を開催することにより、関連病院、地域医療機関及び関連企業等でのがん医療従事者等に対し本事業の取り組みに対する理解を深めることができるとともに、今後の本事業のプログラムの方向性についての認識を持つことができた。また、連携する５大学間での共同開催を推進させることにより連携を強化することができた。

「２５年度取組状況等」

赤字は、5年間で達成するグループ全体の数値目標

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等
1	各コースの受入目標人数に対する入学者数、 充足率を満たすための取組みはなされているか、	○　5年間での（医療人養成）腫瘍内科医、手術療法専門医、放射線治療専門医、乳腺外科専門医、婦人科腫瘍専門医、緩和医療医、がん専門薬剤師、がん専門看護師を80名養成を目標 ○　5年間での（研究者養成）次世代外科療法、先端放射線治療、新しい薬物療法の開発、新規医療機器、医薬品、診療ケア方の開発研究に携わる研究者、臨床腫瘍学、医学物理学の研究者を100名養成を目標 京都大学： 新入生オリエンテーションにおいて、がん教育の重要性を説明し履修生の獲得に努め、がん研究者養成達成率全国平均　77%を大きく上回る入学者達成率　138% を達成した。 （25年度　京都大学募集人員　21名、入学者数　29名）　（「資料1」のとおり　） なお、京都大学では、24年度においても、全国平均88%に対して225%（募集人員16名に対して入学者36名）を達成していた。 グループ全体の入学者達成率においても、25年度全国平均75%を上回る88%を達成している。　（「資料2」のとおり） 三重大学： 【医師養成コース】がんセンターと大学院のホームページで案内するとともに、がんチーム医療研究会でがんプロのパンフレットを配布している。また、大学院受験者に個別にがんプロの説明案内をおこなっている。 【薬剤師養成コース】がん医療について興味のある当院在職中の薬剤部職員に入学を促している。 【看護師養成コース】がん看護および緩和医療関連学会や三重県内のがん看護関係者が集まる機会にがん看護コースについてのPRを行っている。 なお、【医師養成コース】平成26年度に腫瘍内科医コース2名、乳腺外科専門医養成コース1名、婦人科がん治療専門医養成コース1名の入学を予定している。【看護師養成コース】平成26年度に3名の入学を予定している。 滋賀医科大学： 各コースの受入れ目標数に関して、一部のコースについては受入れ目標人数を越す在籍者がいるが、滋賀医科大学のがんプロコース全体として充足率を満たしていないため、各講演会・セミナーにおいて本事業及びコースの説明を行い、学生の入学を促進している。 新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース：2名 新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース：4名（平成25年度1名入学） 地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース：1名 地域の放射線治療を支える放射線専門医養成コース：1名 大阪医科大学： 受け入れ目標人数を充足するためにホームページや大学院案内などでの広報活動を実施している。 京都薬科大学： 大学ホームページおよび大学院パンフレット等による広報活動をはじめ、本学5～6年次生に対して、学内で大学院説明会を実施している。説明会では大学院進学の意義、「臨床腫瘍薬学」の重要性、がん薬物療法を専門とする薬学研究者養成コース（がんプロコース）等の説明を行い、大学院進学を促進している。　平成25年度：受入目標人数2名に対し入学者1名	（資料1） 「募集・受入目標・入学人数」のとおり （資料2） 「入学実績（全国平均との比較）」のとおり
	がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか、	京都大学： 専門資格取得のための講習会(京都放射線腫瘍研究会　25. 9. 14)、(日本医療薬学会がん専門薬剤師・日病薬がん専門・認定薬剤師認定講習会　26. 2. 22)を行うなど、地域代表としての専門資格取得・更新へ向けた取組みを行うとともに、がんプロ学生が希望する専門資格取得のための教育セミナー、研修会への参加を積極的に支援し認定医取得を推進している。 各コースにおいても、研究室のセミナー等で最新の文献紹介を通して、がん専門薬剤師資格の取得に必要な専門知識を修得する機会を定期的に設けている。また、月に一度症例報告会を実施し、症例のまとめ方などを習得する機会も設けている。平成25年度症例報告会：9回実施した。（薬剤師コース） コース参加の大学院生2名に対し、平成24年度末までに症例の経験を積ませて論文執筆を指導し、2名とも平成25年度の日本婦人科腫瘍学会専門医試験に合格した。(婦人科コース) 領域別、疾患別、診断治療法ごとの各種専門医資格の取得に向けて、必要な経験、特に症例経験の集積等に十分配慮し、研修プログラム・講演を実施した。 (手術療法コース) 専門資格取得のための教育セミナー、研修会への参加を積極的に支援し、また、専門資格取得のための講習会(京都放射線腫瘍研究会)を実施した。 (放射線コース) がん薬物療法専門医取得更新に、必須となる臨床腫瘍学会の教育セミナーおよび学会参加・発表のサポートを行った。その他、Best of ASCOや癌治療学会など、がん薬物療法の知識取得に役立つセミナーなどに派遣した。 (抗悪性腫瘍薬コース)	京都大学： 25年度専門医等認定状況 日本外科学会　外科専門医　認定 2名 がん治療認定医　認定 1名、合格 3名、 日本乳学会乳腺専門医　認定 2名、 検診マンモグラフィ認定医AS判定取得1名 放射線治療専門医　認定 4名、合格1名 第一種放射線取扱主任者　取得 1名 医学物理士　認定 1名、合格 2名 日本感染症学会感染症専門医取得1名 がん薬物療法専門医　合格1名 内視鏡学会専門医　取得 1名 消化器外科専門医　取得 3名、合格 2名

2		三重大学: 【医師養成コース】がん専門資格試験の受験に必要な各がん種別の症例の割り当てを適宜実施している。 【薬剤師養成コース】がん専門薬剤師の資格取得に向け、がん医療に関する臨床経験を積むための業務配属を行っている。 【看護師養成コース】当コースを修了し、資格取得準備段階の看護師を対象に三重がん看護専門看護師会とともに学習会を通じた支援を行っている。 滋賀医科大学: 履修案内において、それぞれのコースに在籍することで、取得が見込まれる学会資格等の概要を掲載しており、資格名・資格要件・取得にむけてのプロセス(入学前・在学中・修了後)を掲載している。また、コース主催の研修会を実施している。 大阪医科大学: 大阪医科大学大学院医学研究科が平成25年度「臨床研究教育研修会」を2回実施(平成25年7月29日・平成26年2月3日)。がんに関する専門資格の取得へ向け、日本の抗がん剤開発の現状や他機関の現状、がん薬物療法の効果等、外部講師による研修会を行った。 京都薬科大学: 「がん専門薬剤師」認定を受けるために、資格取得へ向けた指導を行っている。資格取得条件である「一般社団法人　日本医療薬学会」(5年間の入会が必要)への入会を促している。 入会者人数:4名(がんプロコース履修者全員)	移植認定医取得　2名 肝臓学会専門医　取得1名 日本婦人科腫瘍学会専門医合格 2名 三重大学: 【看護師養成コース】平成25年度がん専門看護師に3名合格。 三重がん専門看護師会との共同勉強会(1回／月平均) 滋賀医科大学: 地域の薬物療法を支える薬剤師養成コース:在籍1名が、日本医療薬学会認定がん専門薬剤師を取得(平成26年1月1日付) 国立がん研究センター主催 相談支援センター相談員基礎研修会(3)修了者　1名 院内がん登録実務初級者研修会修了者　　2名
3	コース履修者の満足度を満たすための取り組みがなされているか、	京都大学: 京都大学では、履修生へ「がんプロへの要望・改善点について」の調査を行うなど、履修生の満足度を満たす取組みをおこなっている。 (履修生より「国内外学会等派遣」、「5大学連携・合同教育セミナー(ソウル)」について、今後も、さらに拡大して続けてもらいたいとの回答を得ている。) また、各コースにおいても、 月2回程度定期ミーティングを行い、情報交換、研究計画進行状況のチェック、アドバイス等を行っている。また国際誌に掲載されたがんリハビリテーション関連の論文を抄読し、知識をupdateするよう務めている。がん関連の学会に積極的に派遣し、情報収集を行わせている。(リハビリコース) 問題点を把握するために、がんプロ大学院生と指導教員や病院薬剤師が常に情報交換できる環境を整備している。(薬剤師コース) 希望に添った研究テーマ、国際発表機会の提供。講座内での定期的な進捗報告会の開催。(放射線治療コース) 研究指導を行い、その成果報告のために、国内外の学会発表と論文作成の指導を行っている。さらに、婦人科腫瘍専門医取得のために、手術指導、症例カンファレンスを行っている。(婦人科コース) 学会、研究会、海外研修等への参加を積極的に推進、最先端の研究を遂行できるように環境を整備、産学連携研究にも参加させている。(手術療法コース) 医学物理カンファ　毎週水曜日16時から実施(がんプロ学生参加)(物理コース) がんプロ教育外来(毎週月、火、木曜日)における診療実習終了時に、各履修生に対して日々のフィードバックを行っている。診療実習を通して、患者との医療コミュニケーションにおける指導を行っている。2～3ヶ月毎に受講者から自己評価シートを提出してもらい、その内容に応じて個人面談を行っている。 (インテンシブ・臨床試験コース) 三重大学: 【医師養成コース】各コースの担当コーディネーターが、責任を持ってコース履修者の指導教育に当たっている。 【薬剤師養成コース】がん薬物療法に関する臨床知識と技術の修得と薬剤業務と研究の進捗管理を定期的に行っている。 【看護師養成コース】全国規模のセミナーや、学内の大学院セミナー、Tumor Board、e-ラーニングなどを紹介している。専門科目の講義には優れた実践家を招き、臨床と基礎理論を結ぶ講義を継続して行っている。なお、がん看護専門科目についての授業評価(総合点)は、平成25年度は4．5～5点(5点満点)であり、継続して高い評価を受けた。 滋賀医科大学: コースのカリキュラムについて、研究者養成コースについては、様々な分野の科目を設定しており、幅広い分野の人材を育成できるよう設定している。 大阪医科大学: 化学療法専門医養成コースでは、カンファレンスや症例検討会において、履修生へのマンツーマン指導が行われている。 京都薬科大学: 平成24年度に引き続き、研究環境整備に努めるほか、学長をはじめ、指導教員とがんプロコース履修学生の意見交換会を定期的に実施している。月1回程度	京都大学: (資料3)「がんプロ学生調査(要望・改善点)」のとおり

4	がんに特化した新講座の設置計画は計画どおり進められているか、 講座の活動状況は、	京都大学: 当初計画どおり、「腫瘍薬物治療学学講座（分野）」を平成24年9月に設置、がんプロ経費にて平成24年12月より新規助教を採用、 平成25年度には、教授1、助教1、兼任助教2の4名により、 1）化学療法を中心とした高度ながん治療の展開を推進させた。 2）化学療法を中心とした新しいがん医療の開発研究を推進させた。 3）化学療法を中心とした優れたがん医療の専門医の養成を推進させた。 三重大学: 【放射線腫瘍学講座】平成24・25年度に1名ずつ計2名の医師が入学しました。また、講座の設置により初期研修説明会を各研修先病院を開催し、研修医への広報活動を活発に行っている。 滋賀医科大学: 平成24年度10月に大学の正規講座として「臨床腫瘍学講座」が設置されており、腫瘍学講義を学部・大学院で担当している。また、附属病院腫瘍内科及び腫瘍センターを運営して、がん診療活動と先進医療開発に従事している。さらに、地域病院と連携したセミナーや市民公開講座等を複数回実施している。また同講座より滋賀県がん対策推進協議会に委員を派遣し、「滋賀県がん対策推進計画」の改定や「滋賀県がん対策の推進に関する条例」の策定に取り組んでいる。 大阪医科大学: さらに質の高い全人的ながん医療を継続的に提供することを目的に本院附属病院にがんセンターを設置し、がんに特化したカンファレンスの実施や症例検討会の開催等が進められている。がん診療に関連する部門をがんセンターとして統括することにより、ず三島圏域全体のがん医療の質と安全の向上に繋がる。	（資料4）「全拠点　講座設置状況」のとおり
5	教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、 開催数と参加者数、	京都大学: 各疾患別の症例カンファレンス、キャンサーボードの実施、さらに特定の病態に特化した疾患横断的な診療ボードを設置、また、講演会等を開催し積極的にFDに取り組んでいる。 また、各コースにおいても、4月18日（木）がんプロ勉強会 北海道大学歯学研究科　樋田京子先生　腫瘍血管にまつわる最新の知見、4月24日（水）がんプロ勉強会 東北大学の石岡千加史先生　がん治療のバイオマーカーにまつわる最新の知見、8月26日（月）がんプロ勉強会 りんくう総合医療センターの位藤俊一先生　乳腺の超音波イメージングにまつわる最新の知見 （手術療法コース） 月に一度、病棟薬剤師とともに症例報告会を行うとともにFDに取り組んでいる。平成25年度症例報告会：9回実施　（薬剤師コース） 特別講演　47thAnnual Meeting of KSMP,　at National Cancer Center, Ilsan, Korea from September13 to September 14, 2013『towarad the next generation radiothrapy』を実施 （物理コース） がん薬物療法専門医更新予定者に、必須となる臨床腫瘍学会の教育セミナーおよび学会への参加・発表のサポートを行った。また、Best of ASCOや癌治療学会、がん薬物療法セミナーなどに派遣した。（抗悪性腫瘍薬コース） 第5回京都がんリハビリテーション研究会を開催した。（リハビリコース） ①毎週の病理カンファレンス（婦人科腫瘍医と病理医、20名参加）、②毎週の画像カンファレンス（婦人科腫瘍医と放射線診断医、20名参加）、③毎週の放射線治療カンファレンス（婦人科腫瘍医と放射線治療医、6名参加）を行っている。また症例に応じ、2週に1度程度、④外科カンファレンスや、⑤泌尿器科カンファレンスに婦人科腫瘍医も参加して症例検討会を行うとともにFDに取り組んでいる。（婦人科コース） また、関連講座においても、 ・骨転移キャンサーボード、月1回第2（または第3）火曜日、15名前後 ・泌尿器科放射線科合同カンファレンス、月2回、20名前後 ・泌尿器科病理診断科合同カンファレンス、週1回、20名前後が実施された。 三重大学: 【医師養成コース】文科省がんプロ近畿3拠点合同事業FD講習会への参加。平成25年度文科省全国がんプロ合同フォーラム放射線治療FDへの参加。文科省がんプロ近畿3拠点合同事業FD講習会（25年11月12日、2名参加）。平成25年度文科省全国がんプロ合同フォーラム放射線治療FD（26年1月21日、2名参加）。 【薬剤師養成コース】指導教員は、薬剤師の関連学会において、FDをテーマとするシンポジウムや教育講演に積極的に参加している。 【看護師養成コース】修士特別研究においては質を向上させるため、看護学全体で研究計画発表会・中間発表会・修士論文公開発表会を行い活発な意見交換を行っている。また、教員自らの研究を紹介する大学院研究交流会も継続して行っている。FD4回／年、参加者毎回40名程度。 滋賀医科大学: 病診連携フォーラムや勉強会を開催し、各教員等に知識を身に付けるようにしている。 新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース教員の関わる講演・研修会10回（約300名）、公開講座1回（約40名）を実施した。 大阪医科大学: 化学療法センターにおいて、化学療法センター特別講義を平成25年12月2日・6日の計2回開催。また、がんセンターにおいて、研修会・先端医療開発部門（キャンサーボード）を、放射線治療装置やPET検査の実際、陽子線治療、ホウ素中性子捕捉療法等に係る現状等について平成26年3月6日に開催する予定である。	

		京都薬科大学: 　がんプロコース履修学生が受講する「特論講義」において、外部招へい講師による特別講義（特別講義終了後に「セミナー」も実施）を実施している。また、大学教員としての指導能力向上を目的とした大学全体としての「FD」については実施しているが、今後は「学部」と「大学院」を区別したFD活動体制について検討し、その体制を構築する計画である。	
6	外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか、	京都大学: 　プログラムの発展的な見直しが行えるよう、24年度に実施した外部評価に引き続き、25年度においても、事業推進委員会において外部評価を実施することが決められ、26年3月10日～3月20日において実施 三重大学: 　5大学　事業推進運営委員会において25年度外部評価を行うことを確認。 滋賀医科大学: 　事業推進運営委員会において毎年度外部評価を行うことを確認、また、滋賀医科大学学外有識者に出席いただき、外部評価を行っている。 大阪医科大学: 　5大学　事業推進運営委員会において、24年度に引き続き、25年度外部評価を行うことを確認。 京都薬科大学: 　京都大学グループとして、毎年度「外部評価」を実施することを確認している。	（資料5）「25年度　がんプロ養成管理委員会議事録」のとおり
7	医療チーム（放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等）の整備数、 24年度の新たな整備数、	京都大学: 　京都大学では、放射線治療医、診療放射線技師、医学物理士からなる放射線治療医療チーム、がん薬物療法専門医、がん看護専門看護師、がん専門薬剤師からなる薬物治療チーム、また、精神緩和に関わる、精神科専門医1名、身体緩和に関わる内科医師1名、さらに緩和薬物治療に対応する専従薬剤師、緩和看護に関わるがん専門看護師2名による癌緩和ケアチームを編成し、緩和外来が開設され、チームで入院患者の診療にあたり教育プログラムにも有効に活用されている。 　臓器別の診療科横断的なユニット診療を実践し（脳腫瘍/小児脳腫瘍ユニット、頭頸部癌ユニット、食道癌ユニット、胃がん/GISTユニット、肺癌・縦隔腫瘍ユニット、乳癌ユニット、膵癌ユニット、大腸癌ユニット、前立腺癌ユニット、小児癌ユニット、原発不明がん/希少がんユニット、計11ユニットプラス全種　1ユニット）教育プログラムにも有効に活用されている。 平成24年度は、小児癌、原発不明/希少癌の2つのユニットを新設。 平成25年度は家族性腫瘍外来を新設した。 　＊ユニットは、癌種ごとに専門診療科(内科、外科、放射線治療科、腫瘍内科、放射線診断科)が、診療科の壁を越えて、カンファレンスはもちろん、同日に外来を行ったり、病棟での診療を行う新しい取組である。 三重大学: 　多職種（腫瘍内科医、麻酔科医、精神科医、漢方医、薬剤師、看護師、臨床心理士、管理栄養士、作業療法士、MSW）による緩和ケアチームが整備されており、緩和ケアチームによる回診、検討会を週2回、月曜日と水曜日に行い、定例会を毎月1回開催した。 滋賀医科大学: 　附属病院腫瘍内科、腫瘍センター化学療法室・緩和ケアチームを設置して運用している。 腫瘍センター内に化学療法室に化学療法チームを配置している（医師6名、他看護師・薬剤師）。 腫瘍センター内に緩和ケアチームを配置し、医師（専従・専任2名）、看護師（専従1名）、薬剤師（専任1名）、ソーシャルワーカー（専任1名）がチーム回診と定例カンファレンスを行っている。 大阪医科大学: 　大阪医科大学では既に他職種により緩和ケアチームが整備されており、毎週月曜日に定例会を開催している。また、平成25年10月19日に緩和ケア研修会を開催した（参加者：29名）。さらには、がんセンターにおいて、研修会・先端医療開発部門（キャンサーボード）を、放射線治療装置やPET検査の実際、陽子線治療、ホウ素中性子捕捉療法等に係る現状等について平成26年3月6日に開催する予定である。	
	多職種が共同で参加できるキャンサーボード等の整備数、25年度の新たな導入数、	京都大学: 　25年12月より、家族性腫瘍外来が開始されたことに伴い、家族性腫瘍ワーキンググループを設立し、各ユニット長がメンバーとして参加。また、26年1月から、婦人科もがん診療部合同委員会に参加することになり、がんセンターと婦人科の連携を深め婦人科腫瘍のサポート体制が構築されるなど、多職種が参加できるキャンサーボードの整備が進められた。 　なお、24年度より立ち上げられた・原発不明癌および希少癌に対するキャンサーボードは、症例発生から1週間以内のon demand開催で、関連する複数の診療科、放射線診断科、放射線治療科、病理科の参加により速やかに治療方針と担当診療科が決定され治療が導入されている。さらにfollow upボードも開催して関係者へのフィードバックも行っている。	京都大学: （資料6）「キャンサーボード一覧」のとおり

8		また、小児癌ユニットについても、小児癌に関連する血液内科、整形外科、脳外科などが参加し、診療科横断的な診療が実践されている。 さらに各コースでのカンファレンス等として、乳がん症例カンファレンスは毎週（新規症例、治療法変更など原則全ての症例に行っている）。骨ボード（骨転移症例）月一度程度定期的に開催、（手術療法コース） 外来化学療法に関する症例検討会を週1回、診療科横断的な連絡会を月1回、京大がんセンターの運営に関する会議を緩和ケア、外科等も交えて隔月に開催している。（抗悪性コース）、 関連講座においても、毎月第３月曜日午前8時―9時　Mortality and Morbidityカンファレンス、入院患者データベースの整備、カンファレンス用データベースの整備、各種職種が参加する移植前カンファレンスの実施、・泌尿器科クリニカルカンファレンス、週2回（月、水曜日）実施　・泌尿器科画像カンファレンス、週１回火曜日実施　・前立腺がんユニットカンファレンス、週１回水曜日、呼吸器カンファレンス（週１）、・骨転移キャンサーボード、月１回第２（または第３）火曜日、・泌尿器科放射線科合同カンファレンス、月2回、・泌尿器科病理診断科合同カンファレンス、週1回、毎週金曜日午前8-9時に呼吸器外科レクチャーの取組みが行われている。 三重大学： 多職種の参加が可能なチューマーボードを毎月第２水曜日に月１回開催している。また、骨転移合同カンファランスを毎月第３月曜日に月１回開催している。 平成２５年度は平成２６年２月までの時点でチューマーボードは計１１回開催し、毎回１００名参加、骨転移合同カンファランスは計１１回開催し、毎回３０名参加。 滋賀医科大学： 平成25年度は計4回開催し、多科の医師、看護師、薬剤師、診療情報管理担当者、臨床研修医、大学院・学部生などが多数参加した。 H25.2.13原因不明癌の1例（35名）H25.6.18前立腺原発の横紋筋肉腫症例(16名）H25.8.28平滑筋肉腫症例(46名）H25.9.17進行神経芽腫症例と左下腿原発の胞巣型横紋筋肉腫症例（22名） 大阪医科大学： 大阪医科大学では既に他職種により緩和ケアチームが整備されており、毎週月曜日に定例会を開催している。また、平成25年10月19日に緩和ケア研修会を開催した（参加者：29名）。さらには、がんセンターにおいて、研修会・先端医療開発部門（キャンサーボード）を、放射線治療装置やPET検査の実際、陽子線治療、ホウ素中性子捕捉療法等に係る現状等について平成26年3月6日に開催する予定である。	
9	医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組実績、	京都大学： 上記キャンサーボードにも記載したように、診療科横断的なキャンサーボードを開催し、診療の質の向上を図り、診療科および職種横断的なカンファレンスを定期的に開催し、診療の質の向上と情報の共有を図っている（具体的には、外来化学療法に関する症例検討会を週1回、診療科横断的な外来化学療法連絡会を月1回、京大がんセンターの運営に関する会議を緩和ケア、外科等も交えて隔月に開催している。（抗悪性腫瘍薬コース） 各履修者の研究専門分野に応じて京大病院の関連するがん診療関連カンファレンス等に参加させ、情報収集、情報交換に当たらせている。（骨・軟部腫瘍リハビリテーションカンファレンス、呼吸リハカンファレンス、がんサポートチームカンファレンス、がん診療部大腸がんユニットカンファレンス、放射線科勉強会など、各履修者が週１～２回） (リハビリコース） 国内外の他大学、がん診療専門施設の医療チームを訪問、ボードの見学、意見交換を実施、また、雑誌、学会等のキャンサーボードへの参加を推進している。（手術療法コース） 関連講座においても、毎月第３月曜日午前Mortality and Morbidityカンファレンス、入院患者データベースの整備、カンファレンス用データベースの整備、各種職種が参加する移植前カンファレンスの実施、・泌尿器科クリニカルカンファレンス、週2回（月、水曜日）実施　・泌尿器科画像カンファレンス、週１回火曜日実施　・前立腺がんユニットカンファレンス、週１回水曜日が実施され情報の共有・横断化への質の向上に努めている。 滋賀医科大学： キャンサーボードを行う際には、できるだけ多くの関連する科の医師.に出席の依頼を行い、十分に多方面から質の高い検討ができるように心がけている。 大阪医科大学： 大阪医科大学では既に他職種により緩和ケアチームが整備されており、毎週月曜日に定例会を開催している。また、平成25年10月19日に緩和ケア研修会を開催した（参加者：29名）。さらには、がんセンターにおいて、研修会・先端医療開発部門（キャンサーボード）を、放射線治療装置やPET検査の実際、陽子線治療、ホウ素中性子捕捉療法等に係る現状等について平成26年3月6日に開催する予定である。	
	コース履修者の医療チーム、キャンサーボードへの参加人数、開催数、期間等、	京都大学： 履修生全員に関連するカンファレンスへ参加するよう指導（新入生には公式参加ではなく見学として参加するよう指導） 骨転移症例カンファレンス（整形外科、放射線治療科、泌尿器科、乳腺外科、外来化学療法部合同）への参加（月1回、コース履修者2名が毎回参加）、乳腺症例カンファレンス（乳腺外科、外来化学療法部、放射線診断科、薬剤部、CRC合同）への参加（週1回、コース履修者4名が毎回参加）、乳腺病理カンファレンス（乳腺外科、外来化学療法部、放射線診断科合同）への参加（週1回、コース履修者2名が毎回参加）（臨床試験コース）	

10		各履修者の研究専門分野に応じて京大病院の関連するがん診療関連カンファレンス等に参加させ、情報収集、情報交換に当たらせている。(骨・軟部腫瘍リハビリテーションカンファレンス、呼吸リハカンファレンス、がんサポートチームカンファレンス、がん診療部大腸がんユニットカンファレンス、放射線科勉強会など、各履修者が(週1～2回)(リハビリコース) 薬物療法カンファレンス 週1回、病理カンファレンス 週1回、画像カンファレンス 週1回、骨転移症例カンファレンス 月1回　乳腺症例カンファレンス 週1回、乳腺病理カンファレンス、乳がんユニットカンファレンスへの参加を指導　(手術療法コース) コースがんプロ学生全員:放射線治療科マンデーミーティング(毎週月曜日)、放射線治療症例検討会(毎週水曜日)、前立腺IMRTカンファレンス(毎週水曜日)、(放射線コース) コースがんプロ学生全員:治療科医師、技師、物理士カンファレンス(毎週月曜日)、放射線治療科マンデーミーティング(毎週月曜日)、医学物理グループカンファレンス(毎週水曜日)、前立腺IMRTカンファレンス(毎週水曜日)、放射線治療症例検討会(毎週水曜日)(先端物理コース) 三重大学: 緩和ケアチームの回診、検討会への参加、チューマーボードへの参加をコース履修者の単位修得の対象として扱っている。 滋賀医科大学: 附属病院腫瘍センターに教育・研修部門を設置している。コース履修者の医療チーム、キャンサーボードへの参加を許可している。 大阪医科大学: 大阪医科大学では既に他職種により緩和ケアチームが整備されており、毎週月曜日に定例会を開催している。また、平成25年10月19日に緩和ケア研修会を開催した(参加者:29名)。さらには、がんセンターにおいて、研修会・先端医療開発部門(キャンサーボード)を、放射線治療装置やPET検査の実際、陽子線治療、ホウ素中性子捕捉療法等に係る現状等について平成26年3月6日に開催する予定である。	
11	院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績、	京都大学:　平成25年度の提出件数 【院内がん登録】 国立がん研究センターへ　3,516件 【地域がん登録】 京都府医師会へ　4,557件 三重大学: 三重大学のがんセンターで地域がん登録を行っているので、三重大学の院内がん登録はすべて地域がん登録と連携しており、平成25年に集計した平成24年度の院内がん登録件数は2518件で、すべてのデータが地域がん登録と連携して活用されている。 滋賀医科大学: 附属病院腫瘍センターにがん登録部門を設置している。 平成24年の院内がん登録件数　1506件 大阪医科大学: 院内がん登録件数:約2500件。地域がん登録として活用されている。	
	地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数、	京都大学: 京都大学では、地域貢献のためインテンシブコースを設置(外来がん化学療法チーム養成コース、高度放射線治療を担う人材養成コース、地域がん医療を担う薬剤師養成コース、次世代の臨床試験を担う人材養成コース)、地域医療機関等と連携した取組みを行っている。 25年度実施の主なものとして、「がんチーム医療研修」年6回開催、「がんチーム医療研修フォローアップ研修会」年1回開催、「高精度放射線治療ワークショップ」年2回開催、「第二回地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブコース」年1回開催を実施。 また、各コースにおいては、コース履修生が滋賀県立成人病センター「地域医療をチームで担う人材育成事業」で、地域のケアマネージャーや薬剤師、看護師等を対象に、がん患者ケーススタディ資料を作成、また講義を担当 (リハビリコース) 京都産婦人科医会および日本産科婦人科学会との連携したがん関係の研究会・学術集会の開催。①2月1日、産婦人科手術化学療法研究会、参加者約100名。②12月13日～15日、アジア・太平洋婦人科腫瘍学会、参加者約1300名。(婦人科コース) 11月30日(土)第6回三重乳腺疾患治療研究会「腫瘍内科・放射線科・乳腺外科における乳腺疾患治療の症例検討」、京都大学　標的治療腫瘍学講座　佐治重衡特定准教授 『多様化する乳癌抗HER2療法の理解のために』を実施 (手術療法コース) その他関連講座においても、 ・前立腺がん検診講習会、2013年6月27日、京都府医師会、65名を実施した。	京都大学: (資料7)「インテンシブコース地域貢献」のとおり (資料8)「その他・がんプロ共催セミナー・講演会等一覧」のとおり

12		三重大学: 【コース共通】三重県医師会、津地区医師会、日本膵臓学会と連携し、パープルリボンin津（膵臓がんに光をあてる）を開催した。三重県内のすべてのがん診療連携拠点病院と地域の医療機関、三重県医師会、三重県病院薬剤師会、三重県看護協会と連携したがんチーム医療研究会を年2回開催し、がん医療に関するセミナー、情報交換を行っている。 パープルリボンin津（平成25年9月16日、377名参加）。第15回がんチーム医療研究会（平成25年9月10日、90名参加）、第16回は平成26年3月14日予定。 【看護師養成コース】三重県看護協会と連携した三重がん看護フォーラム、日本緩和医療学会と連携した三重大ELNEC-Jを開催した。 三重がん看護フォーラム（平成25年5月18日、約100名参加）、三重大ELNEC-J（平成25年12月14・15日30名参加）。 滋賀医科大学: インテンシブコース活動を積極的に行っており、薬剤師会等と連携して定期的にセミナーやconference等を行っている。 地域医師会及び医療機関向けのがんの診断、化学療法、放射線療法、緩和ケア、がん診療連携クリニカルパスに関わる研修会を複数開催している。 25年度　セミナー等開催数：19回、合計参加者数：1003名 地域の薬物療法を支える薬剤師養成コース：開催数6回/合計参加者数575名 地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース：3回（502名） 滋賀県がん薬物療法coference：3回（73名） 新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース：開催数11回/合計参加者数340名 近江八幡市蒲生郡医師会、H25．7．23 （東近江医療圏におけるがんパスの普及に向けた説明会） 30名 東近江総合医療センター、H25．7．31 （東近江総合医療センターにおけるがんパス、がん登録運用を推進するための打合せ） 10名 東近江医師会、H25．8．29（東近江医療圏におけるがんパスの普及に向けた説明会） 30名等 新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース：開催数2回/合計参加者数88名 病診連携フォーラム　H25．6．8（42名） H25．11．9（46名） 大阪医科大学: 平成25年10月19日に緩和ケア研修会を開催した（参加者：29名）。 京都薬科大学: 学内で「臨床薬剤業務セミナー」を定期的に開催している。セミナーでは、地域の現役病院薬剤師を講師として招き、多様な症例について討議を行っている。 ・5/9（木） 腎がんの分子標的薬治療と薬剤師の役割（京都大学医学部附属病院薬剤部） ・6/13（木） 中毒医療における薬剤師の関わり（京都第二赤十字病院薬剤部） ・7/11（木） 抗HIV薬を扱う保険薬局（法円坂ﾒﾃﾞｨｶﾙ） ・9/12（木） 小児科病棟における薬剤師の役割（滋賀医科大学医学部附属病院薬剤部） ・10/10（木） Antimicrobial stewardship の実践に必要な基本的考え方（倉敷中央病院薬剤部）	
13	社会への情報発信の取組実績（一般向け講演会の開催回数・参加者数）	京都大学: 京都大学においては、社会への情報発信として市民公開講座に積極的に取り組んでおり、25年度において、 他拠点大学（京都府立医科大学）との連携で、市民公開講座「我が国に多い消化管がんの診断・治療について」（26．2．22）参加者250名を実施、 また、各コースにおいて、 「日本がん分子標的治療学会市民公開講座」(6/15)参加者100名、 「京都大学　健康科学市民公開講座」(11/9)参加者50名、 3月2日、女性の健康週間市民公開講座、参加者約70名。(婦人科コース) 6月15日（土）「がん薬物治療の最先端と最前線」京都大学　佐治重衡特定准教授、臨床腫瘍薬理学　金井雅史先生、京都大学　乳腺外科　戸井雅和先生、肝胆膵・移植外科　波多野悦郎講師、薬剤疫学　川上　浩司教授 7月21日（日）第7回 『家族性乳癌について』小杉眞司遺伝子診療部教授、『家族が乳癌になったら、私が乳癌になったら家族は？』 村上裕美遺伝子診療部遺伝カウンセラー、『家族性乳癌に対する治療の考え方』京都市立病院乳腺外科　森口喜生先生、京大乳腺外科 高田正泰特定助教 10月20日（日）第8回 「乳がんの手術ってどんなもの？」京都大学乳腺外科 『乳がんの治療について』戸井雅和教授、 『乳房手術の歴史、現在の手術方法についてまで』佐藤史顕准教授、 『リンパ節切除を行う訳とその方法』竹内恵、京都大学形成外科『乳房再建施術について』吉川勝宇助教 3月30日（日）（予定）第9回「女性のホルモン環境と乳癌」『女性ホルモン環境の変動による身体への影響・乳がん治療によるホルモン環境への影響まで』岐阜大学大学院医学系研究科産科婦人科学　古井　辰郎准教授 、 『乳がんとホルモン治療』講演：京都大学医学部附属病院　乳腺外科　津田 萌（手術療法コース） その他関連講座においては、市民公開講座「最先端ロボット支援手術の実際　京都大学医学部附属病院での100例の前立腺癌手術の経験から」2013年5月19日、157名を実施した。 三重大学: 緩和ケアチームの検討会とチューマーボードについて地元テレビで紹介した。 緩和ケアチームの検討会とチューマーボードのテレビ放送（三重テレビ、26年1月28日）	

		滋賀医科大学: 平成26年2月24日(月)14:30から、「がん放射線療法の最新治療から緩和ケアまで」というテーマでがん医療講演会を開催 大阪医科大学: 大阪医科大学:平成26年2月1日にがんセンター設立記念講演会を開催し、社会への情報発信を行った(参加者:300名)。また、平成26年3月1日には、がんセンター第1回市民公開セミナーを実施し、情報発信を行う予定である(参加予定:150名)。 京都薬科大学: 卒後教育講座プログラムを社会人向けに実施している。 ・5/19(日)10:00～16:00　301名 「乳がん薬物治療法の実際」他2セミナー ・6/23(日)10:00～16:00　302名 「慢性骨髄性白血病に対する分子標的治療」他2セミナー	
14	本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか、	京都大学: 京都大学「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」ホームページを開設し、連携する5大学(京都大学・三重大学・滋賀医科大学・大阪医科大学・京都薬科大学)の市民講座、フォーラム、シンポジウムの開催案内を始めとして、地域医療機関への研修案内等、社会へ向けた積極的な情報発信を行っている。 三重大学: 三重大学の大学院のホームページ、三重大学医学部附属病院がんセンターのホームページでそれぞれ本事業の情報公開を行っている。 滋賀医科大学: 本学のホームページにがんプロのホームページにリンクさせており、文部科学省や京都大学のがんプロのページに飛ぶことが可能となっている。また、本学のホームページにおいて、受入人数・授業科目・養成像や実施したセミナー等を掲載している。 大阪医科大学: 本学のホームページから本事業ホームページへとリンクさせており、積極的に情報公開を行っている。 京都薬科大学: 京都大学で開設されているがんプロホームページを本学ホームページにリンクさせている。本学でがんプロ関連の取り組みを行った場合は、京都大学に情報を提供し、ホームページでの公開を行っている。 本学リンクページ:http://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/graduate/	京都大学:　HP http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/
15	コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数、	○　5年間での国際学会、英文誌への研究論文発表　100件を目標 京都大学: 25年度の研究論文発表件数は、74件　　資料　9　(国際学会、英文誌発表)のとおり なお、24年度は、23件であり、順調に国際的視野を持ったがん研究者、がん専門医療人の養成目標を達成している。 三重大学: コース履修者の研修派遣、国際学会への参加に対しては、旅費等の経済的な支援を行っている。また、指導教員による国際学会、英文誌への発表に対する教育・指導が行われている。 米国血液学会でコース履修者が発表(25年12月8-11日、1名) 滋賀医科大学: 地域の薬物療法を支える薬剤師養成コース:1報 Satoshi Noda, Makoto Shioya, Daiki Hira, Yoshihide Fujiyama, Shin-ya Morita, Tomohiro Terada. Pharmacokinetic interaction between sorafenib and prednisolone in a patient with hepatocellular carcinoma. Cancer Chemother. Pharmacol., 72 (1), 269-272 (2013). 新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース履修者1名が第72回日本癌学会で発表を行った。1件 京都薬科大学: 各大学院生を直接指導している教授が熱意をもって研究指導にあたり、国際学会・英文誌への成果発表を促している。各コース履修者の取組状況は別紙のとおり。論文3報(投稿中3報)	京都大学: (資料　9)「国際学会、英文誌発表」のとおり 京都薬科大学: (資料　9－2)「発表論文一覧」のとおり
	コース履修者の先進的な海外研究機関等への研修派遣数、国際学会等への参加者数、	○　5年間での海外の先進的な研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加　60人を目標 京都大学: がんプロ学生の海外派遣　34件　　(資料10)「海外派遣一覧」のとおり なお、25年度は、5大学連携事業で、「ソウル大学合同教育セミナー」(26.1..17～1.19)(教職員等12名、履修生15名参加)を実施	京都大学: (資料10)「海外派遣一覧」のとおり

16		三重大学: コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等への研修に対しては、各コースのコーディネーターがサポートし、旅費等の経済的な支援を行っている。 ソウル大学合同教育セミナー26年1月17-19日(医師3名、看護学生2名参加) 滋賀医科大学: コース履修者に対しては、海外研修、国際学会への参加を積極的にサポートしている。 5大学連携「ソウル大学合同教育セミナー」に、3名参加 大阪医科大学: ソウル大合同セミナーへ2名派遣 京都薬科大学: 2013年1月17日～19日(3日間)の期間、がんプロ5大学連携「ソウル大学病院　合同教育セミナー」に、2名の大学院生(がんプロコース履修者)を派遣した。	
17	国際交流プログラムの実施数、	○　5年間での国際交流プログラムの実施　5件を目標 京都大学: 25年度においては、 1)MDアンダーソンとの交流プログラムにより、「GAP conference MDACC－Kyoto University Symposium」(4/17)を京都大学で開催MDアンダーソンがんセンターより、Dr. Cox、Dr. Komaki、Dr. Ang、Dr. O'Reilly、Dr. Lin　　京都大学より　湊先生、千葉先生、戸井先生、武藤先生、平岡先生が講演、また、MD Anderson Cancer Center GAP 2013 Conference(4/2-4/7) に7名の教員・がんプロ履修生を参加させ、さらに看護師1名を養成のための最新技術習得に派遣(2/2-2/16) 2)韓国ソウル大学との交流プログラムにより、「Kyoto University Education Seminar conjoint with Seoul National University」(8/31-9/1)を京都大学で開催、また、5大学連携により「Seoul-Kyoto Breast Cancer Education Seminar」(1/18)をソウル大学病院において開催、 3)韓国サムソンメディカルセンターとの交流プログラムにより、(26.1.17～1.19) 連携する5大学より27名の教員・がんプロ履修生を国際的がん研究者・医療人養成のため派遣させた。 韓国ソウル大学、韓国サムソンメディカルセンターには、5大学間の人材交流、多職種交流を図るとともに、世界でも有数のがん最先端施設である診療現場を視察し、合同ディスカッション・セミナーを行うことにより国際的視野をもったがん研究者・がん専門医療人養成を推進させることを目的として、京都大学15名、三重大学 5名、滋賀医科大学 3名、大阪医科大学 2名、京都薬科大学 2名の27名が参加した。 4)インド Christian medical collageとの交流プログラムにより、「Medical Physics Research and Education at CMC Vellore」特別講演(10/22)を京都大学で開催、また、がんプロ履修生を放射線測定機器研修のため、「Gel線量測定ワークショップ」(1/6-1/14)インド Christian medical collageへ派遣させた。 5)ベルギー自由大学との交流プログラムにより、がんプロ履修生をインターシップ派遣を行い、先端物理研究者養成のための放射線治療機器技術開発連携等の国際交流プログラムが実施された。 その他、オックスフォード大学、インドTATAがんセンターとGCGC交流プログラム、アメリカのDuke大学婦人科腫瘍学部門との共同研究、韓国Yonseiがんセンターとの交流が継続されており、また、関連講座においても、期前立腺癌PSA監視療法に関する共同研究(PRIAS-JAPAN)、・筋層非浸潤膀胱癌に対する狭帯域光観察を用いたTURBTの有効性と安全性に対する国際共同研究(CROES)が進められ、国際的視野をもった、がん研究者・がん医療人養成を大きく推進させることが出来た。 ソウル大学合同教育セミナー26年1月17-19日(医師3名、看護学生2名参加) 三重大学: 5大学連携「ソウル大学合同教育セミナー」への参加 ソウル大学合同教育セミナー26年1月17-19日(医師3名、看護学生2名参加) 滋賀医科大学: SUMSプロジェクトとしてアジアの提携大学から大学院生1名を継続的に受け入れている。 5大学連携「ソウル大学合同教育セミナー」に、3名参加 大阪医科大学: ソウル大合同セミナーへ2名派遣 京都薬科大学: 2013年1月17日～19日(3日間)の期間、がんプロ5大学連携「ソウル大学病院　合同教育セミナー」に、2名の大学院生(がんプロコース履修者)を派遣した。	

18	海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数、	○　5年間での海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催　10件を目標 京都大学: 「GAP conference MDACC－Kyoto University Symposium」(4/17)を開催 MDアンダーソンがんセンターより、Dr. Cox、Dr. Komaki、Dr. Ang、Dr. O'Reilly、Dr. Linによる講演を実施 インドCMCセンターからProf. Paul Ravindran招聘　2013.10.21-2013.10.25 『CMCセンターの現状、GELファントムの活用法』を講演（物理コース） エジプトのAssiut Universityの産婦人科教授のHosam Salem を講師に迎え 「Special Oncology Seminar on GYNECOLOGICAL ONCOLOGY」(25.4.3)開催 アメリカのBrown University の前医学部長のAdashi先生を講師に迎え教室セミナーを開催(25.11.11)、11月11日。(婦人科コース) 7月1日(月)Meet the Expert in Kyoto-Breast Cancer Research and Clinical Trials State of Arts by Daniel F. Hayes, M.D. Stuart B. Padnos Professor of Breast Cancer Research Clinical Director, Breast Oncology Program University of Michigan Comprehensive Cancer Center Professor, Internal Medicine, Hematology/Oncology （手術療法コース） また、関連講座において、 平成25年4月5日　Killer cells and cancer　Dr. Gerard M. J. Bos(オランダ)　30名 平成25年4月10日　Genetic and epigenetic heterogeneity in childhood leukaemia　Dr.Tariq Enver(イギリス)　30名 平成25年11月11日　THE GERMINAL CENTER REACTION: AT THE CROSS ROAD BETWEEN IMMUNITY AND CANCER　Dr. Stefano Casola(イタリア)　30名 平成25年12月2日　Cancer mutagenesis through APOBEC3-catallyzed DNA cytosiine deamiinatiion　Reuben S. Harris Ph.D.(アメリカ)　30名 平成25年12月9日　Haematopoietic defects due to constitutive GATA2 mutation in humans Dr. Matthew Collin(イギリス)　30名 の海外で活躍する研究者を招へいした講演会を実施 三重大学: 米国のがんの骨転移の専門家を招聘し、講演会を開催。 三重骨転移セミナー(25年4月22日、米国インディアナ大学米田俊之教授、68名参加)。 滋賀医科大学: 新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コースで癌研究会有明病院化学療法科部長を招き、最新のがんチーム医療の講演会を行った(平成25年8月10日、畠清彦、滋賀がん専門医療人育成教育講演2013)。 大阪医科大学: 平成26年3月6日には、第2回がんセンター研修会・先端医療開発部門(キャンサーボード)を実施予定であり、ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)の第一人者である京都大学原子炉実験所・粒子線腫瘍学研究センター中性子医療高度化研究部門の客員教授である小野先生を招へいする予定である。	京都大学: (資料8)「その他・がんプロ共催セミナー・講演会等一覧」のとおり
19	コース履修者が海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み、	○　がんプロ大学院生が海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制を整備することを目標 京都大学: 24年度に引き続き25年度においても、「がんプロ養成管理委員会」において、国際的視野を有した研究者への養成のため、国際学会での発表、がん研究施設への研修に積極的に参加させることが確認され、5月・9月・12月に、がんプロ履修生に海外派遣等の募集を行い、 このサポート体制により、海外派遣　19件、国内派遣　27件を「がんプロ」で実施。 また、5大学間の人材交流、多職種交流を図るとともに、世界でも有数のがん最先端施設である「ソウル大学病院」ならびに「サムソンメディカルセンター」の診療現場を視察し、合同ディスカッション・セミナーを行うことにより国際的視野をもったがん研究者・がん専門医療人養成を推進させることを目的として「5大学連携　ソウル大学合同教育セミナー」を実施、(京都大学15名、三重大学 5名、滋賀医科大学 3名、大阪医科大学 2名、京都薬科大学 2名の27名が参加) 三重大学: コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等への研修に対しては、各コースのコーディネーターがサポートし、旅費等の経済的な支援を行っている。 大阪医科大学: コース履修者が海外の先進的医療・研究機関等へ研修を希望した場合、旅費支給等の助成体制を整備している。 京都薬科大学: 現時点では、サポート体制は整備されていない。ただし、本学「第2期中期計画(2012-2016)第3章　幅広い人材育成のための教育活動　7　大学の国際化」の取組において、大学院生を対象とした留学支援制度の検討を行っている	

20	連携5大学による「合同フォーラム」の開催、 24年度の取組み参加状況、	○　年1回　連携5大学による「合同フォーラム」の開催を目標 京都大学: 　12月22日　三重県津市において　「5大学連携・医療フォーラム」を実施、 　同フォーラムにおいて、履修生（物理コース・椋本）の研究成果『「四次元画像誘導放射線治療の開発」』を発表 三重大学: 【コース共通】平成25年度医療フォーラムの開催 平成25年度医療フォーラム（25年12月22日、62名参加） 【薬剤師養成コース】がん専門薬剤師コースの合同ミーティングを開催する。 京都大学にて開催予定（三重大学主催：平成26年2月22日） 滋賀医科大学: 　25年12月末に三重大学において開催された合同フォーラムに参加し、滋賀医科大学の各コース説明等を説明し、コース在籍者による研究内容の発表を行った。 大阪医科大学: 　平成25年12月22日に連携5大学による「医療フォーラム」において、大阪医科大学における重点区分と特色を発表した。 京都薬科大学: 　2013年12月22日（日）平成25年度医療フォーラム（三重県津市）に参加	
21	連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数、	○　5年間での連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数　30件を目標 京都大学: 　25年6月17日（月）　第一回（5大学）事業推進運営委員会、25年12月22日（日）第二回（5大学）事業推進運営委員会を開催し、同日、「5大学連携医療フォーラム」を開催、また、平成25年8月6日（火）5大学事務テレビ会議を実施、 　25年度はさらに、5大学間の人材交流、多職種交流を図るとともに、世界でも有数のがん最先端施設である「ソウル大学病院」ならびに「サムソンメディカルセンター」の診療現場を視察し、合同ディスカッション・セミナーを行うことにより国際的視野をもったがん研究者・がん専門医療人養成を推進させることを目的として「5大学連携　ソウル大学合同教育セミナー」を実施、（京都大学15名、三重大学 5名、滋賀医科大学 3名、大阪医科大学 2名、京都薬科大学 2名の27名が参加） 　各コースにおいては、連携大学間での情報共有を目的に、第2回がん専門薬学研究者・がん専門薬剤師養成4大学連携合同コース会議を開催（平成26年2月22日）（薬剤師コース） 大阪医科大学のがんリハビリテーションを専門とする医師を、修士課程講義非常勤講師として招請（2013年5月）（リハビリコース） 11月30日（土）第6回三重乳腺疾患治療研究会「腫瘍内科・放射線科・乳腺外科における乳腺疾患治療の症例検討」三重大学腫瘍内科水野聡朗講師　ほか、京都大学　標的治療腫瘍学講座　佐治重衡特定准教授　『多様化する乳癌抗HER2療法の理解のために』 を実施（手術療法コース） 滋賀医科大学: 　平成26年2月22日（土）10時－12時に京都大学医学部附属病院薬剤部において、がん専門薬剤師・薬学研究者養成コース会議を行い、各大学の取り組みを紹介する予定。本学のコース在籍者も発表予定。参加予定者は23名。 　また、近畿地区の病院および医療大学から研修生を受け入れ、化学療法室にて、京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、武庫川女子大学、摂南大学から計36名が研修を行った。合計指導時間 378時間。 緩和ケアについては、京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、武庫川女子大学から計33名が研修を行った。合計指導時間 63時間を実施。 大阪医科大学: 　平成25年11月12日に開催されたがんプロ近畿3拠点合同FD講習会（他拠点）、平成26年1月18日・19日に開催された第2回国際シンポジウム（他拠点）への参加。 京都薬科大学: 　・11/12（火）17:00～　近畿地区3拠点合同事業FD講習会に参加 　・1/17（金）～1/19（日）　京都大学拠点「ソウル大学病院合同教育セミナー」に参加 　・2/22（日）10:00～12:00　がん専門薬剤師・薬学研究者養成コース会議に参加	
	連携5大学　コース履修者の e－learning 受講登録率、	○　連携5大学がんプロ大学院生の e－learning 受講登録100%を目標 京都大学: 　25年度より、従来の京都大学版e－learning に加え、全国版（筑波大学版）e－learning 講義の受講を可能とするため連携校5大学が参加した。 　なお、京都大学版 e－learning については、京都大学がんプロホームページにおいて受講募集案内を行っており、京都大学履修生のうち 91%が受講登録を行っている。他大学における京都大学版 e－learning 受講登録は、滋賀医科大学 100%、三重大学 72%、大阪医科大学100%、京都薬科大学 100%	

22		全国版 e－learningの受講登録は、各大学ともに参加後まもないため低いところであるが、大阪医科大学、京都薬科大学 の受講登録率は、100%となっている。 各大学の受講登録率は、京都大学 40%、滋賀医科大学 38%、三重大学 20%、大阪医科大学 100%、京都薬科大学 100%、 三重大学: 参加後まもないため、さらに全国e-learning受講の指導を勧める。 滋賀医科大学: 連携5大学のe-learningおよび全国e-learningに受講登録させ、受講を積極的に勧めている。 大阪医科大学: 連携5大学のe-learningに登録させ、受講を積極的に勧めている(学生登録率100%)。 全国版 e－learning講義については26名が登録している。(学生登録率100%) 京都薬科大学: 京都大学版 e-learning講義学生受講登録率 100% 全国版e-learning講義学生受講登録率 100%	
23	新たな e－learning 講義科目の提供の取組みについて、	○ 新たな e－learning 講義科目の提供を推進させることを目標 京都大学: 19年度から提供されている京都大学版 e－learning については、24年度からの新規がんプロにおいても提供を続けている。 さらに、25年度より全国 e－learning への授業提供を加えるため、新規授業の撮影を行うもので、京都大学では、25年度に新規7本の講義を撮影・収録した。（5大学合計撮影・収録 11本） ・原発乳がんの治療:エビデンスとコンセンサス(戸井教授) ・APOBEC3: anti-HIV-1 host factor and oncogenesis (高折教授) ・がん幹細胞を標的とした治療戦略の開発(慶応大・佐谷教授) ・The retinoblastoma tumor suppressor protein couples ATM signaling and DNA methylation to regulate cancer progression through eqigenetic mechanism (金沢大・Awad Shamma,M.D.,Ph.D.) ・がん薬物療法(石黒講師) ・血液がんの個別化治療(北野助教) ・胃がん化学療法のエビデンスとプラクティス(宮本助教) これにより、履修生には全国のE－ラーニング授業の受講も可能となり、より分野横断的、先進的教育が推進されると期待される。 三重大学: 25. 12. 22「がんに対するアブレーション治療-ラジオ波治療と凍結治療」および「手に届き始めたがん免疫療法」の2科目を収録提供した。 滋賀医科大学: 25年度、全国e-learning講義1科目(寺田智祐教授・薬剤師養成コース)を収録提供した。 大阪医科大学: 大阪医科大学として、がん薬物療法に係る授業科目を行うべく準備を進めている。 京都薬科大学: 26年2月28日 全国e-learning講義1科目(吉貴 達寛教授)を収録	
	医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組実績、	○ 医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組推進を目標 医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組として、診療科横断的なキャンサーボードを開催し、診療の質の向上を図り、診療科および職種横断的なカンファレンスを定期的に開催し、診療の質の向上と情報の共有を図っている(具体的には、外来化学療法に関する症例検討会を週1回、診療科横断的な外来化学療法連絡会を月1回、京大がんセンターの運営に関する会議を緩和ケア、外科等も交えて隔月に開催している。(抗悪性腫瘍薬コース) 各履修者の研究専門分野に応じて京大病院の関連するがん診療関連カンファレンス等に参加させ、情報収集、情報交換に当たらせている。(骨・軟部腫瘍リハビリテーションカンファレンス、呼吸リハカンファレンス、がんサポートチームカンファレンス、がん診療部大腸がんユニットカンファレンス、放射線科勉強会など、各履修者が週1～2回) (リハビリコース) 専門の異なる各種の専門家が一同に会するように設定するとともに、国内外の他大学、がん診療専門施設の医療チームを訪問、ボードの見学、意見交換を実施、また、雑誌、学会等のキャンサーボードへの参加を推進している。(手術療法コース) 関連講座においても、毎月第3月曜日午前Mortality and Morbidityカンファレンス、入院患者データベースの整備、カンファレンス用データベースの整備、各種職種が参加する移植前カンファレンスの実施、・泌尿器科クリニカルカンファレンス、週2回(月、水曜日)実施 ・泌尿器科画像カンファレンス、週1回火曜日実施 ・前立腺がんユニットカンファレンス、週1回水曜日が実施され情報の共有・横断化への質の向上に努めている。	

24 （9）		三重大学： 三重県内のがん診療連携拠点病院3病院によるがんチーム医療ワークショップを年1回開催している。三重県がんチーム医療ワークショップ（25年11月23日） 【薬剤師・看護師養成コース】三重県がんにおける質の高い看護師育成研修に講師として、医師をはじめ薬剤師2名、看護師8名が参加した。 滋賀医科大学： 全科キャンサーボードを行う際には、できるだけ多くの関連科・部門の医関係者.に出席の依頼を行い、十分に多方面から質の高い検討ができるように心がけている。 25年10月28日に名古屋大学医学部附属病院化学療法部を見学し、チーム医療の実践について情報交換を行った。参加メンバーは本院の腫瘍センター長、薬剤部長、腫瘍センターの医師2名、薬剤師2名、看護師2名であった。 大阪医科大学： 緩和ケア委員会、緩和ケア研修会、化学療法センター症例検討会等等の多職種での取組みを行っている。	
25	がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数、	○　5年間でのがん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績　150件を目標 京都大学： 高精度放射線治療ワークショップ（2回）第24回　10月5-6日、第25回　3月8-9日、京都放射線腫瘍研究会プログラム（1回）、がんチーム医療研修(6回)、がんチーム医療研修フォローアップ研修会(1回)、第2回地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブコース(1回)を実施した。 また、各コースにおいて、履修生が京都府医師会在宅医療提供体制の推進事業の勉強会に参加、大阪府立成人病センターにおけるがんリハビリテーション実習（2013年7月29日～8月2日）に、履修生3名が参加　（リハビリコース） 研修医・修練医のため産婦人科サマーセミナー、温知会サマークリニカルフォーラムを実施（婦人科コース） 三重大学： 三重県内のすべてのがん診療連携拠点病院と地域の医療機関、三重県医師会、三重県病院薬剤師会、三重県看護協会と連携したがんチーム医療研究会を年2回開催し、がん医療に関するセミナー、情報交換を行っている。 第15回がんチーム医療研究会（25年9月10日、90名参加）、第16回は26年3月14日予定）。 滋賀医科大学： 25年8月10日、「滋賀がん専門医療人育成講演2013」および「滋賀制吐療法フォーラム2013」を行い、滋賀県内の医療機関等と情報交換・知識共有を行った。参加人数：64名 大阪医科大学： 近畿3拠点合同事業FD講習会（平成25年11月12日）を実施。大阪府、京都府、兵庫県、三重県の自治体関係者及び近畿3拠点事業推進責任者によるシンポジウム及び特別講演を行った。	
26	多職種連携教育の実施件数・参加者数、 多職種連携教育推進の取組み状況、	○　5年間での多職種連携教育（がんチーム医療研究会（10回・450名）を目標 ○　多職種連携教育の取組推進を目標 京都大学： 京都大学では、がんチーム医療研修(6回)（薬剤師・看護婦・医師72名参加）、がんチーム医療研修フォローアップ研修会(1回)（30名参加）、高精度放射線治療ワークショップ（2回）第24回10月5-6日、第25回3月8-9日、（医師・技師・医学物理士　4名参加）、京都放射線腫瘍研究会プログラム（1回）（医師・技師・医学物理士117名参加）を実施。 また、25年度は、5大学間の人材交流、多職種交流を図るため、「5大学連携　ソウル大学合同教育セミナー」を実施、 （京都大学より放射線コース、リハビリコース、手術療法コース、薬剤師コース、医学物理コース、抗悪性腫瘍コース、看護師の15名、三重大学 より腫瘍内科専門医コース、がん治療医コース、がん看護コースの5名、滋賀医科大学より、腫瘍センター講師、看護師の 3名、大阪医科大学より化学療法専門医コースの 2名、京都薬科大学より薬学研究者コースの 2名の27名が参加） なお、25年度より、従来の京都大学版e－learning に加え、全国版（筑波大学版） e－learning 講義の受講を可能とし、より分野横断的、多職種連携教育が推進される。 三重大学： 三重大学緩和ケアセミナーを年4回開催し、多職種の参加を呼びかけている。三重県がんにおける質の高い看護師育成研修、三重大学医学部附属病院がん看護初級者研修に医師、薬剤師が講師として参加した。 三重大学緩和ケアセミナー（第1回9月19日74名参加、第2回11月14日101名参加、第3回26年1月9日88名参加、第4回3月20日予定）。三重県がんにおける質の高い看護師育成研修（25年12月9日より26年2月まで、7名終了）。三重大学医学部附属病院がん看護初級者研修（26年1月22日より開始、15名終了）。	

		滋賀医科大学: 地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コースで多職種での教育推進、連携を図った。 地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース： 3回実施 大阪医科大学: 大阪医科大学:他職種による緩和ケア研修会を平成25年10月19日に開催した(参加者:29名)。また、がんセンターにおいて、研修会・先端医療開発部門(キャンサーボード)を、他職種参加により開催する予定である。	
27	がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況、	○ 5年間でのがん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会 50名を目標 京都大学: 25年度、京都大学では、京都府健康福祉部とも連携して、「緩和ケア研修会」(2013/6/8-6/9)27名参加、「ELNEC-J研修会」(エンドオブライフケアについて)(2013/9/22-9/23)60名参加、、また、「がん看護に関する研修」を年間15回・各回20名参加を実施。 (6/13.7/25.9/12.9/26.10/10.10/24.11/14.11/28.12/12.12/26.1/9.1/23.2/13.2/27) 三重大学: 緩和ケア研修会終了者に対するフォローアップ研修会を年1回開催している。 緩和ケアフォローアップ研修会(25年8月17日、23名参加) 滋賀医科大学: 25年度、緩和ケアに関わる医療従事者向けの緩和ケア講演会を3回開催、	
28	各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進、	○ 各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進を目標 京都大学: 京都大学では、がんチーム医療研修(6回・薬剤師・看護婦・医師72名参加)、がんチーム医療研修フォローアップ研修会(1回・30名参加)、高精度放射線治療ワークショップ(第24回 2013年10月5-6日(2日間)、第25回 2014年3月8-9日(2日間)・医師・技師・医学物理士 4名参加)、京都放射線腫瘍研究会プログラム(1回・医師・技師・医学物理士117名参加)を実施。 また、各コースでは、神戸大学、大阪成人病センターなどとの合同による「関西がんリハビリテーション研究会」に履修生を派遣(リハビリコース) 三重大学: MDアンダーソンがんセンターで研修を受けた全国の医療チームを招聘して、三重県内のがん診療連携拠点病院の医療チームが参加するがんチーム医療ワークショップを年1回開催している。 三重県がんチーム医療ワークショップ(25年11月23日、3拠点病院から医師、薬剤師、看護師の医療チームが参加した)。 滋賀医科大学: 滋賀放射線治療連絡協会と連携し、滋賀放射線治療勉強会を実施した。	
29 (12)	地域医療機関等と連携した地域医療貢献への取組件数、	○ 5年間での地域医療機関等と連携した地域医療貢献への取組 230件を目標 京都大学: 京都大学では、がん診療連携拠点病院等の医師等に対して「緩和ケア研修会」(2013/6/8-6/9)27名参加、ELNEC-J研修会(エンドオブライフケアについて)(2013/9/22-9/23)60名参加、「がん看護に関する研修」を年間15回・各回 20名参加、(6/13.7/25.9/12.9/26.10/10.10/24.11/14.11/28.12/12.12/26.1/9.1/23.2/13.2/27) 「婦人科腫瘍学セミナー」(4/3)参加者50名、「がん治療のバイオマーカー」(4/24)参加者200名、 また、京大病院薬剤部と近隣の保険薬局との連携研修会に参加し、地域医療貢献についての研修を行っている。平成25年度連携研修会:4回実施 (薬剤師) 第36回 京都放射線腫瘍研究会 9月14日 117名、第37回 京都放射線腫瘍研究会 3月21日100名(放射線) リハビリコースでは、履修生が滋賀県立成人病センター「地域医療をチームで担う人材育成事業」で、地域のケアマネージャーや薬剤師、看護師等を対象に、がん患者ケーススタディ資料を作成、また講義を担当した。 その他関連講座においても、 ・前立腺がん検診講習会、2013年6月27日、京都府医師会、65名を実施した。 三重大学: 【医師養成コース】地域医療機関の医師が参加する緩和ケア研修会を年1回、がん患者の医科歯科連携講習会を年3回開催している。 緩和ケア研修会(26年1月12、13日、31名参加)、医科歯科連携講習会(25年5月26日310	

		名参加、6月16日290名参加、9月8日300名参加）。 【看護師養成コース】三重県がん看護に関わる専門看護師・認定看護師の合同勉強会を開催し、最近のがん医療における話題や事例検討などを行い、互いに研鑽の機会としている。 専門看護師・認定看護師合同勉強会（3月・8月・12月開催、平均30名参加）。 滋賀医科大学： 25年8月10日「滋賀がん専門医療人育成講演2013」および、「滋賀制吐療法フォーラム2013」を行い、滋賀県内の医療機関等と情報交換・知識共有を行った。参加人数：64名 滋賀県と協力し、国庫補助事業の「地域医療支援センター運営事業」を活用し滋賀県医師キャリアサポートセンターを設置し、地域の医療機関との連携を図っている。 大阪医科大学： 平成25年10月19日に緩和ケア研修会を開催した（参加者：29名）。	
30 （13）	市民公開講座等一般向け講演会の開催数、	○　5年間での市民公開講座等一般向け講演会の開催　15件を目標 京都大学： 京都大学においては、社会への情報発信として市民公開講座に積極的に取り組んでおり、25年度において、他拠点大学（京都府立医科大学）との連携で、市民公開講座「我が国に多い消化管がんの診断・治療について」（26．2．22）参加者250名を実施、 また、各コースにおいて、「日本がん分子標的治療学会市民公開講座」(6/15)参加者100名、「京都大学　健康科学市民公開講座」(11/9)参加者50名、 3月2日、女性の健康週間市民公開講座、参加者約70名。（婦人科コース） 6月15日（土）「がん薬物治療の最先端と最前線」京都大学　佐治重衡特定准教授、臨床腫瘍薬理学　金井雅史先生、京都大学　乳腺外科　戸井雅和先生、肝胆膵・移植外科　波多野悦郎講師、薬剤疫学　川上　浩司教授 7月21日（日）第7回　『家族性乳癌について』小杉眞司遺伝子診療部教授、『家族が乳癌になったら、私が乳癌になったら家族は？』 村上裕美遺伝子診療部遺伝カウンセラー、『家族性乳癌に対する治療の考え方』京都市立病院乳腺外科　森口喜生先生、京大乳腺外科 高田正泰特定助教 10月20日（日）第8回　「乳がんの手術ってどんなもの？」京都大学乳腺外科　『乳がんの治療について』戸井雅和教授、 『乳房手術の歴史、現在の手術方法についてまで』佐藤史顕准教授、 『リンパ節切除を行う訳とその方法』竹内恵、京都大学形成外科『乳房再建施術について』吉川勝宇助教 3月30日（日）　予定 第9回「女性のホルモン環境と乳癌」『女性ホルモン環境の変動による身体への影響・ 乳がん治療によるホルモン環境への影響まで』岐阜大学大学院医学系研究科産科婦人科学 古井　辰郎准教授 、 『乳がんとホルモン治療』講演：京都大学医学部附属病院　乳腺外科　津田 萌（手術療法コース） その他関連講座においては、市民公開講座「最先端ロボット支援手術の実際　京都大学医学部附属病院での100例の前立腺癌手術の経験から」2013年5月19日、157名を実施した。 三重大学： がん医療についての一般向け市民公開講座を年2回開催している。 生命の駅伝ジョイント市民公開講座（25年5月26日、152名参加）、第7回市民公開講座（26年3月9日開催予定） 滋賀医科大学： 平成26年2月16日（日）「がん診療の中の放射線治療」というテーマで市民公開講座を開催、滋賀医大が主催したがんに関わる市民公開講座 14件、936名参加 大阪医科大学： 平成26年2月1日にがんセンター設立記念講演会を開催（参加者：350名）。平成26年3月1日には、がんセンター第1回市民公開セミナーを実施予定。	
	インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況、	○　インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進を目標 京都大学： インテンシブコース 地域がん医療を担う薬剤師養成コースでは、京都府薬剤師会との共催で、第2回地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブコースを開催（平成26年2月22日、参加者120名） 外来がん化学療法チーム養成コースでは、「がんチーム医療研修」(6回・地域関連病院薬剤師・看護婦・医師72名参加）、がんチーム医療研修フォローアップ研修会(1回・30名参加）を実施 高度放射線治療を担う人材養成コースでは、「高精度放射線治療ワークショップ」第24回10月5-6日、第25回3月8-9日（2回・関連病院・医師・技師・医学物理士　4名参加）、京都放射線腫瘍研究会プログラム（1回・117名参加）	京都大学： （資料7）「インテンシブ地域貢献」のとおり

31		三重大学: インテンシブコースのセミナーとしてがんチーム医療研究会を年2回、治療早期からの集学的緩和ケアを考える会を年1回開催し、地域の医療機関でがん診療に従事する多職種に参加を呼びかけている。 第15回がんチーム医療研究会(25年9月10日、90名参加)、第16回は26年3月14日予定)。治療早期からの集学的緩和ケアを考える会(25年11月22日、36名参加)。 滋賀医科大学: 薬剤師・放射線コースのインテンシブセミナーの一環として、薬剤師を集めてのセミナーを開催し、地域医療連携を強めている。 地域の薬物療法を支える薬剤師養成コース:3回(合計502名) 滋賀県がん薬物療法coference:3回(合計73名)	
32	本事業概要等の発行、ホームページの充実への取組み状況、	○ 本事業概要等の発行、ホームページの充実を目標 京都大学: 京都大学では、(5大学連携)「次代を担うがん研究者・医療人養成プラン」概要パンフレットを発行。 また、ホームページ・「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」を開設し、がんプロ概要・目的・必要性、各大学の役割、養成する人材像等に関する情報を公開、また、トピックスコーナーにおいて、5大学のシンポジウム、フォーラム等の開催案内、外部評価結果を掲載するなど、広く社会への情報提供に努めている。 三重大学: 三重大学がんセンターのホームページ、年報に本事業の詳細な内容についての案内を掲載し、がんプロのパンフレットを作成し、がんプロ関連の講演会開催時に配布している。 滋賀医科大学: 附属病院腫瘍センターのホームページでがんプロなど本事業についての情報を組み込んでおり、定期的に情報をアップデートしている。 大阪医科大学: 本事業全体の概要等については、主管校の京都大学に情報を集約し発信している。 (http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/) 京都薬科大学: 専用の媒体は制作していないが、大学ホームページでの紹介を行っている。 http://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/project/cancer.html	京都大学: 別添「パンフレット」 HP http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/京都大学「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」 のとおり
33	県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて、	○ 県内でのがん対策の企画、立案への貢献を目標 京都大学: 京都府がん医療戦略推進会議の各部会活動に参加し、府内におけるがん対策の企画立案に貢献(院内がん登録部会、相談支援部会、研修部会、緩和ケア部会、看護師研修に関する会議、外来化学療法部会、地域連携部会) また、各WGにも参加し、府内におけるがん対策の企画立案に貢献(胃がん地域連携パスWG、肺がん地域連携パスWG、大腸がん地域連携パスWG、乳がん地域連携パスWG、肝がん地域連携パスWG、前立腺がん地域連携パスWG) 各コースにおいては、①京都府医師会の子宮がん検診委員となっている。②近畿産婦人科学会の腫瘍研究部会の学術委員長および委員を選出している。(婦人科コース) 履修生が滋賀県立成人病センター「地域医療をチームで担う人材育成事業」で、地域のケアマネージャーや薬剤師、看護師等を対象に、がん患者ケーススタディ資料を作成、また講義を担当(リハビリコース) 三重大学: 三重県のがん診療連携協議会(12病院)と三重県歯科医師会の間でがん患者の医科歯科連携についての協議を行っている。三重県がん検診制度管理検討委員会へ参加し、がん検診の制度向上に貢献している。 第3回がん患者医療連携事業に関するプロジェクトチーム会議(25年4月25日)、平成25年度三重県がん診療連携協議会(25年5月20日、12病院参加)、第1回医療連携連絡協議会(25年5月26日、12病院参加)、三重県の医科歯科連携の協定の締結式を25年6月24日にがん診療連携協議会会長、三重県歯科医師会会長、三重県知事の3者で行った。三重県がん検診制度管理検討委員会(第1回25年7月2日、第2回10月29日、第3回26年3月25日予定) 滋賀医科大学:滋賀県がん対策推進協議会委員として活動し、滋賀県がん対策基本計画(第2期)の作成に携わった。また、滋賀県がん診療連携協議会のすべての部会に職員を委員として派遣しており、県内のがん対策の実行を支援している。 滋賀医科大学: 滋賀県がん診療連携協議会のすべての部会に職員を委員として派遣しており、県内のがん対策の実行を支援している。また滋賀県がん対策推進協議会に委員を派遣し、「滋賀県がん対策推進計画」の改定や「滋賀県がん対策の推進に関する条例」の策定に取り組んだ。 大阪医科大学: 大阪医科大学:大阪府がん診療連携協議会・緩和ケア部会等において、各種研修会等の企画・立案等を行い貢献している。	

34	ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み、	○ ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築を目標 京都大学: インターネットでアクセス可能なサーバーを構築・運用して、関連病院が京大放射線治療プロトコールを閲覧可能としている。(放射線コース) 関連施設と共同で共通のフォーマットでの院内診療データベースを運営しており、定期的にこれらのデータを集約し、web上での利用を推進している。(手術療法コース) 三重大学: 三重県内のがん診療連携拠点病院が中核となり、周辺地域の医療機関とIDリンクによるITを活用した地域連携ネットワーク網の拡大を進めている。 【コース共通】25年度中に8病院に新たにサーバーが導入される予定。25年度は26年1月までに1923施設がITネットワークに参加しており、現時点で4909施設でITによる地域連携医療が稼動している。 第8回三重県地域医療連携連絡協議会(26年2月18日、12医療機関参加)。 滋賀医科大学: 東近江医療圏メーリングリスト、ならびに滋賀県がん診療連携協議会・診療支援部会機関病院メーリングリストを運用し、医療研修に関わる情報を発信した。	
35	テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み、	○ テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上を目標 京都大学: テレカンファレンスシステムを用いた症例検討会を定期的に開催している。(手術療法コース) テレビ会議システムを利用した、5大学事務テレビ会議を実施(25.8.26)(5大学間事務) 三重大学: 三重県内6カ所の病院が参加し、他職種緩和ケアカンファレンスを毎月行っている。タイムリーに解決困難な事例について、互いの専門職を利用し、施設を超えた検討を行っている。 他職種テレビカンファレンス12回(1回/月)実施。 1th Asia Pasific Oncology Nursing Society (Bangkok) にて学会発表 滋賀医科大学: 東近江医療圏の滋賀県がん診療連携支援病院とTV会議システム等を用いた合同カンファレンスの体制を構築している。	
36	がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み、	○ がん医療に関係する企業等との共催・連携推進を目標 京都大学: 京都のがん薬物療法を熱く語る会(がんプロ、田辺製薬共催)、10/31(木)、Kyoto Oncology School(がんプロ、ファイザー製薬共催)、 11/1(金) (臨床試験コース) 第一三共株式会社、生殖医学研究会、4月26日。ヤクルト本社株式会社、京都婦人科腫瘍フォーラム、10月11日。大鵬薬品工業株式会社、関西婦人科腫瘍病理懇話会、11月16日。 (婦人科コース) 7月21日(日) 市民講座 第7回 『家族性乳癌について』小杉眞司遺伝子診療部教授、『家族が乳癌になったら、私が乳癌になったら家族は?』 共催:グラクソ・スミスクライン 10月20日(日) 市民講座 第8回 「乳がんの手術ってどんなもの?」 共催:大鵬薬品 京都大学乳腺外科 『乳がんの治療について』戸井雅和教授、 『乳房手術の歴史、現在の手術方法についてまで』佐藤史顕准教授、 『リンパ節切除を行う訳とその方法』竹内恵、京都大学形成外科『乳房再建施術について』吉川勝宇助教 11月1日(金) 第7回 Kyoto Oncology School 主催:ファイザー株式会社 『初期治療後フォローアップとして定期的な腫瘍マーカー検査や画像診断を行うべきか?』京都大学 外来がん療法部 石黒洋特別講師 パネリスト「'乳癌学会のガイドラインに基づいたフォローアップで十分'を選択」滋賀医科大学 外科学講座 乳腺・一般外科 梅田朋子特任講師、日野記念病院 乳腺外科 糸井尚子医長、「'定期的に腫瘍マーカーやCT・骨シンチなどの検査を行うべき'を選択」 京都大学 高田正泰特定助教、川田有希子先生 特別講演『乳癌の遺伝子異常とBRCA1』 聖マリアンナ医科大学 応用分子腫瘍学 太田智彦教授 (手術療法コース) 最先端研究開発支援プログラム 分子標的放射線治療への参画 (放射線コース) また、関連講座において、平成25年6月1日 第3回 京都血液若手セミナー 共催:ブリストル・マイヤーズ株式会社 参加者数:50名 平成25年7月6日 第8回 Meet the Hematologists 共催:協和発酵キリン株式会社 参加者数:120名 平成25年9月21日 第4回 京都血液若手セミナー 共催:中外製薬株式会社 参加者数:50名 平成25年10月18日 第9回 京滋血液腫瘍感染症研究会 共催:武田薬品工業株式会社/ヤンセンファーマ株式会社 参加者数:40名 H25年12月20日 第57回 同種造血細胞移植問題症例を考える会 共催:協和発酵キリン 参加者数:30名 平成26年1月25日 第5回 京都血液若手セミナー 共催:武田薬品工業株式会社/ヤンセン	京都大学: (資料8)「その他・がんプロ共催セミナー・講演会等一覧」のとおり

		ファーマ株式会社　参加者数：50名　を実施。 第5回胸部腫瘍セミナー、京都テルサ、平成25年11月2日開催、日本イーライリリー株式会社、参加人数70名 ・第238、240回泌尿器科マンスリーミーティング（キッセイ薬品、2013年5月11日、10月12日、約50名） ・第239、241回泌尿器科マンスリーミーティング（バイエル薬品、2013年7月27日、12月14日、約50名） ・第8回泌尿器科京都東山サマーセミナーランチョンセミナー（第一三共株式会社、アストラゼネカ株式会社、2013年8月18日、約75名） ・Urologic Oncology Forum（第一三共株式会社、アストラゼネカ株式会社、2013年7月12日、約60名） ・Pfizer Uroloy Forum（ファイザー株式会社、2014年2月22日、約50名予定） ・Shizuoka Bone Management Conference（ノバルティスファーマ株式会社、2013年6月1日、約10名） ・Forum of Bone and Cancer for Urologists 2013（ノバルティスファーマ株式会社、2013年8月3日、約270名） ・The Best of AUA in Japan 2013（アステラス製薬、2013年10月5日6日、約170名） ・第32回泌尿器科手術研究会（アステラス製薬、2014年3月15日、約150名予定） 三重大学： 【医師養成コース】製薬企業と共催・連携してがん関連のセミナー、講演会を文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン推奨セミナーとして開催している。 平成25年度は既に17回開催しており、カウントできた参加者が延591名・がんプロ院生延24名となった。今後さらに2回開催を予定している。 【薬剤師養成コース】シンフォニアテクノロジーおよびS&Sエンジニアリングと連携して、抗がん剤調整ロボットに関する共同研究を締結し、着手した。 滋賀医科大学： 各製薬会社と共催して、セミナー等を実施した。製薬会社等、共催セミナー数：全14回中8回	
37	コース履修者が関与したプロトコル（臨床研究実施計画書等）作成件数、	○　5年間でのプロトコル（臨床研究実施計画書等）作成　50件を目標 京都大学： 25年度　33件　（24年度　27件） 「資料11（プロトコル作成への関与状況一覧）のとおり 滋賀医科大学： 院内化学療法室で調剤するすべてのレジメンについて、医療安全の確保、がん薬物療法の標準化、院内業務の効率化を目指し、化学療法プロトコール審査委員会で審査および管理を行っている。コース主催の研修会受講者により新規レジメンが45レジメン登録された。	京都大学： （資料11）「プロトコル作成への関与状況一覧」のとおり
38 (15)	国際学会、英文誌への研究論文発表数、	○　5年間での国際学会、英文誌への研究論文発表　100件を目標 京都大学： 25年度　74件（24年度　23件） 資料9（国際学会・英文誌への論文発表一覧のとおり） 三重大学： 国際学会、英文誌への研究発表に関しては、各コースのコーディネーター、関連する診療科が指導、教育を進めている。 滋賀医科大学： 英語で研究成果をまとめ、研究論文を、定期的に提出させている。 地域の薬物療法を支える薬剤師養成コース：1報 Satoshi Noda, Makoto Shioya, Daiki Hira, Yoshihide Fujiyama, Shin-ya Morita, Tomohiro Terada. Pharmacokinetic interaction between sorafenib and prednisolone in a patient with hepatocellular carcinoma. Cancer Chemother. Pharmacol., 72 (1), 269-272 (2013). 25年度、旧がんプロフェッショナル養成プランの大学院生に継続して研究指導を行い、3名が大学院課程を修了し国際雑誌に論文掲載し博士号を取得した。	京都大学： （資料9）「国際学会・英文誌への論文発表一覧」のとおり）

39	学会への研究論文の発表推進への取組み、	○ 学会への研究論文の発表推進を目標 京都大学: 24年度に引き続き、「25年度 がんプロ養成管理委員会」においても、国際的視野を有した研究者養成のため、国際学会での発表に積極的に参加させるとともに、国内においても研究成果を発表させるため国内学会への積極的な参加を推進するための旅費を予算化し発表推進への体制を構築させている。 25年度 国際学会、英文誌への論文発表 74件 (24年度 23件) 25年度 国内学会誌、和文雑誌への論文発表 80件 (24年度 36件) 三重大学: 学会への研究論文の発表に関しては、各コースのコーディネーターが責任を持って指導、教育に当たっている。 滋賀医科大学: 年一回学会での研究成果発表を行い、研究成果をまとめ、研究論文の発表を推進している。 野田哲史, 塩谷 淳, 平 大樹, 藤山佳秀, 森田真也, 寺田智祐 : 肝細胞がん患者においてソラフェニブとプレドニゾロンの相互作用を経験した1症例 , 第30回TDM学会・学術大会 , 2013年5月 (熊本) 野田哲史, 富田圭司, 吉田哲也, 平 大樹, 影山 進, 岡本圭生, 岡田裕作, 森田真也、寺田智祐 : ABCG2およびABCB1の変異をもつ日本人患者においてスニチニブの高暴露により消化管穿孔を来した症例 , 第23回日本医療薬学会 , 2013年9月 (仙台) 地嵜悠吾, 野田哲史, 平 大樹, 森田真也, 矢野義孝, 寺田智祐 : TS-1単独化学療法における消化器症状に及ぼす酸分泌抑制薬と胃切除の影響 , 第23回日本医療薬学会 , 2013年9月 (仙台) Tomohiro Terada, Satoshi Noda, Makoto Shioya, Daiki Hira, Yoshihide Fujiyama, Shin-ya Morita : Drug interaction between sorafenib and prednisolone in a patient with hepatocellular carcinoma , 日本薬物動態学会第28回年会 , 2013年10月 (東京) 野田哲史, 大辻貴司, 吉岡敏彦, 山下寛人, 吉田哲也, 影山 進, 岡本圭生, 岡田裕作, 大西裕之, 平 大樹, 森田真也, 寺田智祐 : 腎細胞がん患者でのスニチニブの血中濃度モニタリングに基づく副作用評価 , 第51回 日本癌治療学会学術集会 , 2013年10月 (京都) また、25年度、新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース履修者においては、旧がんプロフェッショナル養成プランの大学院生に継続して研究指導を行い、履修者3名が大学院課程を修了し国際雑誌に論文掲載し博士号を取得した。また、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの学生1名が日本癌学会のEnglish sessionで口頭発表した。 大阪医科大学: 大阪医科大学:がん薬物療法専門医養成コースについて、第11回 日本臨床腫瘍学会学術集会(1名)、2nd International Symposium of Training Plan for Oncology Professionals(1名)、計2名発表。また、がん手術療法専門医養成コースにおいて、公益社団法人日本産婦人科学会 第65回 学術講演会(1名)、第49回 日本周産期・新生児学会 学術集会(1名)、第54回 日本婦人科腫瘍学会学術講演会(1名)、第36回 日本産婦人科手術学会(1名)、第51回 日本癌治療学会学術集会(1名)、第129回 近畿産科婦人科学会(1名)、第55回 日本婦人科腫瘍学会(1名)、述べ3名が発表 京都薬科大学: 各大学院生を直接指導している教授が熱意をもって研究指導にあたり、学会での成果発表を促している。各コース履修者の取組状況は別紙のとおり。 論文5報(掲載済みおよび掲載許可2報、投稿中3報)・学会発表9件	京都大学: (資料9)「国際学会、英文誌への論文発表一覧」のとおり (資料12)「国内学会誌、和文雑誌への論文発表一覧」のとおり 京都薬科大学: (資料9－2)「発表論文一覧」のとおり
40 (16)	先進的な海外研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加数、	○ 5年間での海外の先進的な研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加 60人を目標 京都大学: 25年度 34 件 (24年度 26件) 資料10 「がんプロ学生海外派遣一覧」のとおり、 三重大学: コース履修者の研修派遣、国際学会への参加に対しては、旅費等の経済的な支援を行っている。 【医師養成コース】腫瘍内科専門医養成コース履修者が米国血液学会で発表(25年12月8-11日、1名)、婦人科がん治療専門医養成コース履修者が『2012年度RFLマイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞』を受賞し、10月よりMD Anderson Cancer Centerへ留学。 【薬剤師養成コース】Memorial Sloan-Kettering Cancer Center への研修1名・The Chemotherapy foundation symposium への参加1名(小林がん学術振興会研究助成)、2nd International Conference on Translational & Personalized Medicine への参加1名。 滋賀医科大学: 海外研究機関への研修派遣、国際学会への参加を促し、研修、学会発表の際には旅費支援をしている。 大阪医科大学: ASCO-GI(Gastrointestional Cancers Symposium)2014、San Antonio Breast Cancer Symposium(12/14)、European Society for Medical Oncology2013(ESMO)(9/28～10/3)、第15回世界肺癌学会(IASLC)(10/26～10/31)へ1名参加。	京都大学: (資料10)「がんプロ学生海外派遣一覧」のとおり

41 (19)	がんプロ大学院生が国内外学会、研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み状況、	○　がんプロ大学院生が国内外学会、研究機関等へ研修する場合のサポート体制の整備を目標 京都大学: 　24年度に引き続き、25年度においても、「がんプロ養成管理委員会」において、研究成果を発表させるため国内学会への積極的な参加を推進するとともに、横断的・専門的教育の実施知識を得るための旅費を予算化し発表推進への体制を構築させた。 　さらに、25年度においては、5大学間の人材交流、多職種交流を図るとともに、世界でも有数のがん最先端施設である「ソウル大学病院」ならびに「サムソンメディカルセンター」の診療現場を視察し、合同ディスカッション・セミナーを行うことにより国際的視野をもったがん研究者・がん専門医療人養成を推進させることを目的として、「5大学連携・ソウル大学合同教育セミナー」を実施。京都大学15名、三重大学 5名、滋賀医科大学 3名、大阪医科大学 2名、京都薬科大学 2名の27名が参加した。 　また、各コースにおいても、国内学会ではfisrt authorの時はコース費用にて負担。各種..研修会にも積極的な参加を促した。(物理コース) がん関連の学会に積極的に派遣し、情報収集を行わせている。(2012年4月第9回呼吸ケアカンファレンス(神戸)　2012年5月第47回日本理学療法学術大会(神戸)　2012年6月第66回日本食道学会学術集会(長野)　2012年7月第10回臨床腫瘍学会学術集会(大阪)　2012年10月第50回癌治療学会(横浜)　2013年1月第2回がんのリハビリテーション懇話会(東京)、第17回日本緩和医療学会、日本サイオンコロジー学会などに参加させている。(リハビリコース)、 三重大学: 　がんプロ大学院生の国内外学会出張に対しては、交通費等の経済的支援を行っている。 【看護師養成コース】コース履修生が日本緩和医療学会5名参加し、1名が発表を行った。 滋賀医科大学: 　がんプロコースに在籍する大学院生が学会等に行く場合、旅費等の必要経費はがんプロの経費から支払い、負担がかからないようにしている。 新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース在籍の大学院生2名は、コースの支援により学内経費によるTA支給と国内の財団から奨学金支給を受けている。 大阪医科大学: 　コース履修生の各種研修参加等については、旅費支給の助成体制を整備している。 京都薬科大学: 　京都薬科大学:研究機関での研修については、各大学院生の指導教授が、受入機関の責任者と直接意見交換し、研修内容を検討し、決定している。また、国内学会での研修については、指導教授が同行して行っている。 　研究機関　・京都大学医学部附属病院　・滋賀医科大学医学部附属病院 　国内学会　・第17回日本がん分子標的治療学会　・第72回日本癌学会総会　・第5回地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース	京都大学: (資料10)「がんプロ学生海外派遣一覧」のとおり (資料10－2)「国内学会、国内研究施設視察の参加状況」のとおり
42	がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況、	○　がん研究基盤の発展構築を目標 京都大学: 　臨床研究の質の向上と研究者の事務的負担を軽減し研究に専念できるように臨床研究を支援する組織(がん医療開発部)を設置し、様々な診療科の臨床研究を支援している。また、家族性腫瘍に関する専門委員会および外来を開設し、研究面・診療面の体制を整備した。(抗悪性腫瘍コース) 腫瘍内科医、乳腺外科医、後期研修医、薬剤師、治験コーディネーター、作業療法士、看護師など多職種で構成される臨床研究推進チームを組織し、毎月の定期的なカンファレンスや研究報告会を通して、臨床研究のデザインや運営における支援を行っている。(臨床試験コース) がん化学療法に用いる薬物の血中濃度測定に必要な分析機器の導入を進め、測定法の確立に向け取り組んでいる。(薬剤師コース) ①卵巣明細胞腺癌の発生、代謝、ゲノムワイドな遺伝子発現に関する研究を行っている。②子宮頸癌の腫瘍と間質のinteractionががんの浸潤に及ぼす役割を調べている。③子宮体部漿液性腺癌の生物学的な特徴を調べ、治療法開発に向けた研究を行っている。④化学療法ががん免疫に与える影響について研究している。(婦人科コース) 基礎分医学との共同研究、産学連携研究への参加、臨床試験の立案などに参加、また、イメージング、数理学的研究の導入等、学際的研究活動の環境を整備している。集学的研究、他部門、他施設との共同研究を実施しやすい環境基盤の整備を行っている。(手術療法コース) 　さらに、関連講座においても、冠動脈疾患合併肺癌における至適周術期管理に関する研究、多施設共同の臨床研究の枠組みの構築、患者検体保存の体制の整備、StageⅣ胃癌に対する3剤併用の術前化学療法phaseII (単施設)、stageII, Ⅲ胃癌の術前化学療法phaseII study (多施設共同)、StageII, Ⅲ胃癌術後に漢方薬を付加することによる化学療法完遂率向上phaseII、直腸癌に対する術前化学療法phaseII(多施設共同)。 関係病院間(7施設)での大腸癌登録システムの構築、・質量分析装置を応用した前立腺癌診断のための新たな尿中分子マーカーの探索、・次世代シークエンサーを用いた腎細胞癌発生の分子機構に関する全ゲノム、エクソーム解析、・患者由来ヒト泌尿器科癌組織(PDTT)を用いたマウス異種移植モデルによる新規治療標的の探索、・泌尿器癌基礎研究の発展的展開、新規技術導入の研究基盤の発展構築へ向けた取組みが継続して行われている。 三重大学: 　ラジオ波治療、凍結療法後の宿主の免疫能解析に関して、臨床、基礎が連携した研究基盤の構築を進めている。 ラジオ波焼灼と凍結療法における免疫反応因子に関する解析研究が倫理委員会で承認され、25年11月より研究を開始した	

		滋賀医科大学: 滋賀医科大学では、最先端の機器を購入し、がんプロコースに在籍する大学院生に機器のトレーニングを行い、研究基盤を支える人材の育成にも力を入れている。次世代シークエンサー、マイクロアレイ、バイオマーカー解析装置などの機器を用いて、がんプロコース在籍の大学院生にトレーニングを行ない、各自の研究に活用している。 大阪医科大学: 大阪医科大学:in vivo 2D/3D 発光・蛍光イメージング IVIS Lumina XR-BFMを設置してがんプロコース履修生にも開放し、がん性疼痛モデル動物を用いてのがんの増殖・転移などの可視化による研究を行うなど、がん研究基盤の発展構築に向けて取り組んでいる。 京都薬科大学: 関連する企業との共同研究は「2件」。 ・新規分子標的治療薬のためのハイスループットスクリーニング系の開発:株式会社ペプチド研究所 ・新規分子標的治療薬のインシリコ創薬:株式会社ファルマデザイン	
43	新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況	○ 新たながん医療分野の開拓推進を目標 京都大学: がん患者さんから提供される生体試料のゲノムおよびオミックス情報と、治療前後の経時的な臨床情報を収集し統合するキャンサーバイオバンクをH25年9月より運用開始した。 がん化学療法の個別化を目的とした遺伝子多型解析やバイオマーカー探索を進めている。また、バイオ後続品の製剤的な性質についても検討している。(薬剤師コース) ①ゲノムワイドな遺伝子発現データをもとに、がん医療の個別化をはかることを目指している。②がん免疫を賦活させる、免疫療法の臨床試験を行っている。(婦人科コース) 国際共同研究、産学連携研究、多施設共同研究を行い、院生がそこに参加し、新しいがん医療分野の開拓を目指した研究を遂行できるように、環境を整えるとともに、新規性の高い機器開発、治療標的の探索に関する研究、新しいがんのバイオマーカー開発を行っている (手術療法コース) 関連講座においても、医療技術実用化総合研究事業 「非扁平上皮非小細胞肺癌に対するペメトレキセドを用いた術後補助化学療法」班での臨床試験(JIPANG試験)、希少癌患者への積極的な治療介入、・JCOG泌尿器癌グループ共同臨床研究、・前立腺癌骨転移症例に対する新規治療戦略の開発に関する多施設共同第三相ランダム化比較試験、・膀胱癌の尿中マーカーとしてのCXCL-1の意義に関する多施設共同研究、・がん免疫療法の分子マーカーPD1、PD-L1発現確認法開発、・限局性あるいは局所浸潤性前立腺癌根治治療後の生化学再発に対する代替補完療法に関する多施設共同研究、・進行性腎細胞癌に対する分子標的療法に関する多施設共同研究、・去勢抵抗性前立腺癌に対するドセタキセルを使用した化学療法に関する多施設共同研究などの新たな医療分野の開拓へ向けた研究の取組みが行われている。 三重大学: がんワクチン、がん遺伝子治療の臨床試験を行っている。肝臓がんだけでなく、肺がん、腎臓がんに対するラジオ波治療、凍結療法を先進医療として行っている。乳がんを中心とした遺伝子診断を行っている。なお、がんワクチン、がん遺伝子治療の臨床試験のエントリー数が着実に増加しており、ラジオ波、凍結療法、遺伝子診断の件数も増加している。 滋賀医科大学: 附属病院での新たな創薬に向けて、腫瘍内科においてがんペプチドワクチン療法の医師主導型臨床試験を実施している。 大阪医科大学: 多施設共同研究へコース履修生が参加し、開拓を目指したがんに対する標準治療の確立等の研究を遂行できるよう環境整備を進めている。 京都薬科大学: Ⓐ一般病院の薬剤師・医師と広く交流し、現場の問題点を解決し、創薬・育薬を中心とした新たな治療法開発に取り組んでいる。Ⓑ新規の多発性骨髄腫患者に投与しているレナリドマイドの血中濃度を測定し(本学「臨床薬学分野」で実施)、市中病院の薬剤師・医師とレナリドマイドの治療効果および副作用発現率と血中濃度の相関について臨床研究を開始した。	

資料１

募集人数・受入れ人数・入学人数一覧

	コースを開設している大学・研究科・専攻名	コース名	修業年限	養成する専門分野	学生が所属する大学名	募集人数						受入目標人数						入学人数		
							H24	H25	H26	H27	H28		H24	H25	H26	H27	H28		H24	H25
①がん教育改革によるがん専門医療人に重点を置くコース	計					20	4	4	4	4	4	15	3	3	3	3	3	8	4	4
	三重大学医学系研究科生命医科学専攻	放射線腫瘍医養成コース	４年	放射線治療医	三重大学	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	2	1	1
	三重大学医学系研究科生命医科学専攻	乳腺外科専門医養成コース	４年	外科系乳腺専門医	三重大学	10	2	2	2	2	2	5	1	1	1	1	1	4	2	2
	三重大学医学系研究科生命医科学専攻	がん専門薬剤師養成コース	４年	がん専門薬剤師	三重大学	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	2	1	1
②地域がん医療に貢献するがん専門医療人に重点を置くコース	計					62	10	13	13	13	13	59	9	12	12	13	13	13	9	4
	三重大学医学系研究科生命医科学専攻	腫瘍内科専門医養成コース	４年	腫瘍内科医	三重大学	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	1	1	0
	三重大学医学系研究科生命医科学専攻	婦人科がん治療専門医養成コース	４年	婦人科腫瘍専門医	三重大学	10	2	2	2	2	2	7	1	1	1	2	2	1	1	0
	滋賀医科大学医学系研究科再生・腫瘍解析系専攻	地域の放射線治療を支える専門医養成コース	４年	放射線治療医	滋賀医科大学	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	1	1	0
	大阪医科大学医学研究科医学専攻	化学療法専門医養成コース	４年	がん薬物療法	大阪医科大学	9	1	2	2	2	2	9	1	2	2	2	2	1	0	1
	大阪医科大学医学研究科医学専攻	放射線療法専門医養成コース	４年	放射線治療	大阪医科大学	9	1	2	2	2	2	9	1	2	2	2	2	0	0	0
	大阪医科大学医学研究科医学専攻	がん手術療法専門医養成コース	４年	がん治療	大阪医科大学	9	1	2	2	2	2	9	1	2	2	2	2	3	2	1
	三重大学医学系研究科看護学専攻	チーム医療を促進するがん看護を専門とする看護師養成コース	２年	がん看護	三重大学	10	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	5	3	2
	滋賀医科大学医学系研究科再生・腫瘍解析系専攻	地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース	４年	薬剤師	滋賀医科大学	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	1	1	0
③がん研究者養成に重点を置くコース	計					128	20	27	27	28	26	104	16	20	23	24	21	75	44	31
	京都大学医学研究科医学専攻	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	４年	がん薬物療法学	京都大学	20	3	4	4	5	4	15	2	3	3	4	3	24	12	12
	京都大学医学研究科医学専攻	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	４年	放射線治療医	京都大学	23	3	5	5	5	5	22	3	4	5	5	5	9	3	6
	京都大学医学研究科医学専攻	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	４年	外科医、泌尿器科	京都大学	18	3	4	4	4	3	15	2	3	4	4	2	18	13	5
	京都大学医学研究科医学専攻	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	４年	婦人科腫瘍専門医	京都大学	10	2	2	2	2	2	8	1	1	2	2	2	3	2	1
	京都大学医学研究科医学専攻 京都大学薬学研究科薬学専攻	高度ながん研究・がんチーム医療を実践できるがん専門薬剤師（研究者）養成コース	４年 ４年	薬剤師	京都大学	10	2	2	2	2	2	5	1	1	1	1	1	3	2	1
	京都大学医学研究科医学専攻 京都大学工学研究科原子核工学専攻	先端医学物理研究者養成コース	４年 ３～５年	医学物理	京都大学	9	1	2	2	2	2	9	1	2	2	2	2	3	1	2
	京都大学医学研究科人間健康科学専攻	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	２年 ３年	がんリハビリテーションを専門とする理学療法士・作業療法士、医師	京都大学	10	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	5	3	2
	滋賀医科大学医学系研究科再生・腫瘍解析系専攻	新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース	４年	がん研究医・がん研究者	滋賀医科大学	9	1	2	2	2	2	5	1	1	1	1	1	2	2	0
	滋賀医科大学医学系研究科再生・腫瘍解析系専攻	新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース	４年	外科医療研究医・外科専門医	滋賀医科大学	9	1	2	2	2	2	5	1	1	1	1	1	4	3	1
	京都薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻	がん薬物療法を専門とする薬学研究者養成コース	４年	臨床腫瘍薬学	京都薬科大学	10	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	4	3	1
	合　　計					210	34	44	44	45	43	178	28	35	38	40	37	96	57	39

資料２

25年度入学実績 （全国平均との比較）

京大グループ			
	募集人員	入学実績数	達　成　率
① がん教育改革・がん専門医療人養成	4	4	100%
② 地域がん医療・がん専門医療人養成	13	4	30%
③ がん研究者養成	27	31	114%
合　計	44	39	88%

全　国　平　均			
	募集人員	入学実績数	達　成　率
① がん教育改革・がん専門医療人養成	393	335	85%
② 地域がん医療・がん専門医療人養成	202	113	55%
③ がん研究者養成	218	168	77%
合　計	813	616	75%

24年度入学人員 （京大グループ・全国平均）

京大グループ			
	募集人員	入学実績数	達　成　率
① がん教育改革・がん専門医療人養成	4	4	100%
② 地域がん医療・がん専門医療人養成	10	9	90%
③ がん研究者養成	20	44	220%
合　計	34	57	203%

全　国　平　均			
	募集人員	入学実績数	達　成　率
① がん教育改革・がん専門医療人養成	268	209	77%
② 地域がん医療・がん専門医療人養成	73	19	26%
③ がん研究者養成	132	117	88%
合　計	476	345	72%

資料３

がんプロ学生調査（要望・改善点）

	項　目	今後のがんプロへの要望等がありましたら記載下さい。	コース名
	改善点	薬剤師としてがんプロに登録しており、必須講義のEラーニングが医師依りに作られていて薬剤師として必要な情報をもう少し整理していただけるとありがたい。 （全国E－ラーニング講義の受講ができるようになりました。全国E－ラーニングでは、薬学の講義科目も充実しており、京都大学E－ラーニングと併用しての受講をお勧めします。）	高度ながん研究・がんチーム医療を実践できるがん専門薬剤師（研究者）養成コース
	その他	いつもありがとうございます。引き続き宜しくお願い致します。	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース
	改善点	Eラーニングを新しくupdateしていただきたいです。特に近年は分子標的治療薬も多いため、Eラーニングにおいて、臨床とも関わりの深い分子生物学的な内容も網羅していただきたいです。 （全国E－ラーニング講義の受講ができるようになりました。京都大学においても7本の新規授業を収録し、京都大学のがんプロ学生だけでなく全国のがんプロ学生へ提供しています。なお、全国E－ラーニング講義では、分子生物学的な内容の授業も受講できます。）	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース
	その他	学生のモチベーションを上げるために、非常によい制度だと思います。 来年度もこのままさらに発展させて頂きたいと思います。	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース
	その他	今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース 河合　隆之
	要　望	発表しなくても学会参加への補助をお願いしたいです。 （原則、発表を伴う学会参加にたいして旅費助成の申請を受け付けています。教育研究上特別に参加が必要な場合には、コース責任者に相談下さい。）	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース
	要　望	がん学会とのコラボレーション （がんプロは、これからも数々のがん関連学会との共催を推進していきます。）	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース
	要　望	海外のメジャーな学会へは演題を出せなくても年１回程度は参加できるようにしてほしい。 （原則、発表を伴う学会参加にたいして旅費助成の申請を受け付けています。教育研究上特別に参加が必要な場合には、コース責任者に相談下さい。）	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース
	要　望	ソウル大学合同教育セミナーでは、ソウル大学の医師だけでなく、関西圏の他大学の学生・医療従事者との交流があってとても有意義だった。このような機会がまたあればよいと思う。	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース
	要　望	現在大阪府立成人病センターの研究室で研究を行っており、平日のセミナーなどへの出席状況などについてはご考慮いただけると嬉しいです。 （出席出来ない場合には、その旨、連絡くだされば結構です。）	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース

	要　望	国内外を問わず、学会参加や研修に対してのサポートを今後も広くお願いしたいと思います。	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース
	要　望	臨床でがん患者さんを診る機会をいただければと思います。	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース
	要　望	癌専門医修練、臨床試験のデザイン、国際学会での発表、論文作成など、幅広く勉強していきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース
	要　望	国外への学会費助成など、大変ありがたく使用させていただいております。今後も変わらない取り組みを継続していただけるようお願いいたします。	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース
	要　望	研修旅費助成では大変お世話になりました。 国際学会での発表は大変良い経験になりますので、是非今後も継続していただきたく存じます。 コース履修者を対象とした研究費の助成等があれば、将来の研究費申請に向けた良い経験になると思います。 優秀論文に対する表彰等があれば、良いモチベーションになると思います。 最終学年のがんプロ学生に対して、業績による表彰等があれば、在学中のモチベーション向上に繋がると思います。	先端医学物理研究者養成コース
	その他	いつもありがとうございます。	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース
	要　望	学会・研究会への参加に関わる経費を援助していただけるのは大変ありがたいです。今後ともよろしくお願いいたします。	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース
	要　望	今年で卒業となりますが、研修旅費を出していただけることは学生にとっては非常に助かります。ありがとうございました。	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース
	要　望	英文校正なども含め、論文の投稿にかかる費用に補助があるとよい。	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース
	要　望	がんプロの催し物の通知がこないことがあります。 （一斉メールで送信した場合に、迷惑メールに入っていたとの報告があります。メール設定をお願いします。また、ホームページもご覧下さい。）	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース

資料４

全国　新設講座設置状況

大学名	名称	分類	目的	体制	総計	専任						兼任						設置年月
						計	教授	准教授	講師	助教	その他	計	教授	准教授	講師	助教	その他	
京都大学	京都大学大学院医学研究科医学専攻腫瘍薬物治療学分野	化学療法	1）化学療法を中心とした高度ながん治療を展開する 2）化学療法を中心とした新しいがん医療の開発研究を推進する化学療法を中心とした優れたがん医療の専門医を養成する	[計画] 教授1(専任)、 准教授1(専任)、 助教1(専任)	3	3	1	1		1		0						H24.09
				[実施] 教授1（専任）、 助教1（専任）、 助教2（兼任）	4	2	1			1		2				2		
三重大学	三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻放射線腫瘍学講座	放射線療法	医学部、大学院での放射線治療の教育を充実させることにより、放射線治療医の育成を強化し、三重県の放射線治療レベルの向上に貢献することを目的とする。	[計画] 教授1名(専任)、 助教1名(専任)	2	2	1			1		0						H24.04
				[実施] 教授1名(専任)、 助教1名(専任)	2	2	1			1		0						
滋賀医科大学	滋賀医科大学医学部臨床腫瘍学講座	化学療法 その他	最新のがん薬物療法を促進するとともに、がんの予防、診断、治療の面から高度先進がん医療の研究・臨床展開と教育を通じたがん専門医・医療スタッフの育成を推進し、社会に貢献する。	[計画] 教授(専任)1名、 講師(専任)2名、助教(専任)1名	4	4	1		2	1		0						H24.10
				[実施] 教授(専任)1名、 講師(専任・兼任)各1名、 助教(兼任)１名	4	2	1		1			2			1	1		

資料５

平成２５年度 第一回 事業推進運営委員会　議事録

日　時：　平成２５年６月１７日（月）１５時００分～１６時３０分
場　所：　京都大学　芝蘭会館２Ｆ　会議室

議　題

１）２５年度　医療フォーラムの開催について

２５年度「医療フォーラム」の担当を、三重大学とすることが確認され、三重大学より、日時・場所については未定であるが、連携する地域病院からの参加を見込んで、１２月または１月の土・日曜日に、津市のホテルでの開催を考えているので、よろしくご協力願いたいとの発言が行われた。
なお、事業推進委員長より、来年度以降の担当大学について、当初、５大学持ち回りという考え方であったが、２４京大、２５三重大、２６京大、２７滋賀医科大、２８京大の案について、次回、意見を伺うこととなった。

２）２４年度外部評価結果および２５年度外部評価の実施について

２４年度外部評価については、別冊「評価報告書」のとおり取りまとめられ、がんプロＨＰにおいて公表されていることが報告された。
なお、２５年度の外部評価の実施方法について、実施予定日は年度実績報告が可能となる２月・３月の実施を予定していること、評価項目については、文科省へ提出済みであり、原則として同じ項目となるが、各大学の特色ある項目を追加することは可能であり申し出ていただきたい。また、５大学関係者・外部評価委員が一同に集まり、外部評価委員会を開催するか、２４年度と同じく書面評価とするか、各大学の意見を伺い、次回、実施方法を決めることが確認された。

３）５大学連携　がんプロ履修生 海外がん研究施設等への派遣について

５大学連携事業の推進、国際的視野を持ったがん研究者・医療人の養成、職種間連携の目標を達成するため、「５大学連携　合同教育セミナー等」を企画しており、日時・施設等を決定次第連絡するので、その際には、各大学より履修生を推薦することが確認された。

４）全国版 Ｅ－learning クラウドの参加について

資料１－１「京都大学のＥ－learning クラウド参加方針」により、京都大学の方針が説明され、資料１－２「７月４日開催Ｅ－learning クラウド説明会」により、７月４日午後２時より筑波大学による説明会が実施されることが説明された。
なお、資料１－３「教育コンテンツ帰属および公開範囲」、資料１－４「コンテンツ収録フロー」、資料１－５「著作物利用に関するガイドライン」、資料１－６「参画に関する承諾書」により、各大学毎に、「参加・不参加」、「単位取得　有・無（聴講のみ）」、「聴講範囲　全国・５大学・自大学のみ」、「聴講範囲　学生のみ・教員も可・医療関係者」、

「インテンシブコース履修者への聴講許可」等々について、それぞれ決めることが確認された。

報　告

１）２５年度 分担金配分について

２５年度 分担金配分について、前年度比△200 千円の 140,194 千円の配分であったこと、また、滋賀医科大学は、１年前倒しで新講座を設置され、講座設置に伴う分担金を 100 万円増とする措置となったこと、三重大学、大阪医科大学、京都薬科大学の分担金は、前年度同額であることが報告された。

２）２５年度 全国がんプロ協議会（５月２１日開催）報告

別紙　議事録のとおり、

３）２５年度 近畿地区３拠点（阪大・近畿大・京大）合同フォーラムの開催について

２４年度は大阪市立大学当番で、京都大学、大阪医科大学が参加した「近畿地区３拠点合同フォーラム」は、継続されることになり、２５年度当番を阪大、２６年度当番を京大、２７年度当番を近畿大となり、来年度、京大当番となることから、参加可能な大学からは参加いただきたいので、改めて案内させていただくとの報告が行われた。

４）２５年度 全国がんプロ拠点合同 FD フォーラムの開催について

２４年度　ポスターセッションは、京都大学・滋賀医科大学で対応し、FD フォーラム（緩和医療）には、三重大学に参加いただいた。
２５年度は、平成２６年１月２１日（火）場所：東京大学　山上会館で、FD フォーラムは、放射線と聞いており、放射線コースを持つ大学より参加いただくことになると考えられ、ポスターセッションと併せて、改めて参加依頼させていただくとの報告が行われた。

５）その他

次回開催予定日は、「２５年度　医療フォーラム」との同時開催として、三重大学に会場の確保等よろしくお願いいたしたい。

25 年度
「5 大学連携・医療フォーラム」

資料５－２

平成２５年度 第二回 事業推進運営委員会 議事録

日　時：　平成２５年１２月２２日（日）１３時００分～１３時４５分

場　所：　三重県津市羽所町７００

ホテルグリーンパーク津　６F『 木犀の間 』(TEL 059-213-2111)

協議に先立ち

・「医療フォーラム」について

三重大学より、本日の「医療フォーラム」において、一部プログラムが変更されたこと、および、フォーラムへの協力依頼が行われた。

・　第一回議事録（案）について

第一回議事録（案）をもって、第一回議事録とすることが確認された。

協議事項

１）２５年度「外部評価」実施方法について

資料１により、２５年度の外部評価の実施方法については、２４年度に引き続き「書面評価」、「評価委員３名」とし、「評価項目・４３項目」とすることが確認された。

なお、事業推進責任者より、２４年度評価報告書を参考に、実施されているにも関わらず報告されていない取組みも見受けられ、さらに正確な実績報告を行っていただきたいとの発言が行われた。

２）２６年度「医療フォーラム」担当大学について

来年度以降の「医療フォーラム」の担当大学について、当初、５大学持ち回りとされていたが、２４年度・京大、（今回）２５年度・三重大、２６年度・京大、２７年度・滋賀医科大、（最終）２８年度・京大とすることが確認された。

また、２６年度は、「近畿地区３拠点合同フォーラム」もあり、来年１２月にまとめて１日で実施する方向で考えており、次回、実施方法等について意見を伺うこととなった。

３）２６年度予算配分方針等について

２５年度予算配分は、２４年度と比べて２０万円の減額となった。２６年度についてもこの程度であれば、京都大学で対処することになるが、百万以上の減額となった場合には、原則、各大学への配分比率をもって減額配分することが確認された。

また、減額配分となる場合には、事前に各大学へ連絡調整することが併せて確認された。

報　告

１）５大学連携「ソウル大学合同教育セミナー」について（１/17-18）

資料　２に基づき、参加者が２７名となったこと、また、詳しくは、この委員会終了後、京大・戸井先生によって説明会が行われることが報告された。

また、事業推進責任者より、同事業については、２６年度も継続することを予定しており、今回のセミナーの実施報告を待って、今後の派遣先や内容等のご意見を伺うとの報告が併せて行われた。

２）２５年度 全国がんプロ拠点合同ＦＤフォーラムについて

資料　３に基づき、１月２１日（火）東京大学において実施される「放射線治療フォーラム」についての報告が行われ、併せて、ポスター発表に、他大学の事務より１名参加願う予定であることが報告された。

３）２６年度「近畿地区３拠点（阪大・近畿大・京大）合同フォーラム」について

協議事項・２６年度「医療フォーラム」において、次回委員会で実施方法等について意見を伺うこととなった。

４）全国版 Ｅーラーニングクラウドについて

現在、京都大学で４本収録、滋賀医科大学で１本収録済みで、本日の特別講演の収録が、三重大学により行われることが報告され、大阪医科大学、京都薬科大学に、収録協力の依頼が行われ、また、学生の聴講登録についても積極的に進めるよう求められた。

５）２５年度予算執行および２６年度計画調書等について

２５年度予算執行について、年度末執行を避け、また、がんプロ養成への成果・関係という観点で調査を受けていることが報告され、２６年度　計画調書の作成依頼が年明けにあるので、来年度の事業計画・購入計画についての協力要請が行われた。

６）その他

引き続き、「ソウル大学合同教育セミナー説明会」を行うため、関連する教員・事務の出席が求められた。

25 年
第二回事業推進運営総会

別添資料１

平成２５度《次代を担う研究者・医療人養成プラン》外部評価について

１．外部評価方法について

・　２５年度 外部評価は、評価委員による書面評価とする。

・　評価委員については、３名の委員を選任する。

・　外部評価項目については、事業評価ガイドライン（24.3.29 文科省 養成推進委員会）の評価項目、今回、設定された「個性や特色、得意分野に応じた各グループ固有の達成目標」及び、事業申請書に記載のあった達成目標とする。

２．評価項目について

別添「達成目標・２５年度取組状況等」（案）のとおり

３．評価委員について

青森県立中央病院　院長　吉田茂昭
名古屋大学　附属病院化学療法部部長　安藤雄一教授
元京都新聞論説委員　　川端真一

４．評価実施日程について

26.1.14～2.14	実績調査 （他大学および京都大学各コース、がんプロ学生、関連教員等）
26.2.17～3.7	評価資料とりまとめ
26.3.8	評価委員へ評価資料を送付
26.3.10～3.20	評価委員による評価実施（評価項目毎の採点および講評）
26.4～	評価報告書作成およびＨＰ公表等

資料６

キャンサーボードの体制

	キャンサーボード名	がん種	メンバーの診療科名	メンバー職名・職種（◎:リーダー）	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合
1	前立腺がんユニットカンファレンス	前立腺がん	放射線科、泌尿器科	◎泌尿器科医、放射線治療医、看護師	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
2	脳腫瘍ユニットカンファレンス	脳腫瘍	脳神経外科　放射線治療科　小児科	◎脳神経外科医　放射線治療医　小児科医　看護師	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
3	乳がんユニットカンファレンス	乳がん	乳腺外科 腫瘍内科　放射線診断科　病理科	◎乳腺外科医　乳腺外科部長　腫瘍内科医　放射線診断医　病理医	新規、継続治療患者のの治療並びに診断の標準化を行う。	75-100%
4	食道がんユニットカンファレンス	食道がん	消化管外科 放射線治療科 消化器内科 耳鼻咽喉科	◎消化器内科医、消化管外科医、放射線治療医、耳鼻科医、理学療法士	新規治療開始患者および再発患者の治療方針の検討および経過報告をする。	全例実施
5	肺がんユニットカンファレンス	肺がん（一部良性疾患）	呼吸器内科　呼吸器外科　放射線治療科　放射線診断科	◎呼吸器内科助教、呼吸器内科医、呼吸器外科医、放射線治療科医、放射線診断医	集学的治療を要する患者の治療方針検討、他科への治療依頼、治療難渋例についてのディスカッション	25%未満実施
6	膵がんユニットカンファレンス	膵がん	内科、放射線科、外科	◎肝胆膵腫瘍外科医、腫瘍内科医、放射線治療医、放射線診断医、消化器内科医、消化器外科医、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
7	頭頚部がんユニットカンファレンス	頭頸部がん	耳鼻咽喉科　放射線治療科	◎耳鼻咽喉科副部長、耳鼻咽喉科医、放射線治療医	新規患者の検討をする。	全例実施
8	胃がん・GIST	胃がん GIST	消化管外科 消化器内科 腫瘍内科 放射線治療科	◎腫瘍内科医、消化管外科医、消化器内科医、放射線治療医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上100%未満
9	大腸がん	大腸がん	消化管外科 肝胆膵外科 消化器内科 腫瘍内科 放射線治療科	◎腫瘍内科医、消化管外科医、肝胆膵外科医、消化器内科医、放射線治療医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上100%未満
10	小児がんユニットカンファレンス	各種小児がん、骨・軟部腫瘍	小児科、整形外科、小児外科、放射線治療科・病理診断科、呼吸器外科、泌尿器科、耳鼻科、眼科	◎小児科医、整形外科医、小児外科医、放射線治療医、病理診断科医、呼吸器外科医、泌尿器科医、耳鼻科医、眼科医	新規治療開始患者、治療中患者の治療方針決定および経過報告をする。	全例実施
11	原発不明・希少がん	原発不明癌 希少癌	血液内科 小児科 肝胆膵移植外科 呼吸器内科 消化管外科 乳腺外科 消化器内科 腫瘍内科 整形外科 婦人科 放射線治療科 放射線診断科 病理	◎腫瘍内科医、血液内科医、小児科医、肝胆膵移植外科医、呼吸器内科医、消化管外科医、乳腺外科医、消化器内科医、整形外科医 、婦人科医、放射線治療医、放射線診断医、 病理医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上100%未満
12	がんサポートチームカンファレンス	全種	精神科 放射線治療科	◎精神科医、外来化学療法部長、放射線治療医、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、理学療法士、緩和ケア医	新規依頼患者および継続診察患者の支援方針の検討および経過報告をする。	全例実施

資料７

平成25年度　インテンシブコース実施事業

（　　）の数字は参加人数

外来がん化学療法チーム養成コース（インテンシブ）

13/10/29 ～10/30	がんチーム医療研修　第15回（12）
13/11/12 ～11/13	がんチーム医療研修　第16回（12）
13/11/26 ～11/27	がんチーム医療研修　第17回（12）
13/12/10 ～12/11	がんチーム医療研修　第18回（12）
14/01/21 ～1/22	がんチーム医療研修　第19回（12）
14/02/04 ～2/05	がんチーム医療研修　第20回（12）
14/03/15	がんチーム医療研修 フォローアップ研修会（30）

高精度放射線治療を担う人材養成コース（インテンシブ）

13/09/14	京都放射線腫瘍研究会プログラム（117）
13/10/04 ～10/05	高精度放射線治療ワークショップ（2）
14/03/08 ～3/09	高精度放射線治療ワークショップ（2）

地域がん医療を担う薬剤師養成コース（インテンシブ）

14/02/22	第2回地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブコース（120）

資料８

その他・がんプロ共催によるセミナー・講演会等一覧

（ ）内は参加人数

13/04/03	婦人科腫瘍学セミナー2013-01（40）
13/04/17	GAP conference MDACC－Kyoto University Symposium（100）
13/04/18	腫瘍血管シンポジウム（80）
13/04/24	がんプロ手術療法コース講演会「がん治療のバイオーマーカー」（50）
13/05/27	京都大学医学部附属病院　がん患者・家族交流会「ピア」特別講演7「がんと神経障害」（35）
13/05/31	「創薬腫瘍科学特論」特別講義第１回「ペプチドを基盤とする抗がん剤の創製研究」（30）
13/06/05	大腸がんWebエキスパートセミナー（10）
13/06/06	「創薬腫瘍科学特論」特別講義第２回「製薬企業・バイオベンチャーにおける抗がん剤の開発状況」（30）
13/06/20	がんプロ特別講義「抗がん剤臨床試験と医療統計」（28）
13/06/27	がんプロ特別講演会　Ingram Professor of Cancer Research Vanderbilt-Ingram Cancer Center（21）
13/07/01	乳腺コース講演会「Meet the Expert in Kyoto」（25）
13/07/12	緩和医療の真髄と実践（56）
13/08/03	第6回京都がんリハビリテーション研究会（23）
13/08/26	腫瘍血管イメージング講演会（85）
13/08/31 ～09/01	日韓合同セミナー（27）
13/09/24	アービタックス大腸がんExpert Webセミナー（18）
13/09/27	第２６回京都がん研究会（39）
13/10/21	消化管外科腫瘍学セミナー　Special Oncology Seminar for Cancer（30）
13/11/16	「がんリハビリテーション」特別講演会（33）
13/12/22	平成２５年度医療フォーラム（100）
14/02/03	京大病院キャンサーバイオバンクシンポジウム（157）
14/02/25	アービタックス大腸がんWebエキスパートセミナー（１８）
14/03/07	第２７回京都がん研究会（50）

資料９

国際学会、英文誌への論文発表一覧

1：
AASLD2013（米国肝臓学会） ″CK19 and SOX9 expression in hepatocellular carcinoma predicts early postoperative recurrence″ 2014/11/5 河合 隆之

2：
4th Quadrennial Meeting of the World Federation of Neuro-Oncology
MRI analysis of cerebral radiation necrosis in bevacizumab therapy November 24, 2013
藤本 浩一

3：
The European Cancer Congress 2013 「The efficacy of palonosetron/dexamethasone plus NK1 receptor antagonist (aprepitant) therapy for prevention of chemotherapy induced nausea and vomiting in colorectal cancer patients」 2013/9 尾崎 由直

4：
The 3rd Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology
「Dosimetric impact of adaptive re-planning for fractionated image-guided intracavitary brachytherapy in cervical cancer」 2013/12/13-15 平田 希美子

5：
Hiroshi Arima, Toshiyuki Kitano, Takeshi Maeda, Momoko Nishikori, Tadakazu Kondo, Kadowaki Norimitsu, Akifumi Takaori-Kondo. The isotype of the B-cell receptor predicts survival in patients with diffuse large B-cell lymphoma treated with R-CHOP. 12th International Conference on Malignant Lymphoma (ICML). June 2013. 有馬 浩史

6：
Hiroshi Arima, Hayato Maruoka, Koji Nasu, Sumie Tabata, Masayuki Kurata, Akiko Matsushita, Yukihiro Imai, Takayuki Takahashi, Takayuki Ishikawa. Impact of occult bone marrow involvement on the outcome of rituximab plus cyclophosphamide, doxorubicin, vincristine and prednisone therapy for diffuse large B-cell lymphoma
. Leukemia & Lymphoma 2013; 54: 2645-2653 有馬 浩史
.

7:

Hiroshi Arima, Yuichiro Ono, Sumie Tabata, Akiko Matsushita, Hisako Hashimoto, Takayuki Ishikawa, Takayuki Takahashi. Successful allogeneic hematopoietic stem cell transplantation with reduced-intensity conditioning for B-cell prolymphocytic leukemia in partial remission. International Journal of Hematology. Accepted 14 January 2014. 有馬　浩史

8:

Hiroshi Arima, Nariko Oka, Yoshiyuki Baba, Hisashi Sugawa, Takahiro Ota. Gender identification by calls of the Streaked Shearwater examined by CHD genes. Ornithological Science. Accepted 19 November 2013. 有馬　浩史

9:

Hiroshi Arima, Daichi Inoue, Sumie Tabata, Akiko Matsushita, Yukihiro Imai, Takayuki Ishikawa, Takayuki Takahashi. Simultaneous thrombosis of both mesenteric artery and vein as a novel clinical manifestation of intravascular large B-cell lymphoma. Acta Haematologica. Accepted 24 September 2013. 有馬　浩史

10:

Tsubasa Watanabe 1), Takashi Mizowaki 1), Yoshiki Arakawa 2), Yusuke Iizuka 1), Kengo Ogura 1), Katsuyuki Sakanaka 1), Susumu Miyamoto 2), Masahiro Hiraoka 1)

1) Department of Radiation Oncology and Image-Applied Therapy, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan.

2) Department of Neurosurgery, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan

Pineal parenchymal tumor of intermediate differentiation: treatment outcomes of five cases

Molecular and Clinical Oncology, 2014;2(2),197-202. Doi: 10.3892/mco.2013.231　渡邉　翼

11:

国立台湾大学・京都大学シンポジウム　ポスター「The imaging of breast vasculature by photoacoustic mammmography」 2013.12.19-20　鳥井　雅恵

12:

13th AOCMP & 11th SEACOMP 2013, Oral presentation, Development of a four-axis moving phantom for quality assurance of surrogate signal-based dynamic tumor tracking irradiation., 12/12-14, 2013, Mukumoto N, Nakamura M, Yamada M, Takahashi K, Miyabe Y, Kaneko S, Monzen H, Mizowaki T, Kokubo M, and Hiraoka M.　椋本　宜学

13:

. Medical Physics, 40, 041706-1-9 (2013), Accuracy verification of infrared marker-based dynamic tumor-tracking irradiation using the gimbaled x-ray head of the Vero4DRT (MHI-TM2000), Mukumoto N, Nakamura M, Sawada A, Suzuki S, Takahashi K, Miyabe Y, Kaneko S, Mizowaki T, Kokubo M, Hiraoka M 椋本 宜学

14:

The American Association of Physicists in Medicine: AAPM・Spring Clinical Meeting、Assessment of target localization accuracy estimated from radiopaque markers in dynamic tumor tracking irradiation、2014/3/10-13 高宮 大義

15:

【学会】2nd ESTRO Forum, Accuracy of a predictive model in IR-marker-based dynamic tumour tracking for lung cancer, 4/21, 2013 秋元 麻未

16:

【論文】Medical Physics, Predictive uncertainty in infrared marker-based dynamic tumor tracking with Vero4DRT, Oct, 2013 秋元 麻未

17:

・2nd ESTRO forum, Geneva Switzerland,"Beam positioning accuracy of dynamic tumor-tracking during arc irradiation with gimbaled x-ray head",19-23 April 2013 小野 智博

18:

・The 2nd International Symposium of Training Plan for Oncology Professionals,"Geometric and dosimetric accuracy of dynamic tumor-tracking conformal arc irradiation with gimbaled x-ray head",18-29 January 2014 小野 智博

19:

・Medical Physics,"Geometric and dosimetric accuracy of dynamic tumor-tracking conformal arc irradiation with a gimbaled x-ray head", volume41, Issue3, 14 March 2014 小野 智博

20:

Annual European Congress of Rheumatology EULAR 2013, Plasmacytoid dendritic cells activated by neutrophil extracellular traps contribute to the pathogenesis of IgG4-related disease, 2013/6/13 新井 康之

21:
55th Annual Meeting of the American Society of Hematology, Uric Acid Induces NADPH Oxidase-Independent Neutrophil Extracellular Trap Formation, 2013/12/10
2nd International Symposium on IgG4-related disease & Associated Conditions, Plasmacytoid dendritic cells activated by neutrophil extracellular traps contribute to the pathogenesis of IgG4-related disease, 2014/2/16 新井　康之

22:
英文雑誌論文発表
Clinical Immunology, Familial Mediterranean fever mutations in a patient with recurrent episodes of acute respiratory distress syndrome, 2013/5 新井　康之

23:
Internal Medicine, Syndrome of inappropriate antidiuretic hormone secretion induced by tacrolimus after allogeneic cord blood transplantation, 2013/6 新井　康之

24:
Biology of Blood and Marrow Transplantation, Serum neutrophil extracellular trap levels predict thrombotic microangiopathy after allogeneic stem cell transplantation, 2013/9 新井　康之

25:
Biochemical and Biophysical Research Communications, Uric Acid Induces NADPH Oxidase-Independent Neutrophil Extracellular Trap Formation, 2014/1 新井　康之

26:
Bone Marrow Transplantation, Risk factors for hypogammaglobulinemia after allogeneic stem cell transplantation, 2014/1　新井　康之

27:
国際学会　2013.9.18.-21.,AACR Advances in Ovarian Cancer Research:　From Concept to Clinic"HNF1β confers resistance to oxidative stress of ovarian clear cell carcinoma"
天野　泰彰

28:
英文誌　Oncol Lett. 2013 November; 6(5): 1241-1244. August 16. "Recurrence of a carcinoid tumor of the ovary 13 years after the primary surgery: A case report" 天野　泰彰

29：
CONFERENCE 2014 INTERNATIONAL CONVENTION 、「Implementation of a rigid-body registration algorithm that improves setup accuracy for accelerated partial breast irradiation using three-dimensional conformal radiotherapy」、2014/2/21 井上 実

30：
European Cancer Congress 2013, 2013/9/27-10/1, Amsterdam, Netherland, Definitive concurrent chemoradiotherapy for patients over 75 years old with locally advanced non-small-cell lung cancer 岸 高宏

31：
International Gynecologic Cancer Society 15th. Poster discussion. Lymph node metastasis in cervical cancer; novel diagnositc criteria in multi-detector computed tomography and estimated efficacy of neoadjuvant chemotherapy. 2013/4/11 山ノ井 康二

32：
Gynecologic Oncology. A novel diagnostic criterion for lymph node metastasis in cervical cancer using multi-detector computed tomography. 2013/12. 山ノ井 康二

33：
Posterior Approach for Laparoscopic Pancreaticoduodenectomy to Prevent Replaced Hepatic Artery Injury, Ann Surg Oncol. 2013;20:3120. PMID: 23793363 小木曽 聡

34：
FEBS Letters `Sal-like 4 (SALL4) suppresses CDH1 expression and maintains cell dispersion in basal-like breast cancer.' Accepted 26 July 2013 Available online 14 August 2013 松本 純明

35：
Matsumoto Y, Matsukawa H, Seno H, Ono S: Breast cancer metastasis to the esophagus diagnosed using endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration. J Gastroenterol Hepatol (in press). 松本 善秀

36：
英文誌：Radiotherapy and Oncology, Intra- and Interfractional Variations in Geometric Arrangement between Lung Tumours and Implanted Markers, in Press 植木 奈美

37:

【国際学会発表】

The 64th Annual Meeting of American Association for the Study of Liver Diseases (米国肝臓学会)

発表演題: Novel sets of genes are correlated with acute cellular rejection after pediatric living-donor liver transplantation

共著者名: Haruka Shinke, Miwa Uesugi, Yuki Okuda, Risa Taniguchi, Kazuo Matsubara, Eri Ogawa, Atsushi Yoshizawa, Shinya Okamoto, Toshimi Kaido, Shinji Uemoto, Satohiro Masuda 2013/1/4 新家 遥

38:

The 64th Annual Meeting of American Association for the Study of Liver Diseases (米国肝臓学会)

発表演題: Urinary neutrophil gelatinase-associated lipocalin as a biomarker for tacrolimus-induced acute kidney injury in recipients of living-donor liver transplantation

共著者名: Haruka Shinke, Ayami Tsuchimoto, Miwa Uesugi, Kazuo Matsubara, Yasuhiro Fujimoto, Toshimi Kaido, Shinji Uemoto, Motoko Yanagita, Satohiro Masuda 2013/11/4 新家 遥

39:

The 64th Annual Meeting of American Association for the Study of Liver Diseases (米国肝臓学会)

発表演題: Influence of the cytochrome P450 3A5*3 genotype in a graft liver on the occurrence of acute cellular rejection after living-donor liver transplantation

共著者名: Miwa Uesugi, Satohiro Masuda, Haruka Shinke, Yuki Nishioka, Kazuo Matsubara, Yasuhiro Fujimoto, Toshimi Kaido, Shinji Uemoto 2013/ 11/4 新家 遥

40:

The 46th Annual Meeting of American Society of Nephrology (米国腎臓学会)

発表演題: Urinary kidney injury molecule-1 (KIM-1) levels immediately after surgery predict the development of tacrolimus-related chronic kidney disease in liver transplantation recipients

共著者名: Haruka Shinke, Ayami Tsuchimoto, Venkata S Sabbisetti, Miwa Uesugi, Emina Hashimoto, Kazuo Matsubara, Yasuhiro Fujimoto, Toshimi Kaido, Shinji Uemoto, Motoko Yanagita, Takaharu Ichimura, Joseph V. Bonventre, Satohiro Masuda 2013/11/8 新家 遥

41:

The 46th Annual Meeting of American Society of Nephrology (米国腎臓学会)

発表演題: Kidney injury molecule-1 and monocyte chemotactic protein-1 as sensitive biomarkers for detecting cisplatin-induced nephrotoxicity in patients with lung cancer

共著者名: Haruka Shinke, Yasuaki Ikemi, Masami Tadehara, Kazuo Matsubara, Yousuke Togashi, Young Hak Kim, Michiaki Mishima, Takaharu Ichimura, Joseph V. Bonventre, Satohiro Masuda 2013/11/8　　新家　遥

42:

【発表論文】

Biological & Pharmaceutical Bulletin

投稿論文名: Effectiveness of sirolimus in combination with cyclosporine against chronic rejection in a pediatric liver transplant patient.

共著者名: Shinke H, Hashi S, Kinoshita R, Taniguchi R, Sugimoto M, Matsubara K, Ogawa E, Sonoda M, Takada N, Yoshizawa A, Ogawa K, Okamoto S, Uemoto S, Masuda S.　2013/5/15　新家　遥

43:

Biological & Pharmaceutical Bulletin

投稿論文名: Influence of cytochrome P450 (CYP) 3A4*1G polymorphism on the pharmacokinetics of tacrolimus, probability of acute cellular rejection, and mRNA expression level of CYP3A5 rather than CYP3A4 in living-donor liver transplant patients.

共著者名: Uesugi M, Hosokawa M, Shinke H, Hashimoto E, Takahashi T, Kawai T, Matsubara K, Ogawa K, Fujimoto Y, Okamoto S, Kaido T, Uemoto S, Masuda S.　2013/9/1　　新家　遥

44:

Biological & Pharmaceutical Bulletin

投稿論文名: Successful telaprevir treatment in combination of cyclosporine against recurrence of hepatitis C in the Japanese liver transplant patients.

共著者名: Kikuchi M, Okuda Y, Ueda Y, Nishioka Y, Uesugi M, Hashimoto E, Takahashi T, Kawai T, Hashi S, Shinke H, Omura T, Yonezawa A, Ito T, Fujimoto Y, Kaido T, Chiba T, Uemoto S, Matsubara K, Masuda S.　2013/12/26　新家　遥

45:

第 17 回欧州癌学会/第 38 回欧州腫瘍学会/第 32 回欧州放射線学会、Treatment and Prognosis of familial breast cancer patients　2013/9/30 多久和　晴子

46:

第 9 回欧州乳癌学会、The optimal LHRH agonist therapy for ER positive pre-menopausal early breast cancer patients　2014/3/19　多久和　晴子

47:
55 回米国放射線腫瘍学会 "Relationship Between Intra-fraction Prostate Motion And Rectal Dilatation" 2013/9/22-25 池田 格

48:
Journal of radiation research "Assessment of interfractional prostate motion in patients immobilized in the prone position using a thermoplastic shell." 2013 池田 格

49:
Japanese journal of clinical oncology "Long-term Outcomes of Dynamic Conformal Arc Irradiation Combined with Neoadjuvant Hormonal Therapy in Japanese Patients with T1c-T2N0M0 Prostate Cancer: Case Series Study." 2013 池田 格

50:
Mucocele of the appendix due to endometriosis: a rare case report.
World J Gastroenterol. 2013 Aug 14;19(30):5021-4. 津田 喬之

51:
IGCS (International Gynecologic Cancer Society) Reginal Meeting on Gynecologic Cancers A clinicopathological study of papillary squamous cell carcinoma of uterine cervix
演題名:A clinicopathological study of papillary squamous cell carcinoma of uterine cervix 2013/4 奈倉 道和

52:
英文雑誌名:Gynecologic Oncology 論文名:Clinical approaches to treating papillary squamous cell carcinoma of the uterine cervix 2014/2 投稿 奈倉 道和

53:
英文雑誌名:Oncology 論文名:Invasion of uterine cervical carcinoma cells is facilitated by transforming growth factor-beta, which is activated through interaction with cancer associated fibroblasts 2014/2 投稿 奈倉 道和

54:
International Gynecological Cancer Society 2nd Ragional Meeting in Indonesia
演題名:A potent clinical impact of UGT1A1 polymorphism in patients of cervical cancer

2013/4/11 堀川 直城

55:
Gastrointestinal Endoscopy "A case of acute necrotizing esophagitis" 2013/10/22 木村 佳人

56:
The MD Anderson Radiation Oncology Gilbert H. Fletcher Society 37th Annual Scientific Meeting "Involvement of decreased hypoxia-inducible factor 1 activity and resultant G1-S cell cycle transition in radioresistance of perinecrotic tumor cells" 2013/4/18 後藤 容子

57:
Keystone symposia, "UCH-L1 promotes distant metastasis as a deubiquitinating enzyme for HIF-1alpha" 2014/1/8 後藤 容子

59:
GHF society meeting/ Pretreatment Diffusion-Weighted MRI and 18F-FDG PET as Prognostic Factors among Patients with Non-small Cell Lung Cancer Receiving Stereotactic Body Radiation Therapy 2013/4 飯塚 裕介

60:
"Reactivation from Occult HBV Carrier Status is Characterized by Low Genetic Heterogeneity with the Wild-type or G1896A Variant Prevalent" 犬塚 義 (投稿中)

61:
英文雑誌:
H. Date, K. Wakui, K. Sasaki, T. Kato, and T. Nishioka, "A formulation of cell surviving fraction after radiation exposure.",Radiological Physics and Technology, Springer, 22(1), 148-157, (2014). 佐々木恒平

62:
Y. Matsuya, Y. Ohtsubo, K. Tsutsumi, K. Sasaki, R. Yamazaki, and H. Date, "Quantitative Estimation of DNA Damage by Photon Irradiation Based on Microdosimetric-Kinetic Model.", Accepted in Journal of Radiation Research (In Press), Oxford University Press.
佐々木恒平

63:

国際会議:

K. Sasaki, H. Date, K. Tsutsumi, Y. Matsuya and A. Itoh, “In Silico Modeling for the Radiation-Induced Bystander Effect with Confluent Cell Monolayers.”, 40th Annual Meeting of the European Radiation Research Society (ERR),W-58, Dublin, Ireland, 1-5 September, 2013　佐々木恒平

64::

Y. Matsuya, Y. Ohtsubo, K. Tsutsumi, K. Sasaki, R. Yamazaki and H. Date “Estimation of DNA Damage Related to RBE with Photon Irradiation.”, 40th Annual Meeting of the European Radiation Research Society (ERR), M-14, Dublin, Ireland, 1-5 September, 2013
佐々木恒平

65:

Cancer Sci.　2013/8/30

RET fusion gene: Translation to personalized lung cancer therapy.

Kohno T, Tsuta K, Tsuchihara K, Nakaoku T, Yoh K, Goto K.　中奥　敬史

66:

Radiation Oncology 2013, 8:97 (2013/4　online)

Initial and cumulative recurrence patterns of glioblastoma after temozolomide-based chemoradiotherapy and salvage treatment: a retrospective cohort study in a single institution

Ogura K, Mizowaki T, Arakawa Y, Ogura M, Sakanaka K, Miyamoto S, Hiraoka M　小倉健吾

67:

Cancer Medicine, Article first published online: 28 OCT 2013 （2013/10 online）

Volume 2, Issue 6, pages 942-949, December 2013

Efficacy of salvage stereotactic radiotherapy for recurrent glioma: impact of tumor morphology and method of target delineation on local control

Ogura K, Mizowaki T, Arakawa Y, Sakanaka K, Miyamoto S, Hiraoka M　小倉健吾

68:

Journal of Applied Clinical Medical Physics, in press (2013/12　accept)

Dosimetric advantages of O-ring design radiotherapy system for skull-base tumors

Ogura K, Mizowaki T, Ishida Y, Hiraoka M　小倉健吾

69:

英文雑誌

1. Technical considerations for analyzing EMT-MET data from surgical samples. Aoyagi K, Tamaoki M, Nishumura T, Sasaki H. Cancer Lett. 2013 Nov 28;341(1):105-10.　玉置　将司

70:

2. Lymphoepithelioma-like carcinoma of the breast: a case report with a special analysis of an association with human papilloma virus. Nio Y, Tsuboi K, Tamaoki M, Tamaoki M, Maruyama R. Anticancer Res. 2012 Apr;32(4):1435-41.　玉置　将司

71:

Ishiguro H, Kawaguchi K, Nishimura T, Toi M. Antipsychotics-containing regimen as an alternative to standard antiemetics for delayed nausea induced by highly emetogenic chemotherapy. Journal of clinical oncology : official journal of the American Society of Clinical Oncology;31:1377-8 2013.（査読有り）　河口　浩介

72:

Kawaguchi K, Suzuki E, Sugie T, Sato F, Toi M. Neuropilin-1 high monocytes play an important role in trastuzumab-mediated antibody-dependent cellular cytotoxicity in HER2-positive breast cancer cell lines. American Association for Cancer Research (AACR) annual meeting, abstract #1536, Washington D.C, April 2013.（ポスター発表、査読有り）　河口　浩介

73:

Suzuki E, Sato F, Kawaguchi K, Sugie T, Toi M. Upregulation of neuropilin-1 in human monocyte is induced by RANKL and may be associated with trastuzumab mediated antibody dependent cellular cytotoxicity in breast cancer cells American Association for Cancer Research (AACR) annual meeting abstract #1255, Washington D.C, April 2013.（ポスター発表、査読有り）　河口　浩介

74:

Posterior Approach for Laparoscopic Pancreaticoduodenectomy to Prevent Replaced Hepatic Artery Injury, Ann Surg Oncol. 2013;20:3120. PMID: 23793363　小木曾　聡

資料９－２

京都薬科大学　研究論文発表一覧

○大石晃弘

【学会発表】

1)　大石晃弘、地嵜悠吾、阪中美紀、須藤正朝、森井博朗、平　大樹、森田真也、長澤一樹、寺田智祐：中枢神経抑制薬の併用によりプレガバリンの副作用発現率は上昇する．日本薬学会第 133 年会（横浜），2013. 3.

2)　西田健太朗、山中優里、宮田麻依、小西一誠、薮　美晴、塚本勝信、大石晃弘、長澤一樹：ラットの甘味感受性に対するオキサリプラチンの影響．Neuro2013 (京都), 2013. 6.

3) 西田健太朗、山中優里、宮田麻依、田中美早、番匠咲帆、宮本花凛、大石晃弘、長澤一樹：Oxaliplatin 投与ラットにおける甘味感受性の変化について．日本味と匂学会第 47 回大会（仙台), 2013. 9.

4)　西田健太朗、山中優里、宮田麻依、小西一誠、薮　美晴、生川晃子、田中美早、番匠咲帆、宮本花凛、大石晃弘、長澤一樹：Oxaliplatin による味覚障害発症機序の基礎的検討 ～味受容体の発現及び味細胞数への影響～．第 86 回日本生化学会大会（横浜), 2013. 9.

5)　Kentaro Nishida, Akihiro Ohishi, Yuri Yamanaka, Ai Miyata, Miharu Yabu, Issei Konishi, Kazuki Nagasawa: Sweet taste receptor expression is upregulated in oxaliplatin-administered rats. The 11th International Symposium on Molecular and Neural Mechanisms of Taste and Olfactory Perception (YR Umami Forum 2013, AISCRIB 2013) (Fukuoka, Japan), 2013. 10.

【その他】

1)　宮本花凛、宮田麻依、番匠咲帆、薮　美晴、小西一誠、大石晃弘、西田健太郎、長澤一樹：Two-bottle preference 試験を用いたラット味覚感受性に対する oxaliplatin 繰り返し投与の影響．ナノライフサイエンス・オープンセミナー2013 (大阪), 2013. 8.

○高田哲也

【論　文】

1）高田哲也、池見泰明、福土将秀、杉本充弘、石橋直哉、小林政彦、矢野育子、金永学、三嶋理晃、芦原英司、松原和夫：非小細胞性肺がん患者に対する簡易懸濁法を用いたエルロチニブ投与に関する検討．医療薬学, 39,565-570 (2013).

○地嵜悠吾

【論　文】

1)　地嵜悠吾、中村暢彦、濵武清範、川田将義、石川誠司、矢野義孝：蛍光測定を利用した新しい手指衛生手技評価法．医療薬学, 39, 251-256 (2013).

2)　Yugo Chisaki, Satoshi Noda, Daiki Hira, Shin-ya Morita, Yoshitaka Yano, and Tomohiro Terada. Reduction in Gastrointestinal Toxicity by Gastric Secretion Inhibitors during S-1 Monotherapy for Patients with Gastric Cancer. Submitted.

3)　Yugo Chisaki, Nobuhiko Nakamura, Yoshitaka Yano. Comparative Cost-Effective Analysis Involving Monte Carlo Simulation for Cancer Chemotherapy including Pharmaceutical Care Related to Adverse Events. Submitted.

4)　Chikako Matsumura, Masami Yamada, Saki Fujihara, Yugo Chisaki, KazushigeTakahashi, Yoshitaka Yano. Factors affecting conversion ratio in opioid switching from oral oxycodone to transdermal fentanyl in cancer patients. Submitted.

【学会発表】

1)　地嵜悠吾、平　大樹、野田聡史、森田真也、矢野義孝、寺田智祐：TS-1 単独化学療法における消化器症状に及ぼす酸分泌抑制薬と胃切除の影響．第 23 回日本医療薬学会年会(仙台), 2013.9.

2)　地嵜悠吾、中村暢彦、矢野義孝：非小細胞肺がんにおける 4 種の薬物療法の薬剤経済評価．第 51 回日本癌治療学会学術集会（京都), 2013.10.

3)　地嵜悠吾、中村暢彦、松尾 綾、矢野義孝：切除不能膵がんにおける臨床効果と総費用を考慮に入れた薬剤経済評価．第 7 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム（仙台), 2013.11.

【講　演】

1)　Yoshitaka Yano, Yugo Chisaki, Nobuhiko Nakamura: Comparative Cost-Effective Analysis in Cancer Chemotherapy including Pharmaceutical Care against Adverse Events. Population Approach Group in Japan and Korea (PAGJA-PAGK) Joint Annual Meeting (Invited). (Seoul, Korea), 2013.11.
（注：講演者は矢野、招待講演）

資料１０

海外学会、海外研究施設視察の参加状況

	所属コース	氏名	日程	目的地	学会名等
1	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	菊池　理	2013/4/2～2013/4/9	国名：アメリカ（ヒューストン） 場所：MD Anderson Cancer Center/Walter E.Washington Convention Center	GAP conference 2013/ AACR annual meeting 2013
2	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	堀川　直城	2013/4/10～2013/4/13	国名：インドネシア（バリ） 場所：Discovery Kartika Plaza Hotel	IGCS Regional Meeting on gynecologic cancers 2013
3	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	奈倉　道和	2013/4/11～2013/4/13	国名：インドネシア（バリ） 場所：Discovery Kartika Plaza Hotel	IGCS Regional Meeting on gynecologic cancers 2013
4	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	山ノ井　康二	2013/4/10～2013/4/13	国名：インドネシア（バリ） 場所：Discovery Kartika Plaza Hotel	IGCS Regional Meeting on gynecologic cancers 2013
5	先端医学物理研究者養成コース	小野　智博	2013/4/19～2013/4/23	国名：スイス（ジュネーブ） 場所：Palexpo Congress & Exhibition Center	2nd ESTRO Forum 2013
6	先端医学物理研究者養成コース	秋元　麻未	2013/4/19～2013/4/23	国名：スイス（ジュネーブ） 場所：Palexpo Congress & Exhibition Center	2nd ESTRO Forum 2013
7	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	髙田　裕	2013/7/24～2013/7/27	国名：シンガポール 場所：NUHS Tower Block Auditorium	6th Annual Scientific Meeting New Frontier in Gastric Carcinogenesis and Treatment
8	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	尾崎　由直	2013/9/27～2013/10/1	国名：オランダ　アムステルダム 場所：Amsterdam RAI	The European Cancer Congress 2013
9	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	天野　泰彰	2013/9/18～2013/9/21	国名：アメリカ　フロリダ州マイアミ 場所：JWマリオット・マーキス・マイアミ	アメリカ癌学会　卵巣癌研究の進歩：構想から臨床まで
10	高度ながん研究・がんチーム医療を実践できるがん専門薬剤師（研究者）養成コース	新家　遥	2013/11/1～2013/11/5	国名：アメリカ　ワシントンDC市 場所：ワシントンコンベンションセンター	肝臓会議 2013（第64回米国肝臓学会）
11	高度ながん研究・がんチーム医療を実践できるがん専門薬剤師（研究者）養成コース	新家　遥	2013/11/6～2013/11/10	国名：アメリカ　ジョージア州フルトン郡　アトランタ市 場所：ジョージアワールドコングレスセンター	腎臓週間 2013（第46回米国腎臓学会）
12	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	多久和　晴子	2013/9/28～2013/10/2	国名：オランダ　北ホラント州アムステルダム 場所：Amsterdam RAI	第17回欧州癌学会 第38回欧州臨床腫瘍学会 第32回欧州放射線腫瘍学会
13	先端医学物理研究者養成コース	小野　智博	2013/12～1週間程度	国名：インド　チェンナイ 場所：Christian medical collage（Vellore）	Christian medical collageにて施設見学
14	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	岸　高宏	2013/9/27～2013/10/1	国名：オランダ　北ホラント州アムステルダム 場所：Amsterdam RAI	第17回欧州癌学会 第38回欧州臨床腫瘍学会 第32回欧州放射線腫瘍学会
15	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	池田　格	2013/9/22～2013/9/25	国名：アメリカ　ジョージア州アトランタ市 場所：ジョージアワールドコングレスセンター	第55回米国放射線腫瘍学会

16	先端医学物理研究者養成コース	椋本　宜学	2013/12/12～2013/12/14	国名：シンガポール 場所：Health Promotion Board	第13回アジア・オセアニア＆第11回東南アジア　国際合同医学物理学会
17	先端医学物理研究者養成コース	髙宮　大義	2014/3/15～2014/3/18	国名：アメリカ　（コロラド州デンバー） 場所：Denver Marriott Tech Center	第13回アジア・オセアニア＆第11回東南アジア　国際合同医学物理学会
18	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	河合　隆之	2013/11/1～2013/11/5	国名：アメリカ　（ワシントンD.C） 場所：Walter E. Washington Convention Center	AASLD 2013（The Liver Meeting 2013）
19	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	鳥井　雅恵	2013/12/19～2013/12/20	国名：台湾　（台北市） 場所：国立台湾大学	京都大学と台湾大学の合同シンポジウム
20	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	平田　希美子	2014/1/17～2014/1/19	ソウル大学病院 Sumsung Medical Center	5大学連携「ソウル大学病院との合同教育セミナー」
21	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	井上　実	2014/1/17～2014/1/19	ソウル大学病院 Sumsung Medical Center	5大学連携「ソウル大学病院との合同教育セミナー」
22	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	華井　明子	2014/1/17～2014/1/19	ソウル大学病院 Sumsung Medical Center	5大学連携「ソウル大学病院との合同教育セミナー」
23	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	常盤　麻里子	2014/1/17～2014/1/19	ソウル大学病院 Sumsung Medical Center	5大学連携「ソウル大学病院との合同教育セミナー」
24	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	多久和　晴子	2014/1/17～2014/1/19	ソウル大学病院 Sumsung Medical Center	5大学連携「ソウル大学病院との合同教育セミナー」
25	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	西江　万梨子	2014/1/17～2014/1/19	ソウル大学病院 Sumsung Medical Center	5大学連携「ソウル大学病院との合同教育セミナー」
26	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	菊池　理	2013/12/18～2013/12/20	台湾国立大学	台湾国立大学合同シンポジウム
27	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	渡邉　翼	2013/9/22～2013/9/26	Sarayグラナダ・ホテル	BNCT 7th Young Researchrs Meeting
28	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	渡邉　翼	2013/12/13	台湾　台北	日本台湾BNCT研究会
29	先端医学物理研究者養成コース	秋元　麻未	2014/1/20～2014/3/14	ベルギー　ブリュッセル	インターンシップ派遣
30	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	新井　康之	2013/12/1	Fred Hutchinson Cancer Research Center	施設見学
31	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	井上　実	2013/5/10～2013/5/13	Beijing China	3rd Asian congress of Radiation Research
32	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	井上　実	2013/12/10～12/14	.ゴンザレス・コンベンション・センター　テキサス	2013 SAN ANTONIO BREAST CANCER SYMPOSIUM

33	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	坂元　宏匡	2013/5/4～2013/5/9	San Diego Convention Center	AUA Annual Meeting 2013
34	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	樋渡　直	2013/4/10～2013/4/14	Florida Orland	2013 COSM(combined otolaryngology spring meeting)
合計　34　件					

資料１０－２

国内学会、国内研究施設視察の参加状況

	所属コース	氏名	日程	目的地	学会名等
1	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	樋渡　直	2013/8/29～2013/9/1	仙台国際センター	第11回日本臨床腫瘍学会学術集会
2	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	飯塚　裕介	2013/4/11～2013/4/14	パシフィコ横浜	第72回日本医学放射線学会総会
3	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	井上　実	2013/6/27～2013/6/29	アクトシティ浜松　他	第21回日本乳癌学会学術総会
4	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	松本　純明	2013/6/26～2013/6/29	アクトシティ浜松　他	第21回日本乳癌学会学術総会
5	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	多久和　晴子	2013/6/27～2013/6/29	アクトシティ浜松　他	医療薬学フォーラム2013　第21回クリニカルファーマシーシンポジウム
6	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	松本　純明	2013/5/18～2013/5/19	ベルサール新宿セントラルパーク	日本乳癌学会　第2回乳腺専門医セミナー
7	高度ながん研究・がんチーム医療を実践できるがん専門薬剤師（研究者）養成コース	小山　智志	2013/7/20～2013/7/21	石川県立音楽堂・ANAクラウンプラザホテル金沢	医療薬学フォーラム2013　第21回クリニカルファーマシーシンポジウム
8	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	河口　浩介	2013/7/6～2013/7/7	パシフィコ横浜	Best of ASCO Japan 2013
9	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	多久和　晴子	2013/8/29～2013/8/31（教育セミナー2013/9/1）	仙台国際センター東北大学百周年記念会館川内萩ホール	第11回日本臨床腫瘍学会学術集会
10	次世代の臨床試験を担う人材養成コース（インテンシブ）	津田　萌	2013/7/6～2013/7/7	パシフィコ横浜	Best of ASCO Japan 2013
11	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	新井　康之	2013/10/11～2013/10/13	ロイトン札幌　他	第75回日本血液学会学術
12	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	後藤　知之	2013/8/29～2013/9/1	仙台国際センター	第11回日本臨床腫瘍学会学術集会および 第22回教育セミナー
13	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	尾崎　由直	2013/8/29～2013/8/31	仙台国際センター東北大学百周年記念会館川内萩ホール	第11回日本臨床腫瘍学会学術集会
14	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	山ノ井　康二	2013/10/2～2013/10/5	パシフィコ横浜	第72回日本癌学会学術総会
15	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	天野　泰彰	2013/10/3～2013/10/5	パシフィコ横浜	第72回日本癌学会学術総会
16	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	村上　隆介	2013/10/3～2013/10/5	パシフィコ横浜	第72回日本癌学会学術総会
17	先端医学物理研究者養成コース	小野　智博	2013/10/18～2013/10/20	ホテル青森・リンクステーションホール青森	日本放射線腫瘍学会第26回学術大会
18	先端医学物理研究者養成コース	秋元　麻未	2013/10/18～2013/10/20	ホテル青森・リンクステーションホール青森	日本放射線腫瘍学会第26回学術大会

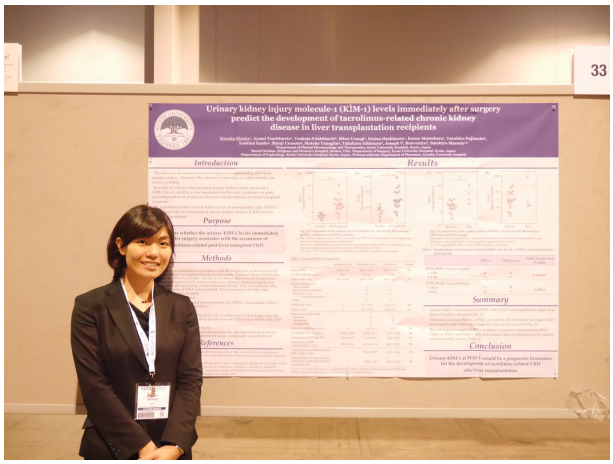
19	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	中嶋　綾	2013/10/3～2013/10/5	パシフィコ横浜	第72回日本癌学会学術総会
20	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	池田　格	2013/10/18～2013/10/20	ホテル青森・リンクステーションホール青森	日本放射線腫瘍学会第26回学術大会
21	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	田邉（植木）奈美	2013/10/18～2013/10/20	ホテル青森・リンクステーションホール青森	日本放射線腫瘍学会第26回学術大会
22	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	飯塚　裕介	2013/10/18～2013/10/20	ホテル青森・リンクステーションホール青森	日本放射線腫瘍学会第26回学術大会
23	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	中村　京平	2013/10/18～2013/10/20	ホテル青森・リンクステーションホール青森	日本放射線腫瘍学会第26回学術大会
24	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	岸　高宏	2013/10/18～2013/10/20	ホテル青森・リンクステーションホール青森	日本放射線腫瘍学会第26回学術大会
25	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	新井　康之	2014/3/7～2014/3/9	沖縄コンベンションセンター　他	第36回日本造血細胞移植学会総会
26	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	植木　奈美	2014/11/21～2014/11/22	ホテルニューオータニ（東京）	第54回日本肺癌学会総会
27	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	奈倉　道和	2013/5/9～2013/5/12	ロイトン札幌　他	第65回日本産婦人科学会学術集会
28	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	堀川　直城	2013/5/11～2013/5/12	ロイトン札幌　他	第65回日本産婦人科学会学術集会
29	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	天野　泰彰	2013/5/9～2013/5/13	ロイトン札幌　他	第65回日本産婦人科学会学術集会
30	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	山ノ井　康二	2013/5/11～2013/5/12	ロイトン札幌　他	第65回日本産婦人科学会学術集会
31	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	村上　隆介	2013/5/9～2013/5/10	ロイトン札幌　他	第65回日本産婦人科学会学術集会
32	高度ながん研究・がんチーム医療を実践できるがん専門薬剤師（研究者）養成コース	大谷　祐基	2013/7/19	新大阪ブリックビル	蛋白質発現量解析セミナー
33	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	地家　淳史	2013/6/20～2013/6/22	パシフィコ横浜	第18回日本緩和医療学会学術大会
34	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	袴田　華菜子	2013/6/20～2013/6/22	パシフィコ横浜	第18回日本緩和医療学会学術大会
35	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	華井　明子	2013/6/20～2013/6/22	パシフィコ横浜	第18回日本緩和医療学会学術大会
36	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	松岡　優	2013/6/20～2013/6/22	パシフィコ横浜	第18回日本緩和医療学会学術大会
37	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	華井　明子	2013/8/28～2013/8/31	仙台国際センター	第11回日本臨床腫瘍学会学術集会
38	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	松岡　優	2013/8/28～2013/8/31	仙台国際センター	第11回日本臨床腫瘍学会学術集会
39	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	袴田　華菜子	2013/8/28～2013/8/31	仙台国際センター	第11回日本臨床腫瘍学会学術集会
40	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	地家　淳史	2013/8/28～2013/8/31	仙台国際センター	第11回日本臨床腫瘍学会学術集会

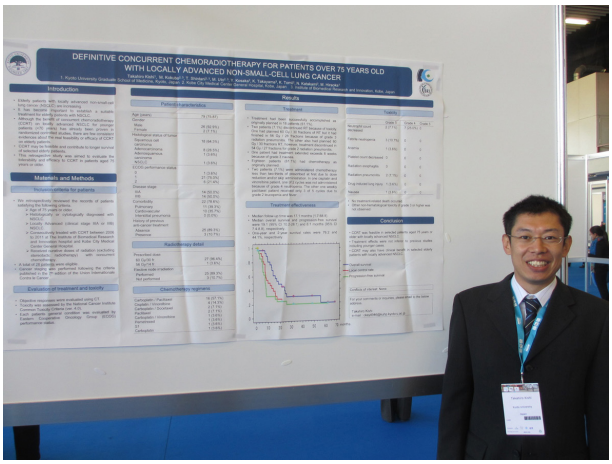
41	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	井上　実	2013/8/24～2013/8/25	グランディア芳泉	第34回夏季放射線腫瘍学セミナー
42	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	片桐　幸大	2013/8/24～2013/8/25	グランディア芳泉	第34回夏季放射線腫瘍学セミナー
43	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	石田　祐一	2013/8/24～2013/8/25	グランディア芳泉	第34回夏季放射線腫瘍学セミナー
44	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	平田　希美子	2013/8/24～2013/8/25	グランディア芳泉	第34回夏季放射線腫瘍学セミナー
45	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	渡邉　翼	2013/8/24～2013/8/25	グランディア芳泉	第34回夏季放射線腫瘍学セミナー
46	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	飯塚　裕介	2013/8/24～2013/8/25	グランディア芳泉	第34回夏季放射線腫瘍学セミナー
47	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	中島　良太	2013/8/24～2013/8/25	グランディア芳泉	第34回夏季放射線腫瘍学セミナー
48	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	中嶋　綾	2013/8/24～2013/8/25	グランディア芳泉	第34回夏季放射線腫瘍学セミナー
49	先端医学物理研究者養成コース	秋元　麻未	2013/8/24～2013/8/25	グランディア芳泉	第34回夏季放射線腫瘍学セミナー
50	先端医学物理研究者養成コース	小野　智博	2013/8/24～2013/8/25	グランディア芳泉	第34回夏季放射線腫瘍学セミナー
51	先端医学物理研究者養成コース	小野　智博	2013/12/7～2013/12/8	東京女子医大先端生命医科学研究所	第2回3Dｹﾞﾙ線量計研究会
52	先端医学物理研究者養成コース	伊良皆　拓	2013/12/14	順天堂大学本郷キャンパス	がんプロ順天堂医学物理インテンシブコース講義「画像工学」
53	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	華井　明子	2013/5/26	佛教大学二条キャンパス	第2回京都府作業療法学会「楽しむ作業」 自助具フォーラム
54	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	松岡　優	2013/7/29～2013/8/2	大阪府立成人病センター	がんリハビリテーション教育研修
55	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	平田　希美子	2013/6/27～2013/6/29	アクトシティ浜松　他	第21回日本乳癌学会学術総会
56	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	平田　希美子	2014/2/20～2014/2/22	ウェスティン都ホテル京都	京都乳癌コンセンサス会議(KBCCC)2014国際大会
57	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	平田　希美子	2014/2/22	学術総合センター	第27回日本高精度放射線外部照射研究会
58	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	菊池　理	2013/10/3～2013/10/5	パシフィコ横浜	第72回日本癌学会学術総会
59	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	菊池　理	2014/1/24	国立がんセンター	JCOG-PC1314食道がんグループ　プロトコールコンセプト討論会
60	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	田畑　阿美	2013/10/24～2013/10/26	国立京都国際会館	第51回日本癌治療学会学術集会
61	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	常盤　麻里子	2013/6/27～2013/6/29	アクトシティ浜松　他	第21回日本乳癌学会学術総会
62	先端医学物理研究者養成コース	髙宮　大義	2013/9/16～2013/9/18	大阪大学コンベンションセンター	第106回日本医学物理学会学術大会

63	先端医学物理研究者養成コース	秋元　麻未	2013/4/11～2013/4/14	パシフィコ横浜	第105回日本医学物理学会学術大会 第105回日本医学物理学会学術大会教育講演
64	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	新井　康之	2013/7/6～2013/7/7	パシフィコ横浜	日本臨床腫瘍学会　Best of ASCO 2013 in Japan
65	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	新井　康之	2014/1		平成25年度第2回造血細胞移植合同班会議（厚生労働科学研究）
66	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	天野　泰彰	2013/12/13～12/15	ウェスティン都ホテル京都	The 3rd Biennial Meeting of ASGO & the 55th Meeting of JSGO
67	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	吉岡　拓人	2013/12/16～12/18	東京ベイ舞浜ホテル	第4回JCA-AACR Special Joint Conference
68	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	吉岡　拓人	2013/10/3～2013/10/5	パシフィコ横浜	第72回日本癌学会学術総会
69	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	吉岡　拓人	2013/10/9～2013/10/13	グランドプリンスホテル新高輪　他	第21回日本消化器関連学会週間（JDDW）
70	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	松本　知訓	2013/12/16～12/18	東京ベイ舞浜ホテル	第4回JCA-AACR Special Joint Conference
71	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	袴田　華菜子	2013/5/24～2013/5/26	名古屋国際会議場	第48回日本理学療法学術大会
72	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	袴田　華菜子	2013/9/20～2013/9/21	大阪国際交流センター	第26回サイコオンコロジー学会総会
73	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	袴田　華菜子	1週間	大阪成人病センター	施設見学及び研修
74	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	坂元　宏匡	2013/10/3～2013/10/5	パシフィコ横浜	第72回日本癌学会学術総会
75	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	坂元　宏匡	2013/11/28～2013/11/30	福岡国際会議場 福岡サンパレス	第26回日本内視鏡外科学会総会
76	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	山ノ井　康二	2013/12/13～12/15	ウェスティン都ホテル京都	The 3rd Biennial Meeting of ASGO & the 55th Meeting of JSGO
77	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	山ノ井　康二	2013/7/19～2013/7/21	ホテル グランパシフィック LE DAIBA	第54回日本婦人科腫瘍学会学術集会
78	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	小木曽　聡	2013/4/11～2013/4/13	福岡国際会議場	第113回日本外科学会定期学術集会
79	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	小木曽　聡	2013/7/17～2013/7/19	シーガイアコンベンションセンター	第68回日本消化器外科学会総会
80	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	小木曽　聡			日本消化器外科学会教育講座（オンラインラーニング）
81	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	小木曽　聡	2014/3/3	国立京都国際会館	再生医療資格認定セミナー
82	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	松本　純明	2013/6/12～2013/6/14	国立京都国際会館	第17回日本分子標的治療学会
83	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	植弘　奈津恵	2013/6/27～2013/6/29	アクトシティ浜松　他	第21回日本乳癌学会学術総会
84	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	植弘　奈津恵	2013/5/30～2013/5/31	奈良県新公会堂	第7回日本エピジェネティクス研究会

85	高度ながん研究・がんチーム医療を実践できるがん専門薬剤師（研究者）養成コース	新家　遥	2013/5/10～2013/5/12	東京国際フォーラム	第56回日本腎臓学会学術総会
86	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	石田　祐一	2013/10/24～2013/10/26	国立京都国際会館	第51回日本癌治療学会学術集会
87	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	多久和　晴子	2014/3/8～2014/3/9	パシフィコ横浜	日本臨床腫瘍学会教育セミナー　Aセッション
88	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	池田　格	2013/10/24～2013/10/26	国立京都国際会館	第51回日本癌治療学会学術集会
89	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	堀川　直城	2013/12/13～12/15	ウェスティン都ホテル京都	The 3rd Biennial Meeting of ASGO & the 55th Meeting of JSGO
90	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	堀川　直城	2013/4/11～2013/4/14	パシフィコ横浜	第72回日本医学放射線学会総会
91	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	堀川　直城	2013/7/3～2013/7/5	ANAクラウンプラザホテル宇部	第17回日本がん免疫学会総会
92	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	堀川　直城	2013/10/24～2013/10/26	国立京都国際会館	第51回日本癌治療学会学術集会
93	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	飯塚 裕介	2013/10/24～2013/10/26	国立京都国際会館	第51回日本癌治療学会学術集会
94	先端医学物理研究者養成コース	伊良皆　拓	2013/9/16～2013/9/18	大阪大学コンベンションセンター	第106回日本医学物理学会学術大会
95	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	小島　史嗣	2013/4/6	神戸ポートピアホテル	第21回アジア胸部心臓血管外科学会
96	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	小島　史嗣	2013/5/9	名古屋国際会議場	第30回日本呼吸器外科学会総会
97	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	小島　史嗣	2013/7/3～2013/ 7/7	大阪国際会議場	35th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC 2013)
98	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	小島　史嗣	2013/11/28～2013/11/30	福岡国際会議場 福岡サンパレス	第26回日本内視鏡外科学会総会
99	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	中西　保貴	2013/10/24～2013/10/26	国立京都国際会館	第51回日本癌治療学会学術集会
100	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	犬塚　義	2013/10/9～2013/10/13	グランドプリンスホテル新高輪　他	第21回日本消化器関連学会週間（JDDW）
101	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	地家　淳史	2013/5/24～2013/5/26	名古屋国際会議場	第48回日本理学療法学術大会
102	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	地家　淳史	2013/11/2～2013/11/3	島根県立産業交流会館	第37回日本死の臨床研究会年次大会
103	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	地家　淳史	2013/7/29～2013/8/2	大阪成人病センターリハビリテーション科	施設見学及び研修
104	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	吉岡　正博	2013/6/8 2013/11/15	国立がん研究センター	H25年度第1回・第2回JCOG消化器内視鏡グループ班会議
105	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	河田　岳人	2013/6/3～2013/6/7	芝蘭会館	Kyoto T Cell Conference
106	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	河田　岳人	2013/5/16～2013/5/18	京都国立国際会館　他	第53回日本リンパ網内系学会総会

107	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	河田　岳人	2013/12/11～2013/12/13	幕張メッセ（千葉）	第42回日本免疫学会学術集会
108	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	河田　岳人	2013/10/11～2013/10/13	ロイトン札幌　他	第75回日本血液学会学術
109	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	多代　尚広	2013/12/13～2013/12/14	東北大学	第11回がんとハイポキシア研究会
110	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	上田　樹	2013/5/10～2013/5/12	京都国立国際会館	第85回日本消化器内視鏡学会総会
111	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	上田　樹	2013/10/9～2013/10/13	グランドプリンスホテル新高輪　他	第21回日本消化器関連学会週間（JDDW）
112	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	水口　綾	2013/10/9～2013/10/13	グランドプリンスホテル新高輪　他	第21回日本消化器関連学会週間（JDDW）
113	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	佐藤　元彦	2013/8/29～2013/9/1	仙台国際センター	第11回日本臨床腫瘍学会学術集会
114	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	佐藤　元彦	2013/6/12～2013/6/14	栃木県総合文化センター	第25回肝胆膵外科学会
合計　114　件					





資料１１

プロトコル作成への関与一覧

プロトコル作成への関与状況等	コース名・氏名
プロトコル作成中（治癒切除不能な結腸・直腸癌患者に対する薬物動態に基づく5-FU増量投与によるmFOLFOX6療法のfeasibility study）	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース 横山　顕礼
現在、「多剤無効または投与不可能進行再発食道癌に対する（未承認薬剤）の有効性および安全性に関する臨床試験」の計画書を作成中	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース 菊池　理
「標準的治療が無効となった切除不能または再発食道癌に対するS-1の有効性に関する後向き疫学研究」の臨床研究計画書を倫理審査委員会へ申請中	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース 玉置　将司
改良型PIVKA-Ⅱ測定試薬「NX-PVKA」及びAFP-L3%を用いた肝細胞癌手術症例の予後予測における有用性評価	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース 佐藤　元彦
分枝型膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）の前向き追跡調査（多施設共同研究）	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース 西川　義浩
①「膵癌術前化学療法施行例で閉塞性黄疸を呈する症例に対する術前ドレナージとしてのPartially-covered WallFlex stentの有用性を検討する多施設共同前向き観察研究 ② Biliary partially-covered Wallflex for bridge to surgery in patients with pancreatic cancer receiving neo-adjuvant chemotherapy. (BTS-NAC study)	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース 津田　喬之
胸腔鏡を用いた胸部食道癌根治術における頸部郭清の意義	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース 錦織　達人
胃癌におけるHER関連分子標的薬の耐性機序とbiomarker検索に関する研究	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース 出口　靖記
①乳がん微小環境形成に関わる分子生物学的機序の生体試料を用いた探索研究(関与） ②光超音波マンモグラフィを用いた、光音響と超音波エコーの融合画像による乳がん診断法の開発に関する探索的臨床研究（関与）	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース 常盤　麻里子
「血中循環乳癌細胞に対するエピジェネティクス・マルチマーカーの実用化開発研究」のプロトコール作成・改訂	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース 植弘　奈津恵
乳癌呼気研究 非触知乳癌におけるRFIDtagの有用性に関する研究	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース 西江　万梨子
乳癌化学療法に伴う便秘に対する予防介入による効果の探索的研究	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース 華井　明子
寛解導入療法期における血液がん患者の日常生活動作遂行状況及び身体活動量調査	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース 地家　淳史
抗がん剤誘発末梢神経障害による上肢機能、ADLおよびQOLの変化に関する前向き観察研究（E 1571）のプロトコル変更・修正	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース 田畑　阿美

①婦人科悪性腫瘍に対するセンチネルリンパ節の術中同定法ならびに微小転移診断法の確立と縮小手術への応用 ②婦人科癌におけるDNAメチル化および遺伝子発現の網羅的解析 ③プラチナ抵抗性再発・進行卵巣癌に対する抗PD-1抗体を用いた免疫療法に関する第II相試験 ④婦人科がんにおけるカルボプラチンを含む癌化学療法レジメンに対するアプレピタント投与についての臨床第II相試験	新しい婦人科がん治療の開発を担う 研究者養成コース 山ノ井　康二
①　G531　多様な臨床情報を考慮に入れた婦人科悪性腫瘍患者のオミックス解析（全ゲノム・全トランスクリプトーム・プロテオーム・メタボローム解析）による個別化治療の探索 ②　G532　次世代がん研究シーズ戦略的育成プログラム：がん臨床検体の統合的ゲノム・エピゲノム解析	新しい婦人科がん治療の開発を担う 研究者養成コース 村上　隆介
プラチナ抵抗性再発・進行卵巣癌に対するONO-4538を用いた免疫療法に関する第II相試験	新しい婦人科がん治療の開発を担う 研究者養成コース 天野　泰彰
関与した臨床研究: 動体追尾照射のための肺癌動体解析、動態追尾照射のための肝臓癌動態解析、 動態追尾照射のための膵臓癌動態解析	先端医学物理研究者養成コース 椋本　宜学
乳房温存療法における加速部分乳房照射の安全性と有効性評価のための臨床研究	先端的放射線治療開発を担う 研究者養成コース 井上　実
新規照射法を用いた線量分布改善に関する検討（疫学研究）　2013年6月提出　承認済み	先端的放射線治療開発を担う 研究者養成コース 小倉　健吾
間質性肺疾患を有する患者に対する肺定位放射線治療の治療成績および有害事象に関する検討	先端的放射線治療開発を担う 研究者養成コース 植木　奈美
前立腺癌に対するIMRT併用中分割放射線治療の安全性と有効性評価のための臨床試験	先端的放射線治療開発を担う 研究者養成コース 池田　格
①「上腹部臓器癌に対する動体追尾照射における精度研究」 ②「早期肺癌に対する体幹部放射線治療におけるPET,MRIによる効果推定・予後予測に関する研究」 ③「肺定位放射線治療における動体追尾照射の有効性と安全性評価のための臨床研究」 ④「臨床的に原発性肺癌と診断された病理組織診断のつかない小型肺腫瘍に対する 体幹部定位放射線治療の前向き臨床試験」	先端的放射線治療開発を担う 研究者養成コース 飯塚 裕介
乳房温存療法における加速部分乳房照射法の安全性と有効性評価のための臨床研究	先端的放射線治療開発を担う 研究者養成コース 平田　希美子
合計　33件	

資料１２

国内学会、和文誌への論文発表一覧

1:
第 11 回日本臨床腫瘍学会学術集会、外来化学療法を受ける肺がん患者の身体活動量調査、2013 年 8 月 31 日　松岡　優

2:
日本産婦人科学会　平成 25 年 5 月 10 日　口演　卵巣癌のパスウェイ解析と多様な臨床情報を経時的に検証する個別化治療への試み　村上　隆介

3:
平成 25 年 10 月 5 日　日本癌学会　ポスター　Prediction of taxane and platinum sensitivity based on gene expression profile in ovarian cancer　村上　隆介

4:
平成 25 年 11 月 3 日　日本臨床細胞学会　シンポジウム発表　臨床に役立つ子宮頸部細胞診　村上　隆介

5:
第 11 回日本臨床腫瘍学会学術集会
①食道癌化学療法（5FU/Cisplatin 及び 5FU/Nedaplatin）における低 Na 血症の解析　尾崎　由直

6:
②大腸癌化学療法における NK1 拮抗薬(アプレピタント)の有効性について
2013 年 8 月　尾崎　由直

7:
有馬浩史、北野俊行、前田猛、錦織桃子、近藤忠一、門脇則光、高折晃史. びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫における免疫グロブリン重鎖アイソタイプの予後因子としての検討. 第 75 回日本血液学会学術集会. 2013 年 10 月　有馬　浩史

8:
日本癌学会：平成 25 年 10 月 3 日～5 日
演題名：「Establishment of a novel 5-fluorouracil-resistant tumorigenic esophageal squamous cell

carcinoma cell line」 菊池　理

9:
日本臨床腫瘍学会（平成 25 年 8 月 29 日～31 日＠仙台）演題名：SAFETY ANALYSIS OF SORAFENIB IN ELDERLY PATIENTS WITH UNRESECTABLE ADVANCED HEPATOCELLULAR CARCINOMA　後藤　知之

10:
第 51 回日本癌治療学会学術集会、オキサリプラチン初回投与後の抗がん剤誘発末梢神経障害に関する調査、（2013 年 10 月、京都） 田畑　阿美

11:
①近畿外科学会　口演発表「基底様（basal-like)乳がんの術前化学療法におけるドセタキセル及びシスプラチン併用レジメンの検討」2013.06.22　鳥井　雅恵

12:
②第 21 回日本乳癌学会学術総会 「基底様（basal-like）乳癌における術前化学療法の検討」2013.06.27③第 1 回光超音波画像研究会　口演発表「光超音波を用いた乳房血管イメージングの報告」2013.08.02　鳥井　雅恵

13:
日本放射線腫瘍学会第 26 回学術大会、Vero4DRT(MHI-TM2000)を用いた追尾照射における予測モデルのベースラインドリフト補正、10/18、2013　秋元　麻未

14:
第 105 回　日本医学物理学会学術大会、"Mechanical accuracy of dynamic tumor-tracking during arc irradiation with gimbaled x-ray head"、2013 年 4 月 11 日（金）～14 日（日） 小野　智博

15:
日本放射線腫瘍学会第 26 回学術大会、"Vero4DRT(MHI-TM2000)のジンバル照射ヘッドによる照射野拡大法"、2013 年 10 月 18 日（金）～20 日（日） 小野　智博

16:
第 11 回日本臨床腫瘍学会学術集会，リツキシマブ投与後の遅発性好中球減少症に関する後方視的解析，2013 年 8 月 29 日　新井　康之

17:
第 75 回日本血液学会学術集会, 同種造血幹細胞移植後の低ガンマグロブリン血症に関する後方視的解析, 2013 年 10 月 13 日 新井 康之

18:
第 36 回日本造血細胞移植学会総会, ミコフェノール酸モフェチル(MMF)の臍帯血移植における使用経験, 2014 年 3 月 8 日 新井 康之

19:
2013.5.10.-12. 第65回日本産婦人科学会学術集会 ”卵巣明細胞腺癌において、転写因子 HNF1βはアミノ酸輸送体を介して腫瘍性代謝を制御し、酸化ストレス耐性に寄与する”
天野 泰彰

20:
2013.7.19.-21. 第54回日本婦人科腫瘍学会学術集会 ”転写因子 HNF1βは、アミノ酸輸送体 rBAT を介して、卵巣明細胞腺癌の酸化ストレス耐性に寄与する” 天野 泰彰

21:
2013.10.3.-5. 第72回日本癌学会学術集会 ”HNF1β contributes to the ROS resistance of ovarian clear cell carcinoma, modifying its metabolic process” 天野 泰彰

22:
2014.1.18.-19.【がんプロ】第 2 回国際シンポジウム ”HNF1β confers resistance to oxidative stress of ovarian clear cell carcinoma” 天野 泰彰

23:
第 19 回癌治療増感研究会「HIF-1 陰性低酸素がん細胞は S 期細胞周期移行により放射線抵抗性を獲得する」 2013 年 6 月 8 日 井上 実

24:
第 21 回日本乳癌学会学術総会「3 次元原体照射を用いた加速部分乳房照射の急性期有害事象の評価」 2013 年 6 月 28 日 井上 実

25:
第 51 回日本癌治療学会学術集会「3 次元原体照射を用いた加速部分乳房照射の急性期有害事象の評価」 2013 年 10 月 26 日 井上 実

26:
学会発表　第 72 回日本癌学会学術総会　2013 年 10 月 3 日　演題名：腎細胞癌骨転移における PGE2 受容体 EP4 の役割　坂元　宏匡

27:
第 65 回日本産科婦人科学会学術集会、Investigation of tumor suppressor genes in ovarian cancer based on a functional genomics approach. 2013.5.12 山ノ井　康二

28:
第 54 回日本婦人科腫瘍学会学術集会、機能ゲノミクスアプローチによる、卵巣癌における腫瘍抑制遺伝子の探索、2013.7.21. 山ノ井　康二

29:
第 72 回日本癌学会学術総会、Investigation of tumor suppressor genes in ovarian cancer based on a functional genomics approach. 2013.10.5　山ノ井　康二

30:
医療薬学フォーラム 2013、EGFR 阻害薬の毒性発現と小胞体ストレスの関与、2013 年 7 月 20 日　小山　智志

31:
日本外科学会　H25.04.12　Institut Mutualiste Montsouris における基本的手技　～完全腹腔鏡下 Major hepatectomy の安全な導入へ向けて～　　小木曾　聡

32:
日本消化器外科学会　H25.07　Posterior approach を用いた腹腔鏡(補助)下膵頭十二指腸切除術　小木曾　聡

33:
第 21 回日本乳癌学会総会「EMT/MET レポーターを用いた網羅的乳癌幹細胞標的遺伝子同定の試み」 2013 年 6 月　松本　純明

34:
がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動」若手支援委員会　がん若手ワークショップ
「EMT/MET レポーターを用いた網羅的乳癌幹細胞標的遺伝子同定の試み」 2013 年 9 月
松本　純明

35:
放射線腫瘍学会、Vero4DRT を用いた動体追尾肺定位放射線治療の初期治療成績、2013 年 10 月 28 日　植木　奈美

36:
日本癌治療学会、Vero4DRT を用いた動体追尾肺定位放射線治療の初期治療成績、2013 年 10 月 24 日　植木　奈美

37:
日本肺癌学会、間質性疾患の画像所見を有する患者における体幹部定位放射線治療、2013 年 11 月 21 日　植木　奈美

38:
学会名: 第 56 回日本腎臓学会学術総会　発表演題名:アドリアマイシン腎症ラットにおける H+/有機カチオンアンチポータ MATE1 の機能変動　共著者名: 冨田　恵里、新家　遥、田村　友香、千代　健介、松原　和夫、増田　智先　発表年月日: 2013 年 5 月 10 日　新家　遥

39:
第 21 回日本乳癌学会学術総会、肉芽腫性乳腺炎に対する抗アレルギー療法についての検討、2013/06/27　多久和　晴子

40:
第 11 回日本臨床腫瘍学会学術集会、家族性乳癌に対する至適治療法に向けての考察、2013/08/31　多久和　晴子

41:
第 26 回日本放射線腫瘍学会　”前立腺癌腹臥位シェル固定下 IMRT における呼吸性移動の影響”2013 年 10 月　池田　格

42:
学会名:日本産科婦人科学会学術集会、演題名:子宮頸癌における TGF-beta の役割　発表年月日:平成 25 年 5 月　奈倉　道和

43:
学会名:日本婦人科がん分子標的研究会　演題名:子宮頸癌は間質細胞との接触による

TGF-beta 活性化によって浸潤能を亢進する　発表年月：平成 25 年 7 月　奈倉　道和

44：
学会名：日本癌学会　演題名：Interaction of Uterine Cervical Cancer Cells with Stromal Cells Facilitates Cancer Invasion through TGF-beta Activation　発表年月：平成 25 年 10 月
奈倉　道和

45：
日本産婦人科学会　日時：2013/5/11　演題名：A potent clinical impact of UGT1A1 polymorphism in patients of cervical cancer　堀川　直城

46：
日本癌学会　日時：2013/10/3　演題名：Genomic profile may predicts the efficacy of Neo-adjuvant chemotherapy for cervical cancer patients　堀川　直城

47：
2013/11/8　日本消化器病学会雑誌「胆嚢胃瘻の経過観察中に胆嚢癌の合併を認めた 1 例」 掲載日未定　木村　佳人

48：
がんとハイポキシア研究会、"Ubiquitin C-terminal hydrolase-L1 (UCH-L1) provides a therapeutic opportunity to suppress cancer metastasis as a deubiquitinating enzyme for HIF-1a" 2013.12.14
後藤　容子

49：
日本医学放射線学会総会/ 非小細胞肺癌に対する定位放射線治療の予後予測における拡散強調 MRI と FDG-PET の検討/ 2013.4　飯塚 裕介

50：
定位放射線治療学会/ 肝腫瘍に対するリアルタイムモニタリング下動体追尾照射の初期経験/ 2013.5　飯塚 裕介

51：
日本放射線腫瘍学会/ 縦隔に近接した早期肺癌に対する体幹部定位放射線治療/ 2013.11
飯塚 裕介

52:
(論文)肝胆膵/ 転移性肝癌に対する放射線治療の現状と今後 2013.8　飯塚 裕介

53:
(論文)定位放射線治療/ 肝腫瘍に対するリアルタイムモニタリング下動体追尾照射の初期経験 / 2014.1 飯塚 裕介

54:
放射線検出器とその応用・フラットパネル検出器を用いたエネルギー分解コンピュータ断層撮影法の臨床応用の可能性・2014 年 1 月 28-30 日, 伊良皆 拓

55:
応用物理学会・フラットパネル検出器を用いたエネルギー分解コンピュータ断層撮影法の原理検証・2014 年 3 月 17-20 日 伊良皆 拓

56:
原著論文 Kojima F, Sato T, Takahata H, Okada M, Sugiura T, Oshiro O, Date H, Nakamura T.
A novel surgical marking system for small peripheral lung nodules based on radio frequency identification technology: Feasibility study in a canine model.
J Thorac Cardiovasc Surg. 2013 Jul 13. doi: 10.1016/j.jtcvs.2013.05.048. [Epub ahead of print]
小島 史嗣

57:
共著論文 2-1 高畑裕美、岡田実、杉浦忠男、佐藤寿彦、小島史嗣、井村誠孝、黒田嘉宏, 大城理, “極小 RFID タグを用いた内視鏡手術支援用微小腫瘍マーキングシステム”,生体医工学シンポジウ ム(JBMBS 2012)講演予稿集, pp.497-499, Sep 2012(豊中) 2-2 高畑裕美、小島史嗣、杉浦忠男、岡田実、佐藤寿彦、角田茂、中村達雄、伊達洋至、大城理 RFID を用いた消化管用クリップの位置特定～イヌ食道における検討～ 日本コンピュータ外科学会誌 in press
小島 史嗣

58:
学会・研究会 3-1 Kojima F, Sato T, Takahata H, Okada M, Sugiura T, Oshiro O, Date H, Nakamura T. In-Vivo Localization of Micro Radio Frequency Identification Tag: Concept Proof of Novel Surgical Marking System for Small Peripheral Lung Nodule
小島 史嗣

59:
第21回アジア胸部心臓血管外科学会（2013年4月6日、神戸） 3-2 小島史嗣、佐藤寿彦、高畑裕美、杉浦忠男、岡田実、大城理、伊達洋至、中村達雄 超小型無線タグを用いた微小病変マーキングシステムの開発～疑似病変切除モデルによる実証～ 第30回日本呼吸器外科学会総会（2013年5月9日、名古屋） 小島 史嗣

60::
3-3 Takahata H, Sugiura T, Kojima F, Sato T, Okada M, Oshiro O Impact of Transmission Power Variation to the Position Estimation Error Performance of RFID-tag Assisted Surgery Support System . International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society(EMBC'2013), SaB08-15, Osaka Japan, July 2013. 小島 史嗣

61::
3-4 小島史嗣、佐藤寿彦、角田茂、伊達洋至、中村達雄 近距離無線通信技術を応用した新たな手術用マーキングシステムの開発
第26回日本内視鏡外科学会総会 パネルディスカッション13 先端技術の内視鏡外科への応用（2013年11月29日、福岡） 小島 史嗣

62:
第 42 回日本免疫学会 workshop 5、演題名 CD25high regulatory T cell migrates from colon to draining lymph node in the recovery phase of DSS colitis 中西 保貴

63:
最新医学 2013-3 肝移植後 de novo B 型肝炎発表 犬塚 義

64:
松谷悠佑, 大坪洋輔, 堤香織, 山崎理衣, 佐々木恒平, 伊達広行, 「放射線による DNA 損傷の定量的モデル解析と生物学的効果比」, 日本放射線影響学会第 56 回大会, 青森, 2013 年 10 月 18 日-20 日 佐々木 恒平

65:
佐々木恒平, 松谷悠佑, 堤香織, 伊藤秋男, 伊達広行,「コンフルエント単層細胞環境における放射線誘発バイスタンダー効果のシミュレーション」, 日本放射線影響学会第 56 回大会, 青森, 2013 年 10 月 18 日-20 日 佐々木 恒平

66:

吉井勇治, 佐々木恒平, 三浦貴智, 松谷悠佑, 伊達広行,「モンテカルロ法を用いた 28kVpX 線の生物学的効果比の推定」, 日本放射線影響学会第 56 回大会, 青森, 2013 年 10 月 18 日-20 日. 佐々木 恒平

67:
松谷悠佑, 大坪洋輔, 堤香織, 山崎理衣, 佐々木恒平, 伊達広行,「放射線による DNA 損傷の定量的モデル解析と生物学的効果比」, 日本放射線影響学会第 56 回大会, 青森, 2013 年 10 月 18 日-20 日. 佐々木 恒平

68:
第 72 回日本癌学会学術総会　FRET バイオセンサーを発現したトランスジェニックマウス小腸の二光子顕微鏡によるライブイメージング　平成 25 年 10 月 5 日　奥知　慶久

69:
日本リンパ網内系学会　2013 年 5 月　薬剤性心腎機能障害と CMV 網膜炎を伴った難治性濾胞性リンパ腫に対し臍帯血ミニ移植を実施し寛解を維持している一例　河田　岳人

70::
日本血液学会　2013 年 10 月　Successful allo-SCT following mogamulizumab for a patient with refractory ATL　河田　岳人

71:
第 22 回　日本定位放射線治療学会　2012/5/25@三重　ホテル花水木　口演発表
Vero4DRT を用いた頭蓋底腫瘍に対する 3 次元回転原体照射線量分布の検討
Dosimetric comparison of three-dimensional dynamic conformal arc radiotherapy using Vero4DRT for skull-base tumors　小倉健吾、溝脇尚志、中村太祐、坂中克行、平岡真寛　京都大学大学院医学研究科　放射線腫瘍学・画像応用治療学　小倉　健吾

72:
第72回　日本癌学会学術総会（低酸素、低グルコース下での c-MYC 分解のメカニズム、2013 年 10 月 4 日）　多代　尚広

73:
癌学会総会(2013 年 10 月 5 日、横浜) SIX1 は治療抵抗性食道癌症例において TGFB シグナル経路を介したがん幹細胞の自己複製を促進している　玉置将司、西村公男、三梨桂子、小松崎理絵、千脇史子、吉田輝彦、坂井義治、武藤学、青柳一彦、佐々木博己　　玉置　将司

74:
第 35 回日本バイオマテリアル学会大会　ゼラチンハイドロゲル粒子と脂肪前駆細胞からなる凝集体作製　2013 年 11 月 26 日　有光　竜樹

75:
第 13 回日本再生医療学会総会　ゼラチンハイドロゲル粒子と脂肪前駆細胞からなる凝集体作製　2014 年 3 月 5 日予定　　有光　竜樹

76:
日本癌学会学術総会　″HIF-1αis upregulated after irradiation in a radiation resistant primary cancer cells″　平成 25 年 10 月　中嶋　綾

77:
がんとハイポキシア研究会″子宮頸部小細胞癌-初代培養細胞における放射線照射後の HIF-1α発現上昇は放射線抵抗性に関与する″　平成 25 年 12 月　　中嶋　綾

78:
クリニカルオンコロジーガイド「乳癌薬物療法・経口 FU 剤」 2013 年 9 月　河口　浩介

77:
臨床腫瘍学会（JSMO）Therapeutic drug monitoring of Docetaxel for a living donor liver transplantation recipient　　2013 年 8 月　河口　浩介

79:
日本外科学会　H25.04.12　Institut Mutualiste Montsouris における基本的手技　～完全腹腔鏡下 Major hepatectomy の安全な導入へ向けて～　小木曾　聡

80::
日本消化器外科学会　H25.07　Posterior approach を用いた腹腔鏡(補助)下膵頭十二指腸切除術　小木曾　聡

25 年度外部評価評価結果表

採点は、A:優、B:良、C:可、D:やや不十分、E:不可の5段階評価

	項目番号	達　成　目　標	評　価　覧（ABCDEで評価下さい）		
			評価者1	評価者2	評価者3
達成目標 1 全グループ共通	1	各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組みはなされているか	B	A	A
	2	がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか	B	A	B
	3	コース履修者の満足度を満たすための取り組みがなされているか	B	A	B
	4	がんに特化した新講座の設置計画は計画どおり進められているか講座の活動状況は	A	A	A
	5	教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数	A	B	A
	6	外部委員による外部評価を実施し、PDCA サイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか	A	A	A
達成目標 2 全グループ共通	7	医療チーム（放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等）の整備数、24年度の新たな整備数	A	A	A
	8	多職種が共同で参加できるキャンサーボード等の整備数、24年度の新たな導入数	A	A	B
	9	医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組実績	B	A	C
	10	コース履修者の医療チーム、キャンサーボードへの参加人数、開催数、期間等	B	B	B
	11	院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績	A	A	A
	12	地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数	B	A	A

	13	社会への情報発信の取組実績（一般向け講演会の開催回数・参加者数）	B	A	B
	14	本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか	B	A	A
達成目標 3 国際交流	15	コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数	B	A	B
	16	コース履修者の先進的な海外研究機関等への研修派遣数、国際学会等への参加者数	B	A	A
	17	国際交流プログラムの実施数	A	A	A
	18	海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数	A	A	B
	19	コース履修者が海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み	B	A	A
達成目標 3 連携大学間 職種間連携	20	連携5大学による「合同フォーラム」の開催、 24年度の取組み参加状況	B	A	A
	21	連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数	B	A	A
	22	連携5大学　コース履修者の　e－learning　受講登録率	A	B	B
	23	新たな　e－learning　講義科目の提供の取組みについて	A	B	B
	24	医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組実績	B	A	A
達成目標 3 教育改革	25	がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数	A	A	B
	26	多職種連携教育の実施件数・参加者数、 多職種連携教育推進の取組み状況	B	A	A
	27	がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況	B	A	B
	28	各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進	A	B	B
達成目標 3 地域貢献	29	地域医療機関等と連携した地域医療貢献への取組件数	B	A	A
	30	市民公開講座等一般向け講演会の開催数	A	A	A

	31	インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況	B	B	B
	32	本事業概要等の発行、ホームページの充実への取組み状況	B	A	A
	33	県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて	B	A	A
	34	ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み	B	B	B
	35	テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み	B	B	B
	36	がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み	B	B	A
達成目標 3 研究者養成	37	コース履修者が関与したプロトコル（臨床研究実施計画書等）作成件数	B	B	A
	38	国際学会、英文誌への研究論文発表数	B	A	A
	39	学会への研究論文の発表推進への取組み	A	A	A
	40	先進的な海外研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加数	B	A	A
	41	がんプロ大学院生が国内外学会、研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み状況	A	A	A
	42	がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況	A	A	A
	43	新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況	A	A	A

25 年度外部評価講評

（評価者１） 全体的な評価、今後の在り方等について
やむを得ない面もあるのかもしれないが、京大と他大学の取り組みとの間に多少の温度差が感じられる。新たながん医療分野の開拓推進に向けた取り組みの今後に期待したい。とくに PD-1 阻害剤という恰好の研究材料が身近にあるので、がん免疫分野の新展開への取り組みに期待したい。
（評価者2） 全体的な評価、今後の在り方等について
本事業は、京都大学を主幹とする 5 大学がお互いに連携協力しながら、先端的がん研究者および地域がん医療に貢献するがん専門医療人の養成を行う取組である。 平成 25 年度も引き続き順調に全体的に事業が遂行されており、A評価は平成 24 年度の 14 項目から 33 項目へと増加した。とくに「ソウル大学合同教育セミナー」を含む国際交流と研究者養成の取り組みを高く評価した。一方で、平成 25 年度の受け入れ数は全体としては目標を上回っているものの、21 コースのうち 9 コースで目標数に達しておらず、これらのコースでは入学者を増やす取組みがさらに必要である。また、セミナーやカンファレンスへの参加はFDとしては不十分であるので改善を期待したい。前回評価と同様、京都大学以外の大学の取組みにはまだ不十分と言わざるを得ない点があり、とくに目立つ項目についてはB評価とした（項目10、22－23、31、34－36）。 今後も、京都大学のリーダーシップおよび大学間の交流と連携によって、本事業のアクティビティをさらに向上させて欲しい。
（評価者3） 全体的な評価、今後の在り方等について
①学際的な取り組みに進捗がみられる他、本プランの着実な進行がうかがわれるが、一部に目標設定値が厳しいと思われるもの（25、26 等）や京都大学のみでほぼクリアしているもの（37、38 等）があり、グループ内の中間評価等により目標値の上方あるいは下方修正を加えた方が良いように思われる。 ②取り組み状況における大学間差はある程度は許容されるべきであるが、京都大学以外の大学の実績について無記載の項目が目立つ（15、27、28、31、35、37、38）。自大学での取り組みが困難な課題については、グループ内で協議し、共同開催や講師派遣等の手段を講じることも一法と思われる。 ③地域医療（機関）との連携については、人材育成を主眼とする本プロジェクトの目的からみて、研修会や講習会の開催件数で評価しようとする方向性は理解できるが、さらに踏み込んで、例えば、地域における在宅緩和ケアの実施率や検診受診率の向上といった、より現場への介入を促す形での目標設定もあり得るように思われる。 ④いずれにせよ、前年度に比し実績はあきらかに向上している。更なる進展を期待したい。